病院年報

第五十六号（二〇二〇年）

川崎市立川崎病院

病院年報

第　56　号

令和２年度版

川崎市立　川　崎　病　院

目　次

川崎市立川崎病院基本理念 ‥1
病院長のあいさつ・刊行のことば ‥‥‥‥‥‥2
病院長日誌 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥5
位置及び案内 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥8

Ⅰ　概　要

1　施設基準一覧 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 13
2　沿　革 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 17
3　機　構 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 25
4　人事の変遷 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 27
5　診療科名簿 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 30
6　病院案内図 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 35
7　定例院内会議 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 37

Ⅱ　業務概要

1　内　科 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 40
2　小児科 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 46
3　新生児内科 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 47
4　精神科 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 47
5　外　科 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 49
6　呼吸器外科 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 51
7　心臓血管外科 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 52
8　脳神経外科 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 52
9　整形外科 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 53
10　リハビリテーション科 ‥‥‥‥ 55
11　形成外科 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 57
12　皮膚科 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 57
13　泌尿器科 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 58
14　産　科・婦人科 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 58
15　眼　科 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 59
16　耳鼻咽喉科 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 60
17　歯科口腔外科 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 61
18　放射線診断科・放射線治療科 ‥ 62
19　病理診断科 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 72
20　麻酔科及びＭＥセンター ‥‥ 73
21　救命救急センター ‥‥‥‥‥‥‥ 74
22　高度脳神経治療センター ‥‥ 77
23　感染対策室 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 78
24　医療安全管理室 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 81
25　ＤＭＡＴ活動 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 83
26　看護部 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 85
27　薬剤部 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 89
28　検査科 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 97
29　食養科 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 104
30　患者総合サポートセンター 109

Ⅲ　事務部門概要

1　医事課 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 121
2　診療統計 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 122
3　手術統計 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 132
4　主要医療機器・備品 ‥‥‥‥ 144
5　主な委託業務 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 162
6　図書室 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 163

Ⅳ　経理概要

1　年度別経営収支状況　・・・・・・・ 168
2　収入・支出状況　・・・・・・・・・・・ 169
3　年度別一般会計繰入金及び出資金・・ 171
4　比較貸借対照表　・・・・・・・・・・・ 171
5　主な経営分析　・・・・・・・・・・・・・ 173

Ⅴ　研究・研修及び実習・講師派遣

1　診療関係研究　・・・・・・・・・・・・・ 176
2　院内研究交流会　・・・・・・・・・・・ 178
3　看護研究発表会　・・・・・・・・・・・ 182
4　研　修　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 185
5　院外看護活動　・・・・・・・・・・・・・ 187
6　各科別実習状況報告　・・・・・・・ 189
7　講師派遣　・・・・・・・・・・・・・・・・ 191

Ⅵ　臨床研修概要

1　経　緯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 194
2　初期臨床研修医プログラム　・ 199

Ⅶ　業績目録

科別業績統計・・・・・・・・・・・・・・・ 206
1　当院における学位取得者　・・・ 208
2　賞　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 208
3　研究助成及び共同研究　・・・・・ 208
4　書籍　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 209
5　書籍の章　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 209
6　論　文　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 209
7　学会・研究会　・・・・・・・・・・・・・ 219
8　講演会等　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 226
9　市民対象イベント（当院開催）　232

川崎市立川崎病院基本理念

私たちは、地域の基幹病院として、他の医療機関と連携し、「病気」でなく「病人」を診る心を大切に、安全安心で質の高い医療を、患者の皆さまとともに考え、実践し、健康と福祉の向上を通じて地域社会の発展に貢献することを目指します。

病院運営方針

基本理念を踏まえ、自治体病院の使命と役割を果たし、市民に信頼される安全安心で質の高い医療を継続的かつ効率的に提供していくために、次の方針を定めます。

1　患者さんの声を尊重し、高い倫理観をもって医療にあたります。
2　地域の基幹病院として、地域の医療ニーズに迅速かつ柔軟に対応できる、良質な急性期医療および専門性の高い医療を提供します。
3　救急医療、がん診療、周産期医療、災害時医療の充実を図ります。
4　地域の医療機関との連携を大切にします。
5　教育、研修を推進し、職員の知識、技術の向上と人材育成に努めます。
6　安全管理の向上に努めます。
7　健全な経営基盤の確立に努めます。
8　職員の経営意識の高揚を図るとともに、働きがいのある職場づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は、患者さんの医療にかかわる、次の権利を尊重します。

1　生命の尊厳と、人格を尊重した医療を受ける権利があります。
2　安全安心で質の高い医療を平等に受ける権利があります。
3　ご自身の病気や治療について知る権利を持ち、わかりやすく説明を受け、希望や意見を述べる権利があります。なお、病名や予後について知りたくない場合は、そのお気持ちを尊重します。
4　ご自身が受ける医療を自らの意思で選択あるいは拒否する権利があります。
5　ご希望により、診療のいかなる段階においても、他の医師および他の医療機関の医師の意見（セカンド･オピニオン）を求める権利があります。
6　診療上の個人情報は厳重に保護され、その秘密は守られます。

新病院長のあいさつ

川崎市立川崎病院
第 18 代　病院長
野 﨑　　博 之

令和２年度版の川崎市立川崎病院年報を刊行するにあたり、僭越ながら令和３年９月に病院長に就任いたしましたので、一言ご挨拶申し上げます。

令和２年度は新型コロナウイルス感染症が世界中で蔓延し、パンデミックとして日本が翻弄された１年でした。当院も金井前病院長の指導のもと、本感染症への対応にあたった１年となりました。幸い院内感染やクラスターを発生させなかったことは、職員一人一人の努力の賜と感じております。また病院職員一丸となり救急医療などの日々の診療を止めることなく病院機能を可能な限り維持し、この感染症診療と両立をはかれたことも誇らしいと感じております。

過去の年報を振り返りますと、諸先輩方が川崎病院発展のために残された数多くの足跡が、当院の歴史とともに記録されております。Edward Hallett Carr はその著書「歴史とは何か」のなかで、歴史の全貌を漏れなく記述することは不可能で、執筆者の知見や価値観、または時代的背景、執筆者の力量などの制約が加わり、それらフィルターを通じた事象に偏ってしまい、真実がゆがんでしまうことを指摘しております。過去の事実を掘り起こし、過去を読み取り、歴史を学ぶことによって、今後の社会を生きぬく「智慧」を見つけることが重要です。そのために真実がゆがまないように、本年報ではできる限り事実を幅広く記載し、後日の評価のための資料としての意味のあるものにしたいと考えております。

この年報は、職員一人一人が頑張った１年の集大成です。過去の歴史に学び、更に質の高い医療の提供を目指すとともに、より地域に密着した病院運営に努めたいものです。引き続き、川崎病院へのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第１７代病院長　刊行のことば

川崎市立川崎病院
第 17 代　病院長
金 井　　歳 雄

市立川崎病院年報令和２(2020)年度版の刊行にあたり、関係職員に感謝と祝意をお示ししたいと思います。ご苦労様でした。ありがとうございました。そして、2020 年度ですが本当に大変な年でしたね。

人類史上、歴史に残る新型コロナ感染症 Covid-19 パンデミックに日本中が翻弄された１年でした。川崎病院はこの事態に対して素晴らしい対応をしたことをまず、誇りを持って報告したいと思います。私たちは頑張りました。

年報巻頭言では、当院の素晴らしかったことをまとめてお伝えします。経時的な記録は病院長日誌、詳細は各部署の記録を参照ください。

・公立病院・感染症指定医療機関としてのプライドを職員が示してくれたこと。
・データを集め、自分たちの判断で病院の方針を決めたこと。
・状況に合わせて対応病床数のシフトアップ・シフトダウンを適時に行ったこと。
・職員が一丸となって長期戦に粘りつよく対応してくれたこと。
・倒れてもただでは起きない精神を示してくれたこと。
・重症例に積極的に対応し、県下３位の症例数の実績を示してくれたこと。
・“感染してても感染させず”院内感染やクラスターを発生させなかったこと。
・今何が重要か、通常業務分担の枠を超えて活動してくれたこと。

羽田空港検疫からの患者受け入れ、高齢者施設への感染管理出前講座、LAMP 法の技師による検体採取を毎日実施、そして院外地域医療従事者 6200 名ワクチン接種。

・感染管理をきちんと行えば、会議は安全に実施できることを示したこと。

コロナ禍のため、できなかったこともあります。医師の働き方改革です。これに逆行するようなお願いもしました。人類が危機的な状況に陥っているのに、医師に働き方改革もないでしょう？　次年度以降に頑張ります。

この年報は、現場の職員一人一人が頑張った１年の集大成です。何かの参考になれば幸いです。この実績を支えていただいたのは、地域医療を共に担う医療機関の皆様です。ありがとうございました。今後もよろしくお願いいたします。そして、今年は、紛れもなく、一般市民や地元企業や行政の方、子供

達からとても大きな応援をいただき、それが現場職員の精神的な支えになりました。心から、感謝申し上げます。人は気持ちで動くものと、実感した一年でした。

EMBASSY OF THE REPUBLIC OF THE PHILIPPINES
PHILIPPINE OVERSEAS LABOR OFFICE
Tokyo, Japan

presents this

CERTIFICATE OF APPRECIATION

to

KAWASAKI HOSPITAL

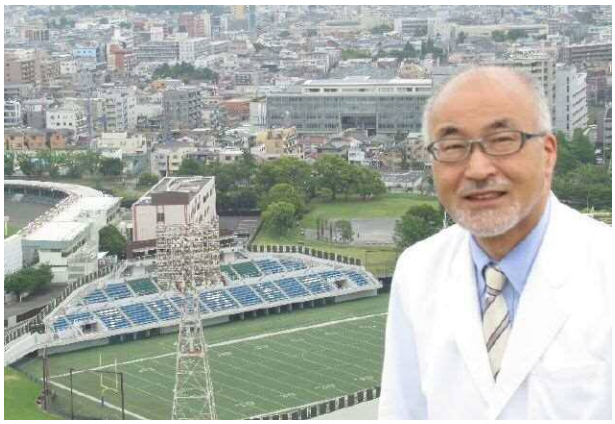
For its invaluable service, unwavering commitment, utmost care rendered to the Filipino crew members of Diamond Princess Cruise amidst the COVID-19 outbreak and restoring their health, until their return to the Philippines.

Given this 18th day of March 2020 at the Embassy of the Republic of the Philippines, Tokyo, Japan

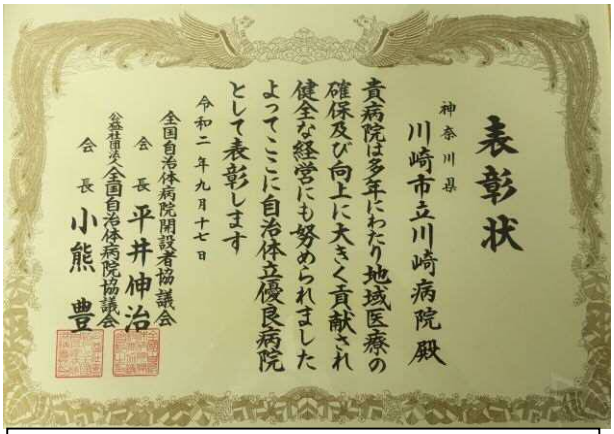
MARIE ROSE C. ESCALADA
Labor Attaché

JOSE C. LAUREL V
Ambassador

フィリピン共和国大使館からダイヤモンドプリンセス号で発生した新型コロナウイルス感染症の患者受入れに対して感謝状が贈られた



富士通スタジアムのスタンドに医療従事者に向けた「アリガトウ」のメッセージ
病院屋上にて撮影



表彰状

神奈川県
川崎市立川崎病院殿

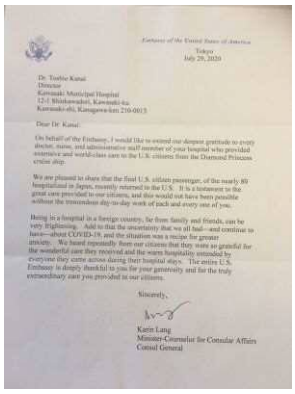
貴病院は多年にわたり地域医療の確保及び向上に大きく貢献され健全な経営にも努められましたよってここに自治体立優良病院として表彰します

令和二年九月十七日

全国自治体病院開設者協議会
会長 平井伸治

公益社団法人全国自治体病院協議会
会長 小熊豊

全国自治体病院協議会から自治体優良病院として表彰状が贈られた。



Embassy of the United States of America
Tokyo
July 29, 2020

Dr. Toshio Kanai
Director
Kawasaki Municipal Hospital
12-1 Bishkawadori, Kawasaki-ku
Kawasaki-shi, Kanagawa-ken 210-0013

Dear Dr. Kanai:

On behalf of the Embassy, I would like to extend our deepest gratitude to every doctor, nurse, and administrative staff member of your hospital who provided extensive and world-class care to the U.S. citizens from the Diamond Princess cruise ship.

We are pleased to share that the final U.S. citizen passenger, of the nearly 80 hospitalized in Japan, recently returned to the U.S. It is a testament to the great care provided to our citizens, and this would not have been possible without the tremendous day-to-day work of each and every one of you.

Being in a hospital in a foreign country, far from family and friends, can be very frightening. Add to that the uncertainty that we all had—and continue to have—about COVID-19, and the situation was a recipe for greater anxiety. We heard repeatedly from our citizens that they were so grateful for the wonderful care they received and the warm hospitality extended by everyone they came across during their hospital stays. The entire U.S. Embassy is deeply thankful to you for your generosity and for the truly extraordinary care you provided to our citizens.

Sincerely,

Karin Lang
Minister-Counselor for Consular Affairs
Consul General

米国大使館からダイヤモンドプリンセス号で発生した新型コロナウイルス感染症の患者受入れに対して感謝状が贈られた

病院長日誌　2020年度

2021.5.　病院長　金井歳雄

2020年４月１日、慶大北川病院長からの3.31.の緊急通達で、研修医COVID-19（以下、コロナ）クラスターの発生を受けて慶大在籍の出向者の緊急登院停止が告げられた。急遽、登院した新採用者についても厳重な検疫（詳細な問診と検温）を行うこととなった。新任の専攻医34名中14名欠席、新任のスタッフ医師16名中８名欠席、新任の看護師68名中２名発熱で帰宅という、前代未聞の事態となった。コロナの第一波によるものである。この日、井上健太郎医師を中心としたECT（Ethic Consultation Team)が活動を開始し、GCUは18から12床に減らし、総運用病床は644とした。また、この日から、臨床研修医と専攻医には会計年度任用職員制度が適用され、有期常勤医師として待遇改善が図られた。この日から医療職へのコロナ手当の支給が始まった（遡り)。３日、福田川崎市長来院、9SW病棟職員への激励を受けた。６日、葬祭業者による遺体搬送の拒否問題発生し、納体袋を購入。同日、川崎市医療調整本部設置、以後、当院職員派遣。７日、政府：緊急事態宣言（東京、大阪７都府県）(5.25.まで)。８日、川崎市病院協会のコロナ対策会合で、ある病院から“私たちは白い状態なので、黒いものを入れたくない”という発言に驚愕した。９日、緊急で病院長によるコロナメッセージを初めて行い、10日からの救命病棟への病床拡張［３速］を説明した。10日、清掃業者の感染症病棟業務拒否を受け、管理職看護師・事務職で急場をしのいだ。14日、手術室運営方針を出し、良性疾患の予定手術の延期を要請した。患者増著しく、15日にはミンティ設置による救命病棟全コロナ化［４速］を余儀なくされた。年度末に顕在化したN95マスクの不足が16日には在庫1000枚を切り危機的状況となった。この後、密閉能の低いKN95が出回ることとなった。16日、委託事務職員の感染判明し、病院長記者会見（初回)。17日、13S病棟閉鎖し総運用病床数596へ。20日、予定手術の制限開始、総合内科医師と救急科医師によるコロナチーム結成。22日、COVID-19対策として“つつじ外来”を屋外に設置、当初テントやがて、コンテナ３台体制に、永く、感染持ち込み阻止に寄与した。

５月１日、富士通スタジアム川崎のバックスタンドに“アリガトウ”の文字が出て、単純に純粋に嬉しかった。人は気持ちで動く。11日、入院センター本格オープン、Patient Flow Managementの改善が期待された。22日、コロナのLAMP検査（栄研化学）開始。迅速な拡散増幅検査が可能になり、３台体制、臨床検査技師による検体採取、連日・複数回実施、術前検査ルーティン化、職員即日多数検査などにより、感染管理能が飛躍的に拡大でき、当院の生命線となった。25日、コロナ患者減少に応じて、ミンティを外して、救命センターの一部復帰［３速］を行なった。26日、TBS Nスタの取材を受け、翌日放送。

６月１日、総合入院体制加算２算定開始（１.５億規模)。コロナ禍の中ではあったが通院不要的退院率をあげて、条件をクリアし、コロナによる稼動額減を補った。４日、救命センター20床すべてを復活させた［２速]。ここまで、第一波。10日、手術制限解除。13日、KMA（Keio Medical Alliance）オープンホスピタルで、慶大関連病院会会長として金井挨拶。15日、全自病総会（東京）で自治体立優良病院として表彰を受ける予定であったが中止（9.17.付表彰状と楯が郵送で届いた)。23日、高齢者施設への“コロナ出前講座”を井原看護師を中心として先駆的に開始した。施設での感染予防に貢献し、川崎・

幸区の特養・老健では、講座実施施設での明らかな感染予防効果が見られた。29 日、外科、整形外科の曜日別手術枠の平準化を始めた。30 日、コロナチーム解散。

7 月 7 日、コロナ入院患者数増、市内 PCR 陽性率［第２波］により、再度、救命センタ側に病床拡張［３速］。10 日、七夕メッセージで、5 月の入院稼動額は前年比△25%と最大減、４～6 月で約８億円の前年比減、「コロナ欠損を取り戻そう」と。　14 日、夜勤専従看護師感染判明し、記者会見（2 回目）。LAMP38 名実施、全員陰性。16 日、全国公立病院連盟関東中部支部会議参加＠四日市。17 日、神奈川警戒アラート発動。20 日、外科三原医師の提案で消化器内科が協力して“かわさき腹急ホットライン”を開設。22 日、政府 GoTo トラベルキャンペーン。

8 月 1 日、夜間 100 対 1 急性期看護補助体制加算取得（約 0.8 億規模）。6 日、コロナ抗原検査 24 時間体制に。7 日、“くすのきボックス”（鼻咽頭 swab 採取用コンテナ）を屋外に設置。安全で効率的な検体採取が可能になり、11 日からは検査技師による採取開始。

21 日、9S に面会くん（遠隔面会システム）を４セット配備。27 日、脳死臓器提供。

9 月 1 日、DPC 係数：1.5236 に上昇。11 日、在カナダ日本大使館より、コロナ入院症例 No.1 のカナダ人男性の帰国後の訃報が入り、妻（入院 No.2）から大きな感謝と絵画の寄付の申出が寄せられた。18 日、大都市感染症指定医療機関病院長並びに事務長会議が当院主管で川崎日航ホテルと各施設のリモート会場を結ぶ web 会議形式で成功裏に行われた。厚労省江浪結核感染症課長、川崎市健安研岡部所長より講演。内容は、21 病院連名の要望書としてまとめ、10.16.に厚労省江浪課長に直接提出した。

10 月 1 日、13S 病棟オープンし、総運用病床数 618 に。入院センター、全科稼働へ。

循環器内科、不整脈に対する Ablation 治療を開始し、かわさきコロナリーホットラインを救急隊に加え連携登録医に拡大した。12 日、会食による医師 6 名感染で記者会見（3 回目）、最も厳しかった。濃厚接触医師 16 名中 1 名感染、周辺に感染者なし。ER 軽症受診制限、内科新規入院制限、外科手術縮小等で大きな影響が出た。22 日、かみなメッセージ。上半期 8.4 億の落ち込みは、皆の取り組みで「9 月から戻ってきているよ」。27 日、東京空港検疫所（羽田）寺原支所長来院。神奈川県で唯一の当院での受入 13 名（都内 57 名）について感謝いただいた。空港 2F が検疫場所になっていて、抗原定量検査を行っていると。28 日、コロナのため延期されていた“地連の会”を院内講堂を主会場にして、Zoom による Web 開催を実現しました。コロナ対応と従来医療の両立を目指すことを示しました。

11 月 4 日、秋のヒアリング開始。5 日、聖マ医大明石理事長を訪問、川崎病院コロナ対応の高評価を受け、機能再編事業へのご理解をいただいた。6 日、首都直下地震防災訓練＠国土交通省東扇島に参加。7 日、14S 無菌室工事開始（翌 3 月まで）。13 日、市内コロナ病床ニーズ増大したため、同じスペースを最大限に使って病床拡大（中等症 15 から 19 へ）［3 速＋］。14 日、神奈川県医療アラート発出。21 日、土曜透析第一例。

12 月 1 日、重症病床拡大 3 から 13 床に（救命センター全コロナ化、14S 閉鎖）［４速＋］32 床　7 日、神奈川県　横浜・川崎時短営業要請。９S 等に紫外線照射装置 Light Strike 2 台配備。8 日、研修医室の換気悪いためダイソン加湿空気清浄器設置。英国で Pfizer-Biontech ワクチン接種開始。14 日、病院機能評価訪問審査（-15 日）。16 日、川崎病院運営委員会、Zoom で実施。25 日、福田市長来院。コロナ

状況や対応を説明。28 日でリニアック更新のため、休止。31 日、Covid-19 WHO 報告から１年、連日２−3 名のコロナ入院発生の中、24 名の状態で越年。

2021(R3)年 1 月 1 日、病院長元旦回診、お福銭の表は“克”。4 日、市長訓示：格差・分断と対峙し、連帯する。5 日、コロナ 5 名入院　入院 29 名（90%）まで急増。6 日、重症病床 8 名＋DNR3 名で満床に近く、重症例の受け入れが困難となった。7 日、緊急事態宣言（東京、神奈川、埼玉、千葉）。これを受けて、この期間中コロナ手当増額。8 日、市調整本部より、「県全体の病床が限界に、重症病床がありません。」と連絡。10 日、聖マで重症者を ER でオーバーナイトさせた、と。千島副院長看護部長「看護師になって初めて怖さを感じています。」12 日、つつじ外来、オーバーフロー。保健福祉事務所立入検査。13 日、県知事：コロナ非対応病院の入院患者に陽性出ても Stay 指示。14 日、工事中 14S の４室に８床のコロナ専用病床（中等症用、9S ドレナージ目的）を新規に設置。［５速］40 床とした。16 日、二日間で 9 名入院。17 日、市内 PCR 週間陽性率 23.8%と最大値。18 日、病院長：３次断る事態止むを得ず、川病はカオスを持ち込まず秩序だって診療を続けることを指示。19 日、入院患者数最大値 35 名を記録。25 日、県内重症者 113 と最大値。高齢者施設のクラスター多発が主な要因。1 月は３次応需率が 90%になり、３次のたらい回しが発生したが、不幸の転帰例はなかった。

2 月 1 日、エネルギー棟工事開始。3 日、幸・川崎病診 Net 開催　Teams を用いた web 配信。8 日、幸区保健支所長来院。高齢者施設介入の協力依頼。9 日、川崎市医療 PT に増田管理者代行で金井が出席。救命ベッドのコロナ化で３次症例のたらい回しが起きている、バランスが重要、５速から３速へのシフトダウン（3.1.~）の了承。同日、コロナワクチン接種プロジェクト開始。13 日、宮城沖震源の震度４地震発生。直後よりコジェネ発電機シャットダウンによる停電が発生した。以後、東電とのホットライン設置。17 日、日本でのワクチン先行接種（国立系病院）開始。22 日、川病研究交流会をデジタルポスター事前閲覧と講堂を主会場とした Live 配信によるハイブリッド形式で実施。救命センターの古瀬さんのコロナ病棟からの報告が優秀賞となりました。25 日、ディープフリーザー到着。

3 月 1 日、3 速＋へのシフトダウン。重 9+中 16 の 25 床。3 日、第 17 回コロナメッセージの中で、坂本感染症内科部長によるワクチン接種と齋藤救急科医長によるアナフィラキシーの講義を行いました。5 日、ワクチン第１便１箱 195vials 納品。7 日、当院職員 Pfizer ワクチン接種開始。金井が第一例。第１陣は４日間で約 1000 人初回接種。TV 神奈川取材「これで防弾チョッキを着させられる」。15 日、市立病院運営委員会を病院局での web 会議で実施。16 日、9S・EICU4 の陰圧化工事終了（約 250 万円）。21 日から、第２陣で約 700 名接種。１都３県緊急事態宣言解除。26 日から、2 回目接種を行なったが、特に若い女性で半数程度に発熱や倦怠感を生じ、勤務を考慮に入れたスケジュール立てが必要であった。林事務局長の病院局への異動という大きな変化、職員ワクチン接種中、院外医療職ワクチン接種計画中のまま、新年度へ。まだまだ、つづく。

位 置 及 び 案 内

川崎市は、多摩丘陵の南端多摩川の河口に開けた平坦部にあります。東京と横浜の間に接している細長い形の都市で、東京駅へ18分、横浜駅へ７分の距離にあります。

川崎市は、令和３年１０月現在で人口が154万人を超え、全国的に人口減少が続く中、特に若い世代に選ばれる都市として、「成長」と「成熟」の調和による持続可能な「最幸のまち」を目指して更なる発展を続けております。

川崎市立川崎病院は、市の基幹病院として、高度・特殊・急性期医療、救急医療を中心に、小児から成人・高齢者・妊産婦等の医療を提供するとともに、精神科救急医療の基幹病院としての機能も担っています。また、市内唯一の感染症病床における二類感染症患者の受入や、災害拠点病院、地域医療支援病院、神奈川県がん診療連携指定病院としての役割を担うほか、臨床研修指定病院として医師の育成を行うなど、地域医療水準の向上に寄与しています。

【交通機関】

ＪＲ川崎駅東口下車

バ　ス

直通ワンコインバス（市バス・臨港バス）

㉓番のりば　川崎病院行き

市バス

⑪番のりば　市営埠頭行き
⑮番のりば　扇町行き
⑭番のりば　水江町行き
⑯番のりば　浮島バスターミナル行き

教育文化会館前下車（徒歩5分）

臨港バス

⑤番のりば　鋼管循環
⑦番のりば　大師行き
⑧番のりば　三井埠頭行き
①番のりば　水江町・日立造船行き
②番のりば　塩浜営業所行き

さつき橋下車（徒歩3分）

川崎市立川崎病院全景

Ⅰ　病　院　概　要

Ⅰ　病院概要

（令和３年３月３１日　現在）

開設年月日	昭和2年4月30日
病院長名	金井　歳雄
所在地	神奈川県川崎市川崎区新川通１２－１
電話番号・FAX番号	TEL０４４－２３３－５５２１　　FAX０４４－２４５－９６００
診療科（４３科）	内科　呼吸器内科　循環器内科 消化器内科　血液内科　腫瘍内科 糖尿病内科　内分泌内科　腎臓内科 神経内科　感染症内科　新生児内科 ペインクリニック内科　肝臓内科　緩和ケア内科 外科　呼吸器外科　心臓血管外科 消化器外科　乳腺外科　小児外科 整形外科　脳神経外科　形成外科 血管外科　精神科　アレルギー科 リウマチ科　小児科　皮膚科 泌尿器科　産科　婦人科 眼科　耳鼻咽喉科　リハビリテーション科 放射線診断科　放射線治療科　病理診断科 救急科　麻酔科　歯科 歯科口腔外科
病床数	一般　６６３床 精神　　３８床 感染　　１２床
面積	敷地面積　19,813.32㎡ 建物面積　6,325.94㎡ 延床面積　49,890.18㎡
医療機関コード番号	医科　５０００００５４　歯科　５０６００５８
病院指定等	地域医療支援病院
	神奈川県がん診療連携指定病院
	神奈川県難病医療支援病院
	災害拠点病院
	三次救急医療機関
	神奈川DMAT指定病院
	第二種感染症指定医療機関
	エイズ治療拠点病院
	地域周産期母子医療センター
主な医療設備	ＰＥＴＣＴ
	リニアック
	ＳＰＥＣＴ
	ＣＴ
	ＭＲＩ
	Ｘ線テレビ装置
	血管造影撮影装置
	マンモグラフィー
	ダヴィンチ

１ 施設基準一覧

施設基準一覧（基本）　　（令和３年３月３１日　現在）

	届出項目	受理番号	認定日
1	地域歯科診療支援病院歯科初診料	（病初診）第50号	平成30年10月 1日
2	歯科外来診療環境体制加算２	（外来環２）第314号	平成30年 6月 1日
3	歯科診療特別対応連携加算	（歯特連）第28号	平成22年 4月 1日
4	一般病棟入院基本料(急性期一般１)	（一般入院）第1478号	令和 3年 3月 1日
5	精神病棟入院基本料(10対1)	（精神入院）第2170号	平成26年 1月 1日
6	総合入院体制加算２	（総合２）第19号	令和 2年 6月 1日
7	救急医療管理加算	（救急医療）第135号	令和 2年 4月 1日
8	超急性期脳卒中加算	（超急性期）第31号	平成20年 4月 1日
9	診療録管理体制加算	（診療録２）第87号	平成16年 4月 1日
10	医師事務作業補助体制加算1(30対1)	（事補１）第109号	令和 2年 9月 1日
11	急性期看護補助体制加算 25:1(看護補助5割以上) 夜間100対1急性期看護補助体制加算	（急性看補）第75号	令和 2年 8月 1日
12	看護職員夜間配置加算	（看夜配）第81号	平成29年 4月 1日
13	療養環境加算	（療）第32号	平成30年 8月 1日
14	重症者等療養環境特別加算	（重）第119号	平成27年 3月 1日
15	緩和ケア診療加算	（緩診）第59号	令和 3年 1月 1日
16	精神病棟入院時医学管理加算	（精入学）第4号	平成13年 8月 1日
17	精神科身体合併症管理加算	（精合併加算）第60号	平成26年 6月 1日
18	栄養サポートチーム加算	（栄養チ）第31号	平成23年 3月 1日
19	医療安全対策加算	（医療安全１）第43号	平成30年12月 1日
20	感染防止対策加算1 感染防止対策地域連携加算 抗菌薬適正使用支援加算	（感染防止１）第9号	平成30年 5月 1日
21	患者サポート体制充実加算	（患サポ）第28号	平成24年 4月 1日
22	褥瘡ハイリスク患者ケア加算	（褥瘡ケア）第73号	令和 2年 4月 1日
23	ハイリスク妊娠管理加算	（ハイ妊娠）第53号	平成21年 4月 1日
24	ハイリスク分娩管理加算	（ハイ分娩）第31号	平成21年 4月 1日
25	精神科救急搬送患者地域連携受入加算	（精救急受入）第6号	平成24年 4月 1日
26	呼吸ケアチーム加算	（呼吸チ）第37号	平成30年 6月 1日
27	後発医薬品使用体制加算	（後発使１）第114号	平成30年 9月 1日
28	データ提出加算	（データ提）第17号	平成24年10月 1日
29	入退院支援加算	（入退支）第76号	令和 2年 4月 1日
30	認知症ケア加算	（認ケア）第181号	平成30年 9月 1日
31	せん妄ハイリスク患者ケア加算	（せん妄ケア）第2号	令和 2年 4月 1日
32	精神疾患診療体制加算	（精疾診）第43号	令和元年10月 1日
33	排尿自立支援加算	（排自支）第25号	令和 2年 7月 1日
34	地域医療体制確保加算	（地医確保）第1号	令和 2年 4月 1日
35	地域歯科診療支援病院入院加算	（地歯入院）第3号	平成20年 4月 1日
36	救命救急入院料１	（救１）第9号	平成31年 4月 1日
37	救命救急入院料４	（救４）第8号	平成31年 4月 1日
38	特定集中治療室管理料３	（集３）第30号	平成30年10月 1日
39	新生児特定集中治療室管理料1	（新１）第40号	令和 2年 5月 1日
40	新生児治療回復室入院医療管理料	（新回復）第11号	平成26年 3月 1日
41	小児入院医療管理料２	（小入２）第13号	平成26年 3月 1日

施設基準一覧(特掲)　　（令和３年３月３１日　現在）

	届出項目	受理番号	認定日
1	ウイルス疾患指導料	（ウ指）第13号	令和 2年10月 1日
2	糖尿病合併症管理料	（糖管）第51号	平成20年 4月 1日
3	がん性疼痛緩和指導管理料	（がん疼）第42号	平成22年 4月 1日
4	がん患者指導管理料(イ)	（がん指イ）第112号	令和元年12月 1日
5	がん患者指導管理料(ロ)	（がん指ロ）第93号	令和元年12月 1日
6	がん患者指導管理料(ニ)	（がん指ニ）第35号	令和 2年 7月 1日
7	糖尿病透析予防指導管理料	（糖防管）第17号	平成24年 4月 1日
8	小児運動器疾患指導管理料	（小運指管）第40号	令和 2年 4月 1日
9	乳腺炎重症化予防ケア・指導料	（乳腺ケア）第34号	平成30年 4月 1日
10	婦人科特定疾患治療管理料	（婦特管）第205号	令和 2年10月 1日
11	地域連携小児夜間・休日診療料２	（小夜２）第10号	平成25年 3月 1日
12	院内トリアージ実施料	（トリ）第6号	平成24年 4月 1日
13	外来放射線照射診療料	（放射診）第35号	平成28年 5月 1日
14	開放型病院共同指導料	（開）第58号	平成28年 4月 1日
15	がん治療連携計画策定料	（がん計）第26号	平成30年 2月 1日
16	排尿自立指導料	（外排自）第25号	令和 2年 7月 1日
17	ハイリスク妊産婦連携指導料１	（ハイ妊連１）第29号	平成30年10月 1日
18	ハイリスク妊産婦連携指導料２	（ハイ妊連２）第22号	平成30年10月 1日
19	肝炎インターフェロン治療計画料	（肝炎）第126号	平成27年 3月 1日
20	薬剤管理指導料	（薬）第244号	平成22年 4月 1日
21	医療機器安全管理料１	（機安１）第91号	平成20年 4月 1日
22	精神科退院時共同指導料１　・　２	（精退共）第28号	令和 2年 7月 1日
23	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	（在電場）第2号	平成30年 4月 1日
24	持続血糖測定器加算	（持血測１）第38号	平成28年12月 1日
25	骨髄微小残存病変量測定	（骨残測）第17号	令和 3年 2月 1日
26	ＢＲＣＡ１／２遺伝子検査	（ＢＲＣＡ）第47号	令和 2年 7月 1日
27	ＨＰＶ核酸検出及びＨＰＶ核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	（ＨＰＶ）第107号	平成26年 4月 1日
28	検体検査管理加算（Ⅰ）	（検Ⅰ）第195号	平成20年 7月 1日
29	検体検査管理加算（Ⅱ）	（検Ⅱ）第112号	平成23年 2月 1日
30	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	（歩行）第101号	平成31年 2月 1日
31	長期継続頭蓋内脳波検査	（長）第21号	平成27年 3月 1日
32	脳波検査判断料１	（脳判）第15号	令和元年10月 1日
33	神経学的検査	（神経）第82号	平成20年 4月 1日
34	ロービジョン検査判断料	（ロー検）第52号	平成30年 9月 1日
35	小児食物アレルギー負荷検査	（小検）第124号	平成31年 4月 1日
36	画像診断管理加算１	（画１）第8号	平成14年 4月 1日
37	ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影、ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影又は乳房用ポジトロン断層撮影	（ポ断コ複）第37号	平成30年 4月 1日
38	ＣＴ撮影及びＭＲＩ撮影	（Ｃ・Ｍ）第513号	平成24年 4月 1日
39	冠動脈ＣＴ撮影加算	（冠動Ｃ）第26号	平成20年 9月 1日
40	心臓ＭＲＩ撮影加算	（心臓Ｍ）第40号	平成20年 9月 1日
41	外来化学療法加算１	（外化１）第154号	平成29年 8月 1日
42	外来化学療法加算２	（外化２）第14号	平成22年 9月 1日
43	無菌製剤処理料	（菌）第45号	平成20年 4月 1日
44	心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	（心Ⅰ）第64号	平成29年 4月 1日
45	脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	（脳Ⅰ）第217号	令和 2年 4月 1日
46	運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	（運Ⅰ）第61号	平成24年 4月 1日
47	呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	（呼Ⅰ）第82号	平成24年 4月 1日
48	摂食機能療法（摂食嚥下支援加算）	（摂嚥支）第4号	令和 2年 8月 1日
49	がん患者リハビリテーション料	（がんリハ）第49号	平成26年11月 1日
50	歯科口腔リハビリテーション料２	（歯リハ２）第129号	平成26年 4月 1日

51	抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）	（抗治療）第23号	令和元年10月 1日
52	医療保護入院等診療料	（医療保護）第49号	平成16年10月 1日
53	硬膜外自家血注入	（血入）第4号	平成28年 4月 1日
54	ｴﾀﾉｰﾙの局所注入（甲状腺に対するもの）	（エタ甲）第74号	平成27年 3月 1日
55	ｴﾀﾉｰﾙの局所注入（副甲状腺に対するもの）	（エタ副甲）第41号	令和元年12月 1日
56	導入期加算	（導入１）第212号	令和 2年12月 1日
57	手術用顕微鏡加算	（手顕微加）第80号	平成28年 4月 1日
58	う蝕歯無痛的窩洞形成加算	（う蝕無痛）第117号	平成26年 4月 1日
59	ＣＡＤ／ＣＡＭ冠	（歯ＣＡＤ）第2512号	平成28年 4月 1日
60	手術時歯根面レーザー応用加算	（手術歯根）第60号	平成26年 4月 1日
61	骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）	（自家）第7号	平成27年 4月 1日
62	椎間板内酵素注入療法	（椎酵注）第1号	令和 2年 4月 1日
63	脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	（脳刺）第45号 （脊刺）第61号	平成27年 3月 1日
64	上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）	（歯顎移）第8号	平成24年 4月 1日
65	乳がんセンチネルリンパ節加算１及びセンチネルリンパ節生検（併用）	（乳セ１）第53号	平成25年 5月 1日
66	乳がんセンチネルリンパ節加算２及びセンチネルリンパ節生検（単独）	（乳セ２）第53号	平成25年 5月 1日
67	食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）及び腟腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	（穿瘻閉）第34号	令和元年12月 1日
68	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）	（経特）第62号	令和 2年 4月 1日
69	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	（ペ）第70号	平成10年 4月 1日
70	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）	（ペリ）第26号	平成30年10月 1日
71	大動脈バルーンパンピング法（ＩＡＢＰ法）	（大）第38号	平成10年 4月 1日
72	腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）	（腹十二局）第15号	令和 3年 4月 1日
73	バルーン閉塞下経静脈的塞栓術	（バ経静脈）第20号	平成30年12月 1日
74	胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）	（胆腫）第21号	平成29年 4月 1日
75	体外衝撃波胆石破砕術	（胆）第16号	平成11年 3月 1日
76	腹腔鏡下肝切除術	（腹肝）第22号	平成29年 4月 1日
77	体外衝撃波膵石破砕術	（膵石破）第7号	平成26年 4月 1日
78	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	（腹膵切）第35号	平成29年 3月 1日
79	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	（早大腸）第29号	平成24年 5月 1日
80	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	（腎）第31号	平成10年12月 1日
81	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	（腹腎支器）第12号	令和元年 9月 1日
82	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	（腹膀）第18号	平成29年 8月 1日
83	人工尿道括約筋植込・置換術	（人工尿）第11号	平成29年 9月 1日
84	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	（腹前）第7号	平成26年 4月 1日
85	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	（腹前支器）第15号	平成28年 7月 1日

86	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 （子宮体がんに限る。）	（腹子）第2号	平成26年 4月 1日
87	輸血管理料Ｉ	（輸血Ｉ）第68号	令和 2年 4月 1日
88	輸血適正使用加算	（輸適）第148号	令和 2年 4月 1日
89	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	（造設前）第10号	平成24年 4月 1日
90	歯周組織再生誘導手術	（ＧＴＲ）第215号	平成20年 4月 1日
91	広範囲顎骨支持型装置埋入手術	（人工歯根）第7号	平成24年 4月 1日
92	歯根端切除手術の注３	（根切顕微）第64号	平成28年 4月 1日
93	麻酔管理料（Ｉ）	（麻管Ｉ）第2号	平成 8年 4月 1日
94	麻酔管理料（Ⅱ）	（麻管Ⅱ）第9号	平成22年 4月 1日
95	歯科麻酔管理料	（歯麻管）第6号	令和 2年 7月 1日
96	放射線治療専任加算	（放専）第10号	平成12年 4月 1日
97	外来放射線治療加算	（外放）第26号	平成20年 7月 1日
98	高エネルギー放射線治療	（高放）第109号	平成18年 4月 1日
99	１回線量増加加算	（増線）第27号	平成28年 2月 1日
100	強度変調放射線治療（ＩＭＲＴ）	（強度）第2号	平成22年 5月 1日
101	画像誘導放射線治療加算　（ＩＧＲＴ）	（画誘）第6号	平成30年10月 1日
102	定位放射線治療	（直放）第14号	平成21年 6月 1日
103	病理診断管理加算２	（病理診２）第24号	平成29年 3月 1日
104	悪性腫瘍病理組織標本加算	（悪病組）第44号	平成30年 9月 1日
105	クラウン・ブリッジ維持管理料	（補管）第2937号	平成 8年 4月 1日

医科点数表第２章第10部手術の通則５及び６に掲げる施設基準に係る届出
（対象期間　令和２年１月から令和２年１２月まで）

区分		手術名	件数
【区分Ｉ】	1	頭蓋内腫瘤摘出術等	37件
	2	黄斑下手術等	72件
	3	鼓膜形成手術等	2件
	4	肺悪性腫瘍手術等	103件
	5	経皮的カテーテル心筋焼灼術	10件
【区分Ⅱ】	1	靭帯断裂形成手術等	29件
	2	水頭症手術等	21件
	3	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	1件
	4	尿道形成手術等	6件
	5	肝切除術等	63件
	6	子宮付属器悪性腫瘍手術等	19件
【区分Ⅲ】	1	上顎骨形成術等	10件
	2	上顎骨悪政腫瘍手術等	21件
	3	食道切除再建術等	8件
【区分Ⅳ】	1	胸腔鏡下・腹腔鏡下手術等	648件
【その他】	1	人工関節置換術	147件
	2	ペースメーカー移植術及び交換術	57件
	3	冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないものを含む）及び体外循環を要する手術	12件
	4	経皮的冠動脈形成術	82件
		・急性心筋梗塞に対するもの	4件
		・不安定狭心症に対するもの	9件
		・その他のもの	69件
	5	経皮的冠動脈ステント留置術	179件
		・急性心筋梗塞に対するもの	36件
		・不安定狭心症に対するもの	23件
		・その他のもの	120件

２　沿革

大正13年 7月 1日	川崎町、大師町及び御幸村の2町1村が合併（市制施行）
昭和 2年 4月30日	明治37年12月28日に設立された伝染病組合病院を川崎市立病院と改称
昭和11年12月16日	伝染病院として、川崎市立病院大規模改築整備の上、開院（院長以下21名、病床数96床）
昭和12年 3月15日	川崎市立新川病院と改称
昭和20年 6月 1日	総合病院に切替え（内科、外科、眼科、産婦人科、歯科及び耳鼻咽喉科の設置）、川崎市立川崎病院と改称
昭和22年 4月 1日	理学診療科の設置
昭和24年 1月 1日	皮膚泌尿器科の設置
昭和26年 7月 1日	小児科の設置
昭和26年11月 1日	婦人科病棟の完成（昭和42年11月北病棟完成に伴い撤去）
昭和27年 3月 1日	伝染病棟改築落成（昭和48年５月東病棟建設に伴い撤去）
昭和28年 3月 1日	本館起工（第一期、第二期及び第三期工事に分けて施工）
昭和31年 5月 1日	整形外科の設置
昭和32年 8月 1日	総合病院の名称使用許可（昭和23年、法律第205号）
昭和32年12月 1日	厨房及び寄宿舎（第４号館）落成
昭和33年 4月 1日	神経科の設置
昭和33年10月 1日	基準看護（１類）の取得
昭和34年 6月 1日	本館の完成
昭和37年 5月 1日	厚生年金病棟（３号館）の完成
昭和39年 3月 1日	看護婦宿舎が完成
昭和39年 4月 1日	皮膚泌尿器科を皮膚科及び泌尿器科に分離 地方公営企業法の一部適用 川崎市立高等看護学院の実習病院
昭和40年 8月15日	救急病院に指定
昭和42年 4月 1日	研修医制度（３年制）の発足
昭和42年11月27日	北病棟（地下１階地上６階建及び旧２号館）が完成
昭和42年12月 2日	日本小児科学会認定の小児科専門医教育病院
昭和43年 2月 8日	日本内科学会認定の内科専門医教育病院
昭和43年 7月16日	厚生省指定の臨床研修病院
昭和44年 3月31日	放射線治療室の完成
昭和44年 5月15日	児童福祉施設第１種助産施設として認可
昭和45年 1月 1日	消化器科及び脳神経外科の設置
昭和45年 6月10日	日本脳神経外科学会認定の脳神経外科専門医教育病院
昭和45年11月19日	職員厚生会館の完成
昭和46年 4月 1日	麻酔科の設置、産婦人科を産科及び婦人科に分離
昭和46年11月 1日	特殊医療部及び教育指導部の設置
昭和47年 2月 1日	基準看護（特類）の実施

昭和48年 4月 1日　経理課の設置
昭和49年 4月 1日　食養科の設置
昭和49年10月 1日　基準看護（特２類）の実施
昭和50年10月14日　東病棟（旧１号館）の完成
昭和51年 4月 1日　精神科の設置
　　永年カルテ制度（１患者１病歴制度）の採用
昭和51年 5月 1日　血液センターの設置
昭和51年 6月 1日　中央採血室の設置
　　施設の名称を本館（旧本館）、１号館（旧東病棟）、２号館（旧北病棟）、
　　３号館（旧厚生年金病棟）及び４号館（旧教育指導棟）に変更
昭和52年 4月 1日　臨床研修医制度（２年制）の発足
　　医事課に入院用コンピュータの導入
昭和52年 5月 1日　１号館５階感染症病棟の開設
昭和52年10月 5日　ＩＣＵ開設準備室の開設
昭和52年10月31日　腎センターの開設
昭和53年 4月 1日　病院事業部の設置に伴い経理課を廃止
　　看護師を初めて採用
　　病院群輪番制運営事業参加
昭和53年 6月28日　１号館３階総合病棟の開設
昭和53年 9月11日　ＩＣＵ準備室をＩＣＵ病棟として開設
昭和53年11月 1日　医事課に外来用コンピュータの導入
昭和54年 3月31日　日本病理学会の認定病院
昭和54年 5月 2日　本館内科病棟の名称を内科西病棟及び内科東病棟に変更
　　３号館内科病棟を休床して本館内科東病棟に移転
昭和54年 5月15日　１号館４階総合病棟の開設
昭和54年10月 2日　日本外科学会の認定医修練施設
昭和55年 1月 1日　日本麻酔学会の認定指導病院
昭和55年 4月 1日　看護科病棟部門の週44時間体制
昭和56年 6月 1日　病床数を733床（一般683、伝染50）に変更
昭和58年 4月11日　日本整形外科学会の認定医制度研修施設
昭和58年10月 1日　日本眼科学会の専門医研修施設
昭和59年 4月 1日　食養科調理部門の週48時間体制
昭和60年 1月 1日　日本消化器外科学会の専門医修練施設
昭和60年 1月 1日　副院長２人制の導入
昭和60年 1月19日　日本耳鼻咽喉科学会の専門医研修施設
昭和61年 4月 1日　日本泌尿器科学会の専門医教育施設
昭和62年 4月 1日　日本皮膚科学会の認定医研修施設
昭和63年 3月29日　外国医師又は外国歯科医師の臨床修練指定病院
昭和63年 4月 1日　日本産婦人科学会の認定医制度卒後研修指導施設
昭和63年 6月 1日　基準看護（特３類）を小児科病棟で取得

昭和63年 9月 1日	基準看護（特３類）を産科及び分娩病棟で取得
平成元年 4月 1日	看護部制の実施
	臨床クラーク業務の委託
平成 2年12月 1日	基準看護（特３類）を取得
	本館総合病棟、１号館４階小児病棟、１号館４階未熟室、１号館４階総合病棟、２号館４階外科病棟、２号館５階病棟及び３号館婦人科病棟で取得
平成 3年 4月 1日	在宅ねたきり患者処置指導管理の取得
	看護の日・看護週間の制定
平成 3年 5月 1日	在宅酸素療法指導管理の取得
平成 4年10月 1日	電動ギャッヂベッド100台導入。その後順次導入
平成 5年 3月21日	完全週休２日制に伴い第２土曜日及び第４土曜日外来診療全科の休診
平成 5年 4月 1日	理学診療科を放射線科に変更
平成 6年 3月27日	完全週休２日制に伴い全土曜日外来診療全科の休診
平成 6年 4月 1日	心臓血管外科の設置
平成 6年10月 1日	新看護２対１（Ａ）看護の取得（全病棟）
	医事業務の全面委託
平成 6年11月 1日	夜間勤務看護（加算）の取得
平成 7年 3月 1日	新設された看護短大へ看護専門学校を移転
平成 7年 4月 1日	在宅医療部の設置
	管理当直業務の委託
平成 7年 6月 1日	適時適温給食の開始
平成 7年 7月 1日	看護専門学校及び看護宿舎の解体開始
平成 7年 7月19日	新病院建設着工
平成 7年10月11日	自走式二階建駐車場の設置（収容62台）
平成 7年12月14日	新病院建設起工式
平成 8年 4月 1日	事務室から事務局に改変
	助産師職認定
平成 9年 1月10日	新病院立柱式
平成 9年 3月 1日	リハビリテーション科の設置
平成 9年 3月31日	看護専門学校の閉校
平成 9年 4月 1日	リウマチ科及び歯科口腔外科の設置
	副院長３人制に変更
	移転準備担当の設置
	衛生局から健康福祉局へ機構改革
平成 9年12月18日	新病院の上棟式
平成10年 3月20日	神奈川県知事から災害医療拠点病院の指定
平成10年 4月 1日	呼吸器科、呼吸器外科、総合診療科及び感染症科の設置
	在宅医療部から地域医療部へ名称変更
	特殊医療部が発展的解消

平成10年 4月 1日	食養科（特食以外）業務の委託
	中央器材室滅菌消毒業務の委託
	補修室縫製等業務の委託
	中央監視室（受電・空調・ボイラー）業務の委託
平成10年 7月15日	日本プライマリ・ケア学会の認定医研修施設
平成10年10月21日	新病院病棟・中央診療棟完成
平成10年11月 1日	物流管理（ＳＰＤ）・滅菌消毒・ＭＥ（医療器機中央管理）業務の委託
	管理系施設管理業務の委託
	ハウスキーパー業務の委託
	検体系検査（医化学・血清・一般・血液）業務の委託
平成10年11月10日	病棟・中央診療棟竣工式
平成10年11月24日	病棟・中央診療棟開設
	新棟にて病棟及び一部外来の運用開始
	病床種別（一般683床、伝染30床、精神20床）を変更
	医療情報システム（ＨＵＭＡＮ）稼動
	９階北病棟に精神科病棟（20床、新看護３対１（Ａ）・６対１看護補助）の開設
平成10年12月25日	インターネット上に川崎病院ホームページ開設
	（http://www.city.Kawasaki.jp/35/35kawsyo/home/index.html）
平成11年 1月 1日	ＮＩＣＵ（新生児特定集中治療室）開設（平成13年１月辞退）
平成11年 2月 1日	川崎南部訪問看護ステーション（川崎市看護協会）を院内に設置
平成11年 4月 1日	副院長２人制に変更
	標榜科目から神経科を削除
	電話交換業務の委託
平成11年 5月 1日	リハビリテーション科で作業療法を開始
平成11年 6月 1日	９階精神科病棟20床から38床へ病床数の変更
平成11年 7月 1日	リハビリテーション科で言語療法を開始
平成11年10月26日	薬剤科で無菌製剤処理の実施
平成11年12月 1日	日本消化器内視鏡学会の認定指導施設
平成11年12月21日	遠隔医療協力モデル事業（川崎市及び慶應義塾大学医学部）の記者発表
平成12年 3月30日	川崎市立川崎病院外来病棟の竣工式
平成12年 3月31日	井田病院が研修指定病院となったため、川崎病院が従病院となる
平成12年 4月 1日	病院移転担当（庶務課主幹）の廃止
	看護助手業務の委託
	９階精神科病棟、精神保健及び精神障害福祉に関する法律第19条の８の規定に基づく指定病院（４床設置）
平成12年 4月24日	外来診療部門の全面オープン
平成12年 5月 1日	８階小児科病棟（小児科46床、未熟児室14床）の病床数変更
平成12年 5月 7日	14階南（内科）病棟のオープン
平成12年 6月 1日	神奈川県精神救急医療事業の基幹病院

平成13年 1月21日	脳死判定による臓器摘出手術の実施
平成13年 3月30日	外構工事完了
平成13年 3月30日	川崎市立川崎病院の基本理念建立除幕式
平成13年 4月 1日	新病院完成
平成13年 4月 1日	有料駐車場（駐車台数202台）のオープン
平成13年 4月 2日	川崎駅－川崎病院間の直通ワンコインバスの運行開始
平成14年 3月 1日	産婦人科で体外受精による治療の開始
平成14年 4月 1日	川崎病院組織改革
	内視鏡室、血液透析室、救急部及び小児急病センターを新設
	地域医療部及び医療相談室が医事課へ移管
	地域医療部及び訪問看護部門が看護部へ移管
平成14年 4月 9日	精神科救急24時間体制の開始
平成14年 4月15日	川崎病院内に小児急病センターの開設
平成14年12月 1日	院内駐車場保守業務の委託
平成15年 4月 1日	川崎病院の機構改革
	院外処方の開始
	食養科調理業務の全面委託
	看護助手業務の全面委託
	ナースキャップの廃止
平成15年 4月 6日	薬剤師、臨床検査技師及び放射線技師の勤務が変則勤務体制に変更
平成15年 7月 1日	「患者さんの権利」及び「患者さんへのお願い」を制定
平成15年 8月 1日	受動喫煙を防止する法律（健康増進法）の施行に伴い、院内禁煙
平成15年10月20日	川崎病院通信「くすの木」創刊号発行
平成15年12月 2日	重症急性呼吸器症候群（ＳＡＲＳ）搬送訓練
平成16年 2月17日	医療安全管理室の設置
平成16年 4月 1日	副院長３人制に変更
平成16年 9月 1日	１階外来飲食コーナーの設置
平成16年10月17日	病院機能評価受審
～19日	
平成17年 3月23日	外来治療センターの開設
平成17年 4月 1日	病院局の設置
	地方公営企業法の全部適用
平成17年 7月 1日	救急センターの開設
平成17年10月 3日	当院で日本初の西ナイル熱患者発生を届出
平成17年11月26日	川崎消防署と合同で災害時医療訓練を実施
平成18年 1月23日	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定
平成18年 4月 1日	川崎病院組織改革
	救命救急センターの開設
平成18年 4月 1日	放射線科から放射線診断科及び放射線治療科へ組織変更
	薬剤科から薬剤部へ組織変更

	集中治療部新設
	診療部長制度新設
平成18年10月28日	神奈川県災害医療拠点病院合同災害医療対策訓練及び消防局航空隊ヘリコプターによる救急患者搬送等訓練
平成19年 2月 5日	ヘリポートに夜間照明を設置
平成19年 4月 1日	副院長４人制に変更
	消化器外科新設
	脳血管外科新設
	血管外科新設
	救急科新設
	アドボカシー相談員配置
平成19年11月 1日	ＣＲＣ事務室設置
平成20年 4月 1日	院内感染対策担当新設
	肝臓内科新設
	冠疾患集中治療室新設
	婦人内視鏡科新設
平成20年 6月 2日	市内救急医療派遣事業（Kawasaki ONE PIECE）開始
平成20年10月 1日	日本口腔外科学会認定関連研修施設
平成21年 1月 1日	新総合医療情報システム（HOPE／EGMAIN－GX）稼働
平成21年 4月 1日	新生児集中治療管理室（ＮＩＣＵ）再開
平成21年 4月 1日	新生児科新設
平成21年 7月 1日	ＤＰＣ導入
平成21年 7月 7日	川崎ＤＭＡＴ（災害医療派遣チーム）設置病院として指定
平成21年11月12日	第48回全国自治体病院学会を川崎市（サンピアンかわさき）で開催
～19日	学会長　市立川崎病院長　長　秀男
平成22年 4月 1日	神奈川県周産期救急医療システム中核病院として指定
平成22年 4月 1日	神奈川県地域周産期母子医療センターとして認定
平成22年 4月 1日	臨床研究支援室の設置
平成22年12月 1日	卒後臨床研修評価機構による認定を受ける
平成23年 3月23日	神奈川ＤＭＡＴ指定病院として指定
平成24年 4月 1日	事務局担当部長配置
平成24年 4月 1日	医療相談室が地域医療部へ移管
平成24年 5月 1日	糖尿病内科新設
	内分泌内科新設
	腎臓内科新設
	小児外科新設
	乳腺外科新設
平成24年 5月 1日	循環器科、新生児科、耳鼻いんこう科及び感染症科から循環器内科、新生児内科、耳鼻咽喉科及び感染症内科へ組織名変更
平成24年 8月 7日	病床数を713床（一般663、精神38、感染12）に変更

平成24年10月20日	川崎市立３病院合同災害医療訓練及び消防局航空隊ヘリコプターによる重症患者等搬送訓練
平成24年11月 1日	７：１看護配置の取得
平成24年11月26日	ER初療ベッドを10床に増設
平成24年12月 1日	卒後臨床研修評価機構による認定を受ける（H24.12.１～H30.11.30）
平成25年 3月 1日	助産外来開設
平成25年 4月 1日	リウマチ科からリウマチ膠原病・痛風センターへ組織名変更 腫瘍内科新設 ペインクリニック内科新設 アレルギー科新設
平成26年 4月 1日	血液内科新設
平成27年 4月 1日	庶務課に企画調整担当を設置 内視鏡室から内視鏡センターへ組織名変更 医師及び歯科医師の給与制度改正
平成27年 9月11日	神奈川ＤＭＡＴ（川崎病院隊）茨城県常総市へ派遣
平成27年12月15日～16日	病院機能評価受診
平成28年 1月 1日	「病院の基本理念」「病院運営基本方針」「患者さんの権利」「臨床における倫理指針」を「川崎市立川崎病院基本理念」「病院運営方針」「患者さんの権利」「患者さんの責務」「患者さんへのお願い」に改定
平成28年 1月23日	(公)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定
平成28年 2月 3日	救命救急センター10周年記念講演会開催
平成28年 3月30日	地域医療支援病院の名称承認
平成28年 4月18日	神奈川ＤＭＡＴ（川崎病院隊）熊本県阿蘇市へ派遣
平成28年 7月	ダ・ヴィンチ（da Vinci）の本格稼働
平成28年 8月	緩和ケア内科外来の設置 がん相談支援センターの開設
平成29年 3月23日	神奈川県がん診療連携指定病院の指定
平成29年 4月 1日	高度脳神経治療センターの設置
平成30年 3月	川崎病院医療機能再編整備基本計画の策定
平成30年 4月 1日	患者総合サポートセンターの設置 ＰＥＴ－ＣＴの本格稼働
平成30年 9月 6日	神奈川ＤＭＡＴ隊員北海道胆振東部地震対応のため派遣
平成30年10月30日	卒後臨床研修評価機構による認定更新
平成31年 4月 1日	神奈川県難病医療支援病院の指定
平成31年 4月	２階喫茶店跡地に休憩室（飲食コーナー）を設置
平成31年 4月	駐車場の民営化・駐輪場再整備
令和元年 6月	川崎市包括外部監査受審
令和元年 8月	院内投書掲示板の設置
令和 2年 2月 1日	災害医療企画室の設置

令和 2年 2月25日	川病キャッチコピー「チームでつなぐ地域の未来」決定
令和 2年 2月	ダイヤモンドプリンセス号における新型コロナウイルス感染患者対応及び市中感染患者対応
令和 2年 4月	新型コロナ対策として面会制限及び電話再診を開始。
令和 2年 4月	つつじ外来（発熱外来）の設置
令和 2年 5月	ＬＡＭＰ法（遺伝子検査）の導入
令和 2年 5月	神奈川モデルにおける高度医療機関及び重点医療機関の認定
令和 2年 7月	総合入院体制加算２の取得
令和 2年 8月	くすのきボックス（検体採取専用スペース）の設置
令和 2年 9月	大都市感染症指定医療機関会議を開催
令和 2年12月14日～15日	病院機能評価受審
令和 3年 2月	エネルギー棟建設工事着手

3　機　　構（令和２年６月１日現在）

担当
○金井　歳雄　●大曽根　康夫　□野崎　博之　◇上田　誠司

- 事務局長　林　徳厚
  - 庶務課　課長　迫田　信一郎
    - 庶務係
    - 経理係
    - 管理係
    - 労務研修
    - 経営・企画
  - 医事課　課長　畑　泰寿
    - 庶務
    - 委託業務管理
    - システム
    - 収益・未収
  - 川崎病院再編整備担当　担当課長　植竹　勇
- 病院長　金井　歳雄○
  - 副院長
    - 大曽根　康夫●
    - 野崎　博之　□
    - 上田　誠司　◇
    - 千島　美奈子
    - 外来診療部長　相浦　浩一
    - 入院診療部長　齋藤　寿昭
    - 手術診療部長　小野塚　聡
    - 検査等診療部長　杉浦　仁
    - ● 医療安全管理室　室長(兼)　相浦　浩一 — 担当課長　楳原　弘成
    - □ 感染対策室　室長(兼)　坂本　光男
    - □ 総合内科　部長　髙木　英惠
    - □ 内科　部長　野崎　博之
    - □ 呼吸器内科　部長　佐山　宏一
    - □ 循環器内科　部長　末吉　浩一郎
    - □ 冠疾患集中治療室　室長　西澤　健也
    - □ 消化器内科　部長　玉井　博修
    - □ 血液内科　部長(兼)　野崎　博之
    - ● 腫瘍内科　部長(兼)　大曽根　康夫
    - □ 糖尿病内科　部長　津村　和大
    - □ 内分泌内科　部長(兼)　野崎　博之
    - □ 腎臓内科　部長　安藤　孝
    - □ 神経内科　部長(兼)　野崎　博之
    - □ 感染症内科　部長　坂本　光男
    - ● 新生児内科　部長　森　和広
    - ● ペインクリニック内科　部長(兼)　森田　慶久
    - □ 肝臓内科　部長(兼)　玉井　博修
    - ● 緩和ケア内科　部長(兼)　大曽根　康夫
    - ○ 外科　部長　市東　昌也
    - ○ 呼吸器外科　部長　澤藤　誠
    - ○ 心臓血管外科　部長　井上　慎也
    - ○ 消化器外科　部長(兼)　市東　昌也
    - ○ 乳腺外科　部長　萬谷　京子
    - ○ 小児外科　部長(兼)　市東　昌也
    - ◇ 整形外科　部長(兼)　上田　誠司
    - ◇ 脳神経外科　部長　片山　真
    - ◇ 形成外科　部長　西脇　正夫
    - ○ 血管外科　部長　和多田　晋
    - ● 精神科　部長　齋藤　寿昭
    - ● アレルギー科　部長(兼)　大曽根　康夫
    - ● リウマチ膠原病・痛風センター　所長　田口　博章
    - ● 小児科　部長　土橋　隆俊
    - ◇ 皮膚科　部長(兼)　原　智
    - ◇ 泌尿器科　部長　原　智
    - ◇ 産科　部長　中田　さくら
    - ◇ 婦人科　部長(兼)　中田　さくら
    - ◇ 婦人内視鏡科　部長　染谷　健一
    - ◇ 眼科　部長(兼)　上田　誠司
    - ◇ 耳鼻咽喉科　部長　重冨　征爾
    - ◇ リハビリテーション科　部長　阿部　玲音
    - ● 放射線診断科　部長　倉田　忠宜
    - ● 放射線治療科　部長　栗林　徹
    - ● 病理診断科　部長　杉浦　仁
    - ◇ 麻酔科　部長　森田　慶久
    - ◇ 集中治療部　部長　逢坂　佳宗
    - ◇ 歯科　部長(兼)　鬼澤　勝弘
    - ◇ 歯科口腔外科　部長　鬼澤　勝弘
    - ○ 内視鏡センター　所長　相浦　浩一
    - ● 化学療法センター　所長(兼)　澤藤　誠
    - □ 血液透析室　室長　有馬　功一郎
    - ● 検査科　部長　大曽根　康夫
    - ● 薬剤部　部長　小林　加寿夫
    - 看護部　部長(兼)　千島　美奈子 — 管理室
      - 副看護部長
        - 病棟
        - 外来
        - 手術室
    - ● 食養科　科長　太田　博子
    - ○ 教育指導部　部長(取扱)　金井　歳雄 — 研修医
    - ○ 臨床研究支援室　室長(取扱)　金井　歳雄
    - ◇ 手術部　部長(兼)　上田　誠司
    - ◇ MEセンター　所長(兼)　森田　慶久
  - 救命救急センター　所長　田熊　清継
    - 救急科　部長(兼)　田熊　清継
    - ● 小児急病センター　室長(兼)　土橋　隆俊
  - 高度脳神経治療センター　所長　今西　智之 — 副所長　小野塚　聡
  - ● 患者総合サポートセンター　所長(兼)　大曽根　康夫 — 副所長　山内　秀行
    - 担当課長　水谷　晋一
    - 担当課長　菅　智子

（診療部門）

（診療支援部門）

4　人事の変遷（令和3年9月1日現在）

	歴代	氏　名	在　任　期　間
病院長	初代	竹山且子	昭和10年 9月 5日 ～ 昭和17年11月 9日
	2代	依田　稔	昭和16年 7月18日 ～ 昭和18年 4月 2日
	3代	博田三雄治	昭和18年 4月 2日 ～ 昭和27年 7月24日
	4代	宮尾　啓	昭和27年 7月25日 ～ 昭和39年 9月 1日
	5代	勝　正孝	昭和39年 9月 1日 ～ 昭和50年 8月31日
	6代	山本　浩	昭和50年 9月 1日 ～ 昭和53年 2月 1日
	7代	藤森一平	昭和53年 2月 1日 ～ 昭和61年11月30日
	8代	林　茂	昭和61年12月 1日 ～ 平成 6年 3月31日
	9代	入交昭一郎	平成 6年 4月 1日 ～ 平成11年 3月31日
	10代	岩田嘉行	平成11年 4月 1日 ～ 平成12年 3月31日
	11代	武内可尚	平成12年 4月 1日 ～ 平成15年 3月31日
	12代	秋月哲史	平成15年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日
	13代	長　秀男	平成20年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日
	14代	堀内行雄	平成22年 4月 1日 ～ 平成25年 3月31日
	15代	増田純一	平成25年 4月 1日 ～ 平成28年 3月31日
	16代	成松芳明	平成28年 4月 1日 ～ 平成31年 3月31日
	17代	金井歳雄	平成31年 4月 1日 ～ 令和 3年 8月31日
	18代	野﨑博之	令和 3年 9月 1日 ～ 現在に至る
理　事		堀内行雄	平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日
担当理事		増田純一	平成24年 4月 1日 ～ 平成25年 3月31日
		林　保良	平成24年 4月 1日 ～ 平成29年 3月31日
		堀内行雄	平成25年 4月 1日 ～ 平成26年 3月31日
		番場正博	平成27年 4月 1日 ～ 平成30年 3月31日
副院長	初代	宮尾　啓	昭和26年 1月23日 ～ 昭和27年 7月24日
	2代	高村長治	昭和34年 8月 1日 ～ 昭和36年 9月 1 日
	3代	勝　正孝	昭和36年12月 1日 ～ 昭和39年 8月31日
	4代	石田堅一	昭和39年 9月 1日 ～ 昭和45年 3月31日
	5代	山本　浩	昭和45年 4月 1日 ～ 昭和50年 8月31日
	6代	藤森一平	昭和50年 9月 1日 ～ 昭和53年 1月31日
	7代	菅野卓郎	昭和53年 2月 1日 ～ 昭和56年 3月31日
	8代	斉藤敏明	昭和56年 4月 1日 ～ 昭和62年 3月31日
	9代	鹿野達男	昭和60年 1月 1日 ～ 平成 6年 3月31日
	10代	入交昭一郎	昭和61年12月 1日 ～ 平成 6年 3月31日
	11代	山本泰秀	平成 6年 4月 1日 ～ 平成11年 3月31日
	12代	岩田嘉行	平成 6年 4月 1日 ～ 平成11年 3月31日
	13代	松岡康夫	平成 9年 4月 1日 ～ 平成15年 3月31日

	14代	武内可尚	平成11年 4月 1日	～	平成12年 3月31日
	15代	納賀克彦	平成12年 4月 1日	～	平成17年 3月31日
	16代	堀内行雄	平成15年 4月 1日	～	平成21年 3月31日
	17代	篠原弘子	平成16年 4月 1日	～	平成20年 3月31日
	18代	関　賢一	平成17年 4月 1日	～	平成21年 3月31日
	19代	長　秀男	平成19年 4月 1日	～	平成20年 3月31日
	20代	成松芳明	平成20年 4月 1日	～	平成28年 3月31日
	21代	齊田和子	平成20年 4月 1日	～	平成25年 3月31日
	22代	久場川哲二	平成21年 4月 1日	～	平成22年 3月31日
	23代	竹中信夫	平成21年 4月 1日	～	平成30年 3月31日
	24代	増田純一（兼）	平成22年 4月 1日	～	平成25年 3月31日
	25代	番場正博	平成25年 4月 1日	～	平成27年 3月31日
	26代	綱嶋たかえ	平成25年 4月 1日	～	平成30年 3月31日
	27代	宮川俊一	平成27年 4月 1日	～	令和 2年 3月31日
	28代	大曽根康夫	平成28年 4月 1日	～	令和 3年 3月31日
	29代	小柳貴裕	平成30年 4月 1日	～	令和 2年 3月31日
	30代	千島美奈子	平成30年 4月 1日	～	現在に至る。
	31代	野﨑博之	令和 2年 4月 1日	～	令和 3年 8月31日
	32代	上田誠司	令和 2年 4月 1日	～	現在に至る。
	33代	澤藤　誠	令和 3年 4月 1日	～	現在に至る。
事務長	初代	海野才知	昭和20年 6月 1日	～	昭和21年 8月23日
	2代	白倉謙一	昭和21年 8月24日	～	昭和27年 7月24日
	3代	宇田川政之	昭和27年 7月25日	～	昭和29年 8月27日
	4代	石井一郎	昭和29年 8月28日	～	昭和30年 7月31日
	5代	石井英夫	昭和30年 8月 1日	～	昭和37年 4月30日
	6代	竹山忠雄	昭和37年 5月 1日	～	昭和40年 3月31日
	7代	森　己之松	昭和40年 4月 1日	～	昭和42年10月31日
	8代	塚原重年	昭和42年11月 1日	～	昭和44年 3月31日
	9代	小熊栄次	昭和44年 4月 1日	～	昭和47年10月４日
	10代	遠藤文郎	昭和47年10月 5日	～	昭和47年12月13日
	11代	田代穆彦	昭和47年12月23日	～	昭和54年 4月30日
	12代	重岡賢治	昭和54年 5月 1日	～	昭和57年 1月31日
	13代	上野松治	昭和57年 2月 1日	～	昭和62年 3月31日
	14代	岡庭英昭	昭和62年 5月 1日	～	平成元年 3月31日
	15代	白鳥房夫	平成元年 4月 1日	～	平成 3年 3月31日
	16代	藤井健司	平成 3年 4月 1日	～	平成 5年 3月31日
	17代	鈴木嗣明	平成 5年 4月 1日	～	平成 6年 3月31日
	18代	斎藤至旦（経営担当理事）	平成6年4月1日	～	平成 8年 3月31日
事務局長	19代	蟹江徹也（経営担当理事）	平成8年4月1日	～	平成10年 3月31日

	20代	菊池敏彦（経営担当理事）	平成10年4月1日～	平成11年 3月31日
	21代	山本栄一（経営担当理事）	平成11年4月1日～	平成13年 3月31日
	22代	石井洋二郎（経営担当理事）	平成13年4月1日～	平成14年 3月31日
	23代	佐藤　猛（経営担当理事）	平成14年4月1日～	平成15年 3月31日
	24代	添田真郷	平成15年 4月 1日 ～	平成17年 3月31日
	25代	鈴木康夫	平成17年 4月 1日 ～	平成20年 3月31日
	26代	佐々木元行	平成20年 4月 1日 ～	平成21年 3月31日
	27代	高井敏雄	平成21年 4月 1日 ～	平成26年 3月31日
	28代	柄崎　智	平成26年 4月 1日 ～	平成28年 3月31日
	29代	田邊雅史	平成28年 4月 1日 ～	平成29年 3月31日
	30代	林　徳厚	平成29年 4月 1日 ～	令和 3年 3月31日
	31代	岡　正	令和 3年 4月 1日 ～	現在に至る。
総婦長	初代	植田まき子	昭和20年 6月 1日 ～	昭和39年 9月30日
	2代	船場宮子	昭和39年10月 1日 ～	昭和53年 6月30日
	3代	久保田好實	昭和53年 7月 1日 ～	昭和58年 9月30日
	4代	加治木ユリ	昭和58年10月 1日 ～	昭和61年 3月31日
	5代	高木昌子	昭和61年 4月 1日 ～	昭和62年 4月30日
看護部長	6代	久保田好實	昭和62年 5月 1日 ～	平成 2年 3月31日
	7代	庄崎雅子	平成 2年 4月 1日 ～	平成 7年 3月31日
	8代	高木サカエ	平成 7年 4月 1日 ～	平成10年 3月31日
	9代	強矢智惠子	平成10年 4月 1日 ～	平成13年 3月31日
	10代	釣巻慈子	平成13年 4月 1日 ～	平成15年 3月31日
	11代	篠原弘子（兼）	平成15年 4月 1日 ～	平成20年 3月31日
	12代	齊田和子（兼）	平成20年 4月 1日 ～	平成25年 3月31日
	13代	綱嶋たかえ（兼）	平成25年 4月 1日 ～	平成30年 3月31日
	14代	千島美奈子（兼）	平成30年 4月 1日 ～	現在に至る。
救命センター長	初代	石井誠一郎	平成17年 7月 1日 ～	平成18年 3月31日
救命救急センター所長	初代	石井誠一郎	平成18年 4月 1日 ～	平成21年 3月31日
	2代	堀内行雄（兼）	平成21年 4月 1日 ～	平成22年 3月31日
	3代	竹中信夫（兼）	平成22年 4月 1日 ～	平成27年 3月31日
	4代	田熊清継	平成27年 4月 1日 ～	現在に至る。
高度脳神経治療センター所長	初代	今西智之	平成29年 4月 1日 ～	現在に至る。
患者総合サポートセンター所長	初代	大曽根康夫（兼）	平成30年 4月 1日 ～	令和 3年 3月 31日
	2代	澤藤　誠（兼）	令和 3年 4月 1日 ～	現在に至る。

５　診療科名簿

（令和３年３月３１日　現在）

病院長　金井　歳雄
副院長　大曽根　康夫
副院長　野﨑　博之
副院長　上田　誠司
副院長兼看護部長
千島　美奈子

【内科】
部長（兼）　野﨑　博之
医長　井上　健太郎
医長　北薗　久雄
副医長　布施　彰久
副医長　花田　亮太

【総合内科】
部長　髙木　英恵
医長　深江　智明
副医長　相馬　裕樹
上園　志穂
内山　竣介
安部　恭嗣
石野　すみれ
伊藤　守
中村　彰良
今井　悠気
永江　真也
滝澤　亜矢
長谷川　梨咲
徳安　大輝
大津　陽
原田　修平
船曳　隼大

【腫瘍内科】
部長（兼）　大曽根　康夫

【呼吸器内科】
部長　佐山　宏一
医長　大森　奈緒
医長　田中　希宇人
医長　扇野　圭子

【循環器内科】
部長　末吉　浩一郎
担当部長　李　慧崇
担当部長　伯野　大彦
医長　髙橋　賢至

【冠動脈集中治療室】
室長　西澤　健也
担当部長　滝口　俊一

【消化器内科】
部長　玉井　博修
担当部長　有泉　健
副医長　山根　剛
副医長　鈴木　健

【血液内科】
部長（兼）　野﨑　博之
医長　定平　健

【糖尿病内科】
部長　津村　和大

【内分泌内科】
部長（兼）　野﨑　博之
部長（兼）　津村　和大

【腎臓内科】
部長　安藤　孝

【血液透析室】
室長　有馬　功一郎

【神経内科】
部長（兼）　野﨑　博之

【感染症内科】
部長　坂本　光男
医長　細田　智弘

【リウマチ膠原病・痛風センター】
所長　田口　博章
副医長　長谷川　哲雄

【ペインクリニック内科】
部長（兼）　森田　慶久

【肝臓内科】
部長（兼）　玉井　博修

【緩和ケア内科】
部長（兼）　大曽根　康夫
（兼）　三島　牧

【アレルギー科】
部長（兼）　大曽根　康夫

【外科】
部長　市東　昌也
医長　三原　規奨
副医長　雨宮　隆介
副医長　菊地　勇次
副医長　近藤　崇之
副医長　山髙　謙

【呼吸器外科】
部長　澤藤　誠
医長　井澤　菜緒子
医長　奥井　将之

【心臓血管外科】
部長　井上　慎也
（兼）　森　厚夫

【消化器外科】
部長（兼）　市東　昌也

【乳腺外科】
部長　萬谷　京子

【小児外科】
部長（兼）　市東　昌也

【血管外科】
部長　和多田　晋

【整形外科】
部長（兼）　上田　誠司
担当部長　中道　憲明
担当部長　小宮　浩一郎
担当部長　山口　健治
部長（兼）　西脇　正夫
医長　西村　空也
副医長　寺坂　幸倫
副医長　谷　英明
副医長　美馬　雄一郎

【形成外科】

部長	西脇　正夫
副医長	北畑　怜奈

【脳神経外科】

部長	片山　真
担当部長	三島　牧
	山本　晃生

【高度脳神経治療センター】

所長	今西　智之
担当部長	小野塚　聡
副医長	田村　亮太

【内視鏡センター】

所長	相浦　浩一

【精神科】

部長	齋藤　寿昭
副医長	鹿島　美納子
副医長	三浦　孝政
副医長	久保　馨彦
	彌富　泰佑
	西　晃
	織笠　裕行

【小児科】

部長	土橋　隆俊
担当部長	有安　大典
担当部長	楢林　敦
医長	松尾　基視
医長	外山　陽子
医長	吉田　祐
副医長	案納　あつこ
副医長	瑞慶覧　宏彰
	山田　剛
	小林　寛太朗
	吉川　遥菜
	古山　和佳奈
	諸川　明洋
	梅垣　侑佳

【新生児内科】

部長	森　和広
担当部長	古川　律子
医長	梶原　久美子
副医長	坂井　みのり
副医長	宮武　瑛里

【皮膚科】

医長	西本　周平
副医長	小林　研太
	新川　紗由香

【泌尿器科】

部長	原　智
医長	前田　高宏
医長	福本　桂資郎
副医長	勝井　政博
副医長	荻原　広一郎
	北岡　壮太郎
	宍戸　偉海

【産科・婦人科】

部長	中田　さくら
専任部長	林　保良
担当部長	染谷　健一
医長	金　善惠
副医長	鈴木　毅
副医長	石垣　順子
副医長	大橋　千惠
副医長	大谷　利光
	椎名　美季

佐久間　萌子

【眼科】

副医長　園部　秀樹
副医長　小澤　紘子
副医長　藤岡　俊平
安里　輝

【耳鼻咽喉科】

部長　重冨　征爾
医長　猪狩　雄一
副医長　西山　崇経
副医長　松居　祐樹
笠原　健

【リハビリテーション科】

部長　阿部　玲音
梶本　かさね

【放射線診断科】

部長　倉田　忠宜
担当部長　長谷川　市郎
担当部長　佐藤　宏朗
医長　緒方　雄史
小川　遼

【放射線治療科】

部長　栗林　徹

【麻酔科・集中治療部】

部長　森田　慶久
部長　逢坂　佳宗
医長　梶谷　美砂
医長　菅　規久子
医長　細井　卓司
副医長　奥田　淳
副医長　平畑　枝里子
副医長　出野　智史
北嶋　宏輝
松沢　真奈
藤田　夏樹
安達　薫
鈴木　千裕
岡部　久美子

【病理診断科】

部長　杉浦　仁
担当部長　折笠　英紀
堀井　千裕

【歯科口腔外科】

部長　鬼澤　勝弘
担当部長　安居　孝純
長嶺　宏樹

【救命救急センター・救急科】

所長　田熊　清継
医長　齋藤　豊
医長　進藤　健
医長　金尾　邦生
医長　石田　正高
医長　三吉　貴大
副医長　白川　和宏
副医長　土屋　光正
副医長　金子　翔太郎
副医長　鳥海　聡
医員　井上　聡
藤田　野々香
佐々木　洋介
島谷　直孝
天笠　愛子
杉　真惠

退職者及び院外異動者

＊印は院外異動者

医　師

	瀬上　和貴	平成27年5月1日	～	令和2年6月30日
	伊藤　賀一	平成30年4月1日	～	令和2年7月31日
	植田　良	平成23年4月1日	～	令和2年9月30日
	南雲　正士	平成30年12月1日	～	令和2年9月30日
	山之内　健人	令和元年10月1日	～	令和2年9月30日
	公田　龍一	令和2年4月1日	～	令和2年12月31日
＊	梶谷　美砂	平成31年4月1日	～	令和2年12月31日
	石田　径子	平成30年4月1日	～	令和2年12月31日
	大曽根　康夫	平成10年7月1日	～	令和3年3月31日
	梶原　久美子	平成21年4月1日	～	令和3年3月31日
	前田　高宏	平成29年9月1日	～	令和3年3月31日
	菊池　勇次	平成30年4月1日	～	令和3年3月31日
	山髙　謙	平成31年4月1日	～	令和3年3月31日
	鹿島　美納子	平成27年4月1日	～	令和3年3月31日
	瑞慶覧　宏彰	令和元年7月1日	～	令和3年3月31日
	荻原　広一郎	令和元年10月1日	～	令和3年3月31日
	西山　崇経	平成31年4月1日	～	令和3年3月31日
	松居　祐樹	令和元年7月1日	～	令和3年3月31日
	平畑　枝里子	平成28年5月1日	～	令和3年3月31日
	白川　和宏	平成29年7月1日	～	令和3年3月31日
	彌富　泰佑	平成31年4月1日	～	令和3年3月31日
	井上　聡	令和元年7月1日	～	令和3年3月31日

会計年度任用職員医師・歯科医師

	卜部　雅之	令和元年7月1日	～	令和2年6月30日
	杉山　耀一	平成30年4月1日	～	令和2年9月30日
	石原　啓成	令和2年4月1日	～	令和2年9月30日
	君塚　優	令和2年4月1日	～	令和2年9月30日
	岩澤　智裕	平成31年4月1日	～	令和2年9月30日
	土屋　賢吾	令和元年10月1日	～	令和3年1月31日
	今村　裕子	令和元年9月15日	～	令和3年2月12日
	内山　竣介	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	中村　彰良	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
＊	今井　悠気	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	滝澤　亜矢	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	長谷川　梨咲	令和2年5月1日	～	令和3年3月31日
	徳安　大輝	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	大津　陽	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	中川　雅	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	萩原　克洋	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	加藤　修三	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	山本　晃生	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	宇野　嘉良子	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	西　晃	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	織笠　裕行	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	吉川　遥菜	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	宍戸　偉海	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	椎名　美季	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	佐久間　萌子	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	小川　遼	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	松沢　真奈	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	鈴木　千裕	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	佐々木　洋介	平成30年4月1日	～	令和3年3月31日

臨床研修医

	安藤　拓	平成31年4月1日	～	令和3年3月31日
	渦川　真優子	平成31年4月1日	～	令和3年3月31日
	小澤　拓矢	平成31年4月1日	～	令和3年3月31日
	神川　慶彦	平成31年4月1日	～	令和3年3月31日
	岸本　ゆりえ	平成31年4月1日	～	令和3年3月31日
	北村　佳奈	平成31年4月1日	～	令和3年3月31日
	洪　美希	平成31年4月1日	～	令和3年3月31日
	島田　優希	平成31年4月1日	～	令和3年3月31日
	時枝　啓太	平成31年4月1日	～	令和3年3月31日
	三角　昂之	平成31年4月1日	～	令和3年3月31日
	須藤　亜紗実	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	須原　悠史	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	武田　詩織	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日
	長谷川　大祐	令和2年4月1日	～	令和3年3月31日

６　病院案内図

院内案内図
ヘリポート
レストラン
15
食養科
14階南病棟
1401 - 1418
14
透析室 1451 - 1467
14階北病棟
13階南病棟
1301 - 1320
13
1351 - 1369
13階北病棟
12階南病棟
1201 - 1217
12
1251 - 1267
12階北病棟
11階南病棟
1101 - 1119
11
1151 - 1169
11階北病棟
10階南病棟
1001 - 1017
10
1051 - 1069
10階北病棟
9 階南病棟
EICU 901 - 905
9 階西病棟
910 - 914
9
951 - 970
9階北病棟
8 階南病棟
801 - 811
8 階西病棟
NICU GCU
8
分娩室 851 - 861
8階北病棟
講堂 会議室
7
栄養指導室
6
霊安室
ICU CCU
5
手術室
医局
看護部
4
医療安全管理室 庶務課
50 皮膚科
53 泌尿器科
51 産科
52 婦人科
61 新生児内科
65 内視鏡センター
62 健康診査室
64 小児科
3
70 生理検査
74 リハビリテーション科
84 外来治療センター
30 整形外科
32 眼科
31 耳鼻咽喉科 頭頸部外科
38 外来手術
39 専門外来
41 採血・採尿受付
46 精神科
43 歯科口腔外科
47 血液センター
2
48 放射線受付（２階）
10 入院センター
17 脳神経外科 緩和ケア
18 外科
19 内科
90 夜間・休日受付
92 救命救急センター
0 総合案内
1 初診・紹介状受付
2 会計受付
8 地域連携窓口
9 アドボカシー相談室
11 検査説明
12 入院セット申込窓口
1
20 入退院受付
21 患者総合サポートセンター
売店
医事課
25 放射線受付（１階）
27 MRI
28 核医学 PET-CT
B1
中央監視

外来フロアマップ

3階

2階

1階

川崎市立川崎病院　2020.4.6

7　定例院内会議

(1)　三役会議

病院長、事務局長、副院長④、担当部長、庶務課長、医事課長　週１回

(2)　運営会議

病院長、事務局長、副院長④、各科部・課(科)長、担当部・課(科)長　月２回

(3)　各種委員会

（令和3年3月1日現在）

番号	委員会名	委員長名	役職名	統括
	活動内容			開催予定
1	倫理委員会	大曽根　康夫	副　院　長	大曽根副院長
	（脳死判定委員会）	（野﨑　博之）	（副院長）	（野﨑副院長）
	（臨床倫理コンサルテーションチーム）	（井上　健太郎）	（内科医長）	（大曽根副院長）
	＊医療行為に関し、倫理的・社会的観点から審査等を行う。			必要に応じて開催
2	病院機能再編推進委員会	大曽根　康夫	副　院　長	大曽根副院長
	＊病院内の各部署の再編について調査及び検討する。			必要に応じて開催
3	医療安全管理委員会	相　浦　浩　一	医療安全管理室長	大曽根副院長
	（医療安全管理部会）	（萬谷　京子）	（乳腺外科部長）	（大曽根副院長）
	＊医療事故を防止し、安全かつ適切な医療体制を確立する。			月1回
4	職員衛生委員会	大曽根　康夫	副　院　長	大曽根副院長
	＊職員の労働衛生に関する事項を調査審議し、衛生管理の推進を図る。			月1回
5	院内感染対策委員会	坂　本　光　男	感染症内科部長	野﨑副院長
	（感染対策部会）	（細田　智弘）	（感染症内科医長）	（野﨑副院長）
	＊院内感染の防止のため、諸問題を調査及び審議する。			月1回
6	医療ガス安全管理委員会	佐　山　宏　一	呼吸器内科部長	病　院　長
	＊高圧ガス保守法に基づき、院内医療ガスの安全を検証及び推進する。			年2回
7	放射線安全委員会	金　井　歳　雄	病　院　長	病　院　長
	＊放射線障害の防止について、必要事項を調査及び審議する。			年1回
8	診療録管理委員会	土　橋　隆　俊	小児科部長	大曽根副院長
	＊診療録の管理と診療情報の提供を行うために、必要事項を検討する。			隔月
9	給食委員会	有　馬　功一郎	血液透析室長	大曽根副院長
	＊栄養業務及び給食業務の管理運営について検討する。			月1回
10	治験審査・臨床研究倫理審査委員会	津　村　和　大	糖尿病内科部長	大曽根副院長
	＊治験を行うことの適否、その他治験に関する調査及び審議する。			月1回
11	輸血療法委員会	森　田　慶　久	麻酔科部長	上田副院長
	＊輸血関連業務等の必要事項を検討する。			隔月
12	臨床検査業務検討委員会	杉　浦　　仁	病理診断科部長	大曽根副院長
	＊臨床検査の精度管理を行う。			必要に応じて開催
13	業務改善委員会	千　島　美奈子	副院長・看護部長	千島副院長
	＊職場環境を整え、患者サービスの充実と医療の向上を図るために、必要事項を検討する。			年9回
14	機種選定委員会	上　田　誠　司	副　院　長	上田副院長
	＊購入する医療用器機の仕様の決定又は機種の選定を行う。			必要に応じて開催
15	クリニカルパス検討委員会	津　村　和　大	糖尿病内科部長	野﨑副院長
	＊チーム医療の機能と効率性を高めるために、必要事項を検討する。			隔月
16	薬事委員会	小　林　加寿夫	薬剤部長	大曽根副院長
	＊薬事全般に関する事項について審議する。			年9回
17	保険委員会	金　井　歳　雄	病　院　長	病　院　長
	（ＤＰＣコーディング部会）	（野﨑　博之）	（副院長）	（病院長）
	＊診療報酬の請求に対する査定等について検討し、経営効率の向上に努める。			月1回
18	情報システム管理委員会	野　崎　博　之	副　院　長	野﨑副院長
	（システム運用検討部会）	（楢林　敦）	（小児科担当部長）	（野﨑副院長）
	＊医療情報システムの管理及び運用について検討する。			必要に応じて開催
19	手術部委員会	上　田　誠　司	副　院　長	上田副院長
	（外来手術室部会）	（和多田　晋）	（血管外科部長）	（上田副院長）
	＊手術部門の安全かつ円滑な運営をするために、必要事項の検討、調査審議及び提言を行う。			月1回
20	ＩＣＵ・ＣＣＵ運営委員会	逢　坂　佳　宗	集中治療部長	上田副院長
	＊ＩＣＵ・ＣＣＵの安全管理と集中治療室としての機能を発揮できる運営を推進する。			年2回
21	医療材料等委員会	市　東　昌　也	外科部長	病　院　長
	＊医療材料等の採用・死蔵化の防止、使用の効率化及び試用に関する事項を検討する。			月1回

番号	委員会名	委員長名	役職名	統括
	活動内容			開催予定
22	地域医療連携推進・強化委員会	中道憲明	整形外科担当部長	大曽根副院長
	（地域連携部会）	（中田　さくら）	（産科部長・婦人科部長）	（大曽根副院長）
	＊病院と地域の連携を図り、情報の共有化及びネットワーク作りを検討及び推進する。			年4回
23	がん診療推進委員会	市東昌也	外科部長	病院長
	（がん患者会サポート部会）	（山内　秀行）	（患者総合サポートセンター副所長）	（大曽根副院長）
	＊がん診療の充実と推進のための検討を行う。			年4回
24	褥瘡対策委員会	原　智	皮膚科部長	上田副院長
	＊褥瘡対策を討議し、その効率的な推進を図る。			月1回
25	救急医療運営委員会	田熊清継	救命救急センター所長	田熊所長
	（院内救急部会）	（齋藤　豊）	（救命救急センター医長）	（田熊所長）
	（当直業務検討部会）	（上田　誠司）	（副院長）	（田熊所長）
	＊救急部門及び災害時医療対策について、必要事項を検討する。			月1回
26	化学療法委員会	澤藤　誠	呼吸器外科部長	大曽根副院長
	＊外来治療センターの運営に関する必要事項を検討する。			月1回
27	広報委員会	金井歳雄	病院長	野崎副院長
	＊広報雑誌とホームページの作成を中心に、病院の広報活動の推進を図る。			年4回
28	ボランティア推進委員会	千島美奈子	副院長・看護部長	千島副院長
	＊ボランティア活動を円滑化して、患者サービスの充実及び向上を図る。			隔月
29	精神科救急医療検討委員会	齋藤寿昭	精神科部長	田熊所長
	＊精神科救急医療を円滑に実施するために、必要事項を検討する。			必要に応じて開催
30	病院機能評価検討委員会	上田誠司	副院長	上田副院長
	＊病院機能評価の受審等に関する事項について検討する。			必要に応じて開催
31	医療機器安全管理委員会	森田慶久	麻酔科部長	病院長
	＊医療機器の安全使用のための情報収集。医療機器の安全使用のための研修の策定及び実施、医療機器の保守点検の計画の策定。			年4回
32	糖尿病診療連携委員会	津村和大	糖尿病内科部長	野崎副院長
	＊糖尿病の診療連携について検討する。			月1回
33	チーム医療推進委員会	阿部玲音	リハビリテーション科部長	上田副院長
	（ＳＣＵ部会）	（阿部　玲音）	（リハビリテーション科部長）	（上田副院長）
	（栄養サポートチーム(NST)）	（阿部　玲音）	（リハビリテーション科部長）	（上田副院長）
	＊チーム医療について討議し、その効率的な推進を図る。			必要に応じて開催
34	緩和ケア委員会	大曽根康夫	副院長	大曽根副院長
	＊緩和ケアについて検討する。			月１回
35	外来診療委員会	相浦浩一	内視鏡センター所長	野崎副院長
	＊外来診療について検討する。			隔月
36	虐待対策委員会	土橋隆俊	小児科部長	田熊所長
	＊児童虐待に関する諸問題を調査及び審議する。			必要に応じて開催
37	行動制限最小化委員会	齋藤寿昭	精神科部長	大曽根副院長
	＊精神科入院患者の隔離・拘束・通信制限などにつきその妥当性を検討する。			月1回
38	内視鏡委員会	相浦浩一	内視鏡センター所長	病院長
	＊医療従事者の診療検査体制及び診療情報共有による質の高い円滑な医療提供を図る。			隔月
39	教育研究委員会	金井歳雄	病院長	病院長
	（研修管理委員会）	（小宮　浩一郎）	（整形外科担当部長）	（病院長）
	（研究部会）	（津村　和大）	（糖尿病内科部長）	（病院長）
	（図書部会）	（玉井　博修）	（消化器内科部長）	（病院長）
	（看護教育研修委員会）	（千島　美奈子）	（副院長・看護部長）	（千島副院長）
	（内科専門研修プログラム管理委員会）	（髙木　英恵）	（総合内科部長）	（野崎副院長）
	（内科専攻医研修管理委員会）	（髙木　英恵）	（総合内科部長）	（野崎副院長）
	＊研修医の教育支援と管理、臨床研究支援、図書の整備、業績管理を行う。			年2回
40	精神科身体合併症管理委員会	齋藤寿昭	精神科部長	大曽根副院長
	＊精神科身体合併症患者の診察・治療において院内連携を円滑にするための調整を行う。			月1回
41	働き方改革推進委員会	金井歳雄	病院長	病院長
	（医師事務作業補助者調整委員会）	（金井　歳雄）	（病院長）	（病院長）
	＊医師の負担軽減及び処遇の改善に資する計画の作成や達成状況の評価等を行う。			年2回
42	難病医療支援病院運営委員会	大曽根康夫	副院長	大曽根副院長
	＊神奈川県新事業の実施に伴う院内体制の整備を行う。			必要に応じて開催
43	認知症ケア委員会	北薗久雄	内科医長	野崎副院長
	＊認知症ケアについて討議、検討し、認知症の症状緩和、悪化予防の推進を図る。			月1回
44	医療放射線管理委員会	角田昭夫	放射線診断科担当課長	大曽根副院長
	＊放射線診療のプロトコール管理、被ばく線量管理、放射線の過剰被ばく等、放射線診療に関する対応、業務を行う。			年1回

Ⅱ　業　務　概　要

１　内科　　統括部長　野﨑　博之

【診療科紹介】

本院の基本理念は「私たちは、地域の基幹病院として、他の医療機関と連携し、「病気」でなく「病人」を診る心を大切に、安全安心で質の高い医療を、患者の皆さまとともに考え、実践し、健康と福祉の向上を通じて地域社会の発展に貢献することを目指します。」であり、病んでいる「臓器」のみを診るのではなく、病に苦しむ人に向き合い、その人そのものを診ることを目指しています。そのため臓器別の内科ではなく一内科制をひき、全身をみるようにしております。現在、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科・肝臓内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、神経内科、感染症内科、血液内科、緩和ケア内科、リウマチ膠原病・痛風センターの専門部門を擁しておりますが、内科統括部長のもと一内科として運用しております。

（１）総合内科　　部長　髙木　英惠

【診療科紹介】

当院では、内科専攻医は総合内科に所属し、内科各専門分野のスタッフの指導のもとで入院、外来、救急外来患者さんを診療しています。「総合診療科」の名称で専攻医教育を行っていた伝統を引き継ぎ、内科総合診療医（general physician）の育成を目指しています。また、知識や技能だけではなく、病気でなく病人をみる心を大切に、安全・安心で質の高い医療を実践し、地域社会の発展に貢献することを目標にしています。

【令和２年度の取組】

令和２年度には合計１８名の内科専攻医（卒後３年目７名、４年目６名、５年目４名、６年目１名）が総合内科に在籍し、COVID-19 を含む、多分野にわたる多くの患者さんの診療に取り組みました。また新専門医制度が始まって３年目となり、令和３年度の第１回内科専門医試験の受験に向けて、初回の研修修了認定を行いました。

（２）呼吸器内科　　部長　佐山　宏一

【診療科紹介】

呼吸器内科では、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)などの閉塞性肺疾患で難治性で専門的な検査・治療が必要な症例、肺癌などの悪性腫瘍、間質性肺炎などのびまん性肺疾患の専門診療に対応しています。

【令和２年度の取組】

専門性が高い疾患の検査・治療に積極的に取り組み、令和 2 年度は気管支鏡検査を 277 件行い、肺癌と悪性胸膜中脾腫の化学療法を 1270 件行いました。

（３）循環器内科　　部長　末吉　浩一郎

循環器疾患（狭心症、心筋梗塞、心不全、弁膜症、不整脈など）の診療を担当しています。急性心筋梗塞に対する緊急 PCI は 24 時間対応します。

【令和２年度の取組】

令和１年 10 月から「かわさきコロナリーホットライン」を開設し、救急隊を対象に急性心筋梗塞が疑われる症例の受け入れを行ってきました。令和２年 10 月からそれまでの救急隊に加え近隣の医院・クリニックから受け入れを開始しました。

令和２年 10 月から、西澤を中心に不整脈に対するカテーテルアブレーション治療を開始しました。

（４）消化器内科　　部長　玉井　博修

【診療科紹介】

消化器・肝臓内科では消化器疾患全般に対応いたします。

当院は日本内科学会、日本消化器病学会、日本肝臓学会、日本消化器内視鏡学会の認定施設となっております。

（５）血液内科　　医長　定平　健

【診療科紹介】

入院診療では主に、急性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・骨髄異形成症候群など造血器腫瘍に対する化学療法を行っております。診療には、日本血液学会認定血液専門医の指導のもと、内科・総合内科所属医師があたります。外来診療では主に、貧血・血小板減少・白血球減少など血液異常や出血傾向の原因精査と、造血器腫瘍に対する通院治療を行っております。慢性貧血や血小板減少に対する外来定期輸血にも対応しております。

【令和２年度の取組】

令和２年４月に川崎市立井田病院血液内科より定平健医長が異動して、令和３年度からの無菌室稼働と井田病院から川崎病院へ血液内科診療拠点を移す準備を行いました。井田病院血液内科常勤外山高朗医長は川崎病院で木曜午後の専門外来と内科・総合内科専攻医の指導を行いました。川崎病院・井田病院血液内科は一体的な運営を行い、令和３年１月より新規入院の多くを川崎病院で応需し、３月に井田病院での入院診療を終了して、川崎病院への患者移動を完遂しました。令和３年４月１日より 14 階南病棟に血液疾患センターを開設して、無菌室個室５床の稼働を開始しました。

（６）糖尿病内科・内分泌内科　　部長　津村　和大

【診療科紹介】

●当院の糖尿病内科・内分泌内科では、糖尿病・脂質異常症・肥満症・メタボリックシンドロームなどの代謝・栄養疾患、下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎・性腺などの内分泌疾患の専門診療に対応しています。

●糖尿病の診療では、各診療科にご入院となった患者さんの血糖管理に関するニーズがとても大きく、毎月 100 名超の新規相談を応需しています。これらに加えて、かかりつけ医様で血糖管理に難渋した症例の教育入院やインスリン導入等の相談、妊娠糖尿病の周産期管理などを多数行っています。

●内分泌疾患の診療では、脳神経外科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・産婦人科・放射線診断科等と協力しながら、適切な診断と治療に努めています。

【チーム医療の実践】

糖尿病診療では、医師・看護師・管理栄養士のチーム医療を実践した患者教育を重視しています。糖尿病専門医・糖尿病看護認定看護師に加え、30 余名の糖尿病療養指導士が中心になり療養指導の質向上に努めています。また当院では 1 型糖尿病に対するインスリンポンプ治療（CSII）にも対応しています。糖尿病フットケアを目的として、かかりつけ医様との循環型の連携受診にも応じています。

【糖尿病教室】

管理栄養士による食事療法の基礎と応用の紹介、リハビリテーション科医師による運動療法の講義、看護師による糖尿病療養指導、薬剤師による糖尿病関連薬の概説など、各回テーマ・内容を変えて糖尿病教室を開催しています。

【糖尿病教育入院】

教育入院の期間や入院日については、1 人ひとりの病態やご事情を勘案して、オーダーメイドで設定します。糖毒性解除と至適薬物選択、2 回の個別栄養指導、服薬指導等を含めた一連の教育と治療を完遂する場合には、概ね 2 週間を要します。

【その他の入院対応例】

●妊娠糖尿病の初期指導：6 分食体験学習と SMBG 導入を併行して行います（7 日間程度）

●下垂体機能精査：確定診断に必要な負荷試験や蓄尿検査等を行います（ 5 日間程度）

●副腎機能精査：確定診断に必要な負荷試験や蓄尿検査等を行います（ 5 日間程度）

【糖尿病・内分泌疾患の救急対応】

高血糖緊急症（糖尿病ケトアシドーシス、高血糖高浸透圧症候群）、下垂体卒中、甲状腺クリーゼ、粘液水腫性昏睡、副腎クリーゼ、褐色細胞腫クリーゼ、高度カルシウム代謝障害などの内分泌緊急症の治療では、救急科・救命救急センターおよび総合内科等と協力・連携しながら対応しています。

【令和２年度の取組】

院内では糖尿病診療連携委員会を通じて医療・診療科連携の質を高め、院外では地域連携の一層の拡充を図りました。当地における地域連携の実践は、全国で活用されている「糖尿病連携手帳」（日本糖尿病協会編）にも反映されています。

高血糖緊急症患者の応需数は前年比 1.8 倍に増加し、のべ診療患者数・インスリン治療患者数・他医療機関からの紹介患者数など、いずれも前年比 1.2～1.3 倍に増加しました。さらに、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が拡大する中にあっても Web を活用した市民啓発を行い、人材育成においては日本内科学会総会・講演会で優秀演題賞・指導教官賞を受賞しました。

令和３年度の「病態栄養治療部」新設に向けて、病態栄養治療と糖尿病治療の診療体制を包括的に整備しました。

（７）腎臓内科　　部長　安藤　孝

【診療科紹介】

腎臓内科では、さまざまな腎疾患の精査および膠原病や糖尿病等に起因する慢性腎臓病の治療・指導に対応しています。限られたスタッフの中で血液透析の導入治療を優先した診療体制としていますので、血液透析の導入になる直前まではかかりつけ医のもとで定期受診定期処方をお受け頂き、患者さんの病状に合わせた頻度で併行して当院の腎臓内科外来を受診頂く体制となっています。

【令和２年度の取組】

令和 2 年度は、32 件の腎生検を実施、血液透析導入患者数は 30 名でした。従来は土曜日の血液透析を全てお断りしていましたが、需要増に対応して土曜透析を行いました。緊急透析への対応はまだまだ不十分ですが、院内各方面の協力を得ながら、周辺医療機関からの当院への期待に応えるべく体制を整備していきたいと考えています。

透析患者さんの合併症治療については、腹膜透析患者の受け入れを行いました。当院での腹膜透析導入もかなうべく準備を進めています。

指定難病（IgA 腎症、多発性嚢胞腎、アルポート症候群、ネフローゼ症候群、急速進行性糸球体腎炎など）への体制整備（難病指定医）も整い、当地域における腎疾患診療の充実、川崎市民へのサービス向上（難病患者の通院負担の軽減）にも寄与しています。

（８）神経内科　　部長　野﨑　博之

【診療科紹介】

2017 年 4 月より高度脳神経治療センター開設に伴い、積極的に脳血管障害の治療に努めております。頭痛・めまい・しびれなどの神経系の症状や、パーキンソン病、重症筋無力症などの神経疾患の診療も行っております。

また内科の一部門として、各種内科疾患に伴う神経合併症を含め、総合的な診療を行っております。

【令和２年度の取組】

日本は現在、世界でも類を見ない勢いで高齢化が進んでいます。認知症は高齢になるほど発症リスクが高まる疾患で、今後認知症高齢者は増加するとかんがえられています。そのため 2021 年 4 月より完全予約制の「もの忘れ外来」を開設いたします。

（９）感染症内科　　部長　坂本　光男

【診療科紹介】

当院は感染症病床を有する第 2 種感染症医療機関、HIV/エイズ診療拠点病院に指定されています。ただし、結核病床は有していないので、結核診療には対応しておりません。結核および非結核性抗酸菌症につきましては、疑い例も含めて指定の医療機関（川崎市立井田病院など）にご紹介下さい。

結核を除く 2 類感染症、新型インフルエンザ、中東呼吸器症候群（MERS）等の新感染症、3～5 類感染症を中心に診療しています。特に感染性腸炎（食中毒・旅行者下痢症を含む）、輸入感染症、HIV 感染症/AIDS、性感染症、成人における小児流行性ウイルス感染症などの診療に力を入れています。ただし麻疹につきましては、厳重な空気感染予防策が必要となります。時間帯によっては対応が困難なこともあります。受診希望の際は、必ず事前にご連絡をお願いいたします。

各種ワクチン接種（本邦未承認薬および黄熱ワクチンは除く）や海外渡航前の事前相談も可能です。診断にあたっては川崎市健康安全研究所や国立感染症研究所とも連携し、正確な病原診断を心がけております。

【令和２年度の取組】

2019 年末に中国武漢で報告された COVID-19 は瞬く間に世界中に拡散しました。当院では 2020 年 2 月のダイヤモンドプリンセス号での集団発生以来、COVID-19 の診断・治療を行ってきました。2020 年 4 月には緊急事態宣言が発令されるに至り、一時的に患者数の減少を認めましたが、その後再び増加に転じ、増減を繰り返しつつ、徐々に感染者数が増加しています。当院でも流行状況に合わせ感染症病床を増床し対応しています。累計の入院患者数は 1 年で 300 例にも及んでいます。また 2021 年 3 月からは職員に対する新型コロナウイルスワクチン接種も開始しました。引き続き COVID-19 入院病床の確保、ワクチン接種に協力してまいります。

（10）リウマチ膠原病・痛風センター　　所長　田口　博章

【診療科紹介】

当センターの診療は、初診の方は、はじめにリウマチ内科の医師が担当し、病状に応じて、整形外科、リハビリテーション科の外来担当医に診察して頂きます。内科では、最新の薬物治療を中心とした病気全体の管理を行います。整形外科では、関節リウマチによる関節機能障害に対する手術療法を行います。リハビリテーション科では、装具治療、手術療法後のリハビリテーションなどを中心に行います。

【令和２年度の取組】

関節リウマチや膠原病など、いわゆるリウマチ性疾患全般の疾患の診療に当たります。

代表的な疾患は、関節リウマチ、悪性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス（SLE)、混合性結合組織病（MCTD)、シェーグレン症候群、抗リン脂質抗体症候群、強皮症（SSc)、多発性筋炎・皮膚筋炎（PM/DM)、血管炎症候群、強直性脊椎炎、反応性関節炎 、乾癬性関節炎、成人スチル病、ベーチェット病 、リウマチ性多発筋痛症、RS3PE 症候群、再発性多発軟骨炎、難治性痛風関節炎となります。

当センターは、内科系と整形外科系の専門医師、さらにリハビリテーション科の医師や理学療法士、日本リウマチ財団認定看護師らが互いに得意な部分を受け持ち、協力して診断、治療を総合的に行います。比較的病期の短い患者に対しては、薬物治療が主となりますが、病期が長く、関節の修復が必要な場合には手術治療も同じ施設で行います。　関節リウマチの薬物治療にはメトトレキサートや生物学的製剤（バイオ抗リウマチ薬）も積極的に使用しています。それに伴う副作用を最小限に留めるよう細心の注意を払っています。膠原病や関節リウマチに併発した合併症や薬剤による副作用への対応は、入院して頂き行っています。

２　小児科　　部長　土橋　隆俊

【診療科の紹介】

川崎市南部の小児科医療を担う基幹病院として、スタッフ９名、専攻医５名の計 14 名で診療を行っております。市中病院ではありますが、15 歳未満の小児患者の専門病棟があり、外科系疾患の患児も入院しております。病棟の診療体制はチーム制で、スタッフと専攻医が組み丁寧な診療を心がけております。そこに専攻医や学生実習も組み込まれ、専攻医が学びながら教育もできるような体制を構築しております。

小児科では、感染症や痙攣性疾患を中心とした急性疾患全般と、小児内科系の各専門分野について、診療を行っています。川崎南部の『最後の砦』の基幹病院として、可能な限り近隣の先生方からのご紹介を受けられるように頑張っております。消化器外科的疾患や悪性腫瘍等は、診断確定の上専門病院に紹介するようにしております。

スタッフ 9 名はそれぞれが専門分野を持ち診療にあたっております。循環器、内分泌代謝、感染症、呼吸器、アレルギー、腎臓とそれぞれの専門性を生かしつつ、午後の専門外来や紹介に対応しております。予約制で循環器・内分泌代謝・腎臓・アレルギー・神経・精神保健・血液についての専門外来を非常勤医師も含め行っています。

夜間休日は川崎市南部小児急病センターとして、院内外の医師で１次・２次救急に対応しています。

３　新生児内科　　部長　森　和広

【診療科の紹介】

新生児内科では、以下の状況の院内出生児および他院からの搬送児の入院診療に対応しています。

●早産・低出生体重児（在胎 26 週以降を目安に受入れています）
●呼吸状態の不安定な児
●仮死状態で出生した児
●発熱を伴う児
●嘔吐や哺乳不良、血便など、消化器症状のある児
●先天的な特徴のある児
●黄疸の強い児
●けいれんをきたした児
●高次周産期施設から、逆搬送を要請された場合
●屋外など分娩施設外で出生した直後の児

周産期救急に対応することを重視しています。搬送依頼に、24 時間体制で対応します。

こども病院・大学病院とも連携し、医療レベルの向上に努めています。当院での対応に困難が予想される一部の外科系疾患の場合、適切な医療機関への紹介・搬送転院を行います。

【令和２年度の取組】

①神奈川県周産期救急医療事業への参画による、周産期医療機関との連携の継続的取組
②早産児（35 週未満）に適応のある、予防接種への対応
③周産期に関連した、こころのケアのための相談室開設

４　精神科　　部長　齋藤　寿昭

【診療科紹介】

川崎市基幹病院かつ総合病院有床精神科であり、県・市の精神科救急体制の一環として、また身体合併症の治療も担うべきと考えております。一般的な薬物療法での効果が認められない患者さんにつき、修正型通電療法（m-ECT）を施行しております。さらに統合失調症難治例に対して適応を吟味したうえ、クロザピンの使用を入院および外来でおこなっております。

【令和２年度の取組】

令和 2 年度の当科入院件数は 219 人（前年 187 人）平均在院日数は 30.1 日（前年 33.5 日）で地域連携による入院患者の増加、診療の効率化による在院日数の短縮に努めています。外来新患数は 307 人（前年 314 人）再来数は 14310 人（前年 15269 人）とやや縮小傾向にはあります。当科は 4 県市協調精神科救急の基幹病院として 2 次、3 次精神科救急を担っています。令和 2 年度 4 県市精神科救急患者は 28 件で前年 17 件に比し増加しました。これは単に救急件数が増えていることを示すのではなく、受け入れ病床確保のために後方移送の円滑化を進めていることにも関係しています。そのためコロナ禍ではありますが、市健康福祉局、県との協議を続けています。また単科精神病院からの通電療法の依頼も続いており、令和 2 年度はその通電療法はその通電施行回数ですが 329 回で前年の 272 回を上まっています。その他の身体合併症、治療抵抗性統合失調症治療薬クロザピン使用などでの単科精神病院からの転院、また精神症状の急性増悪などによる入院は令和 2 年度 67 人（前年 75 人）でした。今後も患者サポートセンター、精神保健福祉士との迅速な協力体制を進め病病連携、病診連携をすすめて参ります。

５　外科　　部長　市東　昌也

【診療科紹介】

（1）食道・胃外科

上部消化管グループは担当医師２名体制で胃・食道領域疾患の診療を行っております。週１回の内科との合同カンファレンスで患者情報を共有し、検査および治療を可及的速やかに行います。症例によって所属医局である慶應義塾大学外科学（一般・消化器）の上部消化管班スタッフとの連携のもと、最適な低侵襲治療を提供できるシステムを取り入れております。当科の特徴は患者さんに優しい治療を提供することにあり、病気に対する治療の根治性と患者さんに対する低侵襲性をより高いレベルで提供出来るように日々追求しています。

（2）大腸・肛門外科

大腸癌に対する治療は、大腸肛門外科グループが内視鏡診断・内視鏡治療から手術までを担当しております。

「根治性を損なわず、より低侵襲な治療」を選択し、患者さんの体への負担が少しでも少なく済むよう、心がけております。ご紹介いただいた患者さん、先生方にご納得いただけるような治療を目指し全力を注いで治療に取り組んでおります。

（3）肝胆膵外科

日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設として肝胆膵領域の専門診療に対応しています。より専門性の高い高度な医療を重視する診療体制です。当科では日本肝胆膵外科学会名誉指導医・高度技能指導医・専門医が４人常勤し、肝胆膵医療チームを結成し低侵襲手術から拡大手術まで柔軟かつ有機的に治療に専念致します。

【令和２年度の取組】

7 月より腹急ホットラインを設置いたしました。24 時間 365 日、地域のかかりつけ医と当院消化器疾患を担当する医師が直接電話対応いたします。緊急対応が必要な際はいつでも利用できるよう体制を整えております。

引き続き近隣の先生方とは連携を強化して参りますのでよろしくお願いいたします。

乳腺外科　　部長　萬谷　京子

【診療科の紹介】

乳腺外科では、乳腺専門医を責任者として、乳房や腋窩に発生する疾患の診療を行っています。診断のため、マンモグラフィ検査、乳房超音波検査、乳房造影 MRI 検査、超音波ガイド下針生検・吸引式乳腺組織生検などの検査を可及的速やかに行います。検査結果に応じて、標準的と考えられる治療方針をご提案し、患者さんのご希望を尊重しながら、患者さんおひとりおひとりに一番適切な治療を行うことを目指しています。当科では、乳腺・腋窩の悪性病変（乳癌、悪性葉状腫瘍、他臓器癌の転移など）・良性病変（線維腺腫、乳管内乳頭腫、良性葉状腫瘍、乳腺症、急性乳腺炎、乳輪下膿瘍、Mondor 病など）の専門診療に対応しています。小児の乳癌の患者さんの検査・治療の経験もありますので、乳腺腫瘍が疑われる小児の方がいらっしゃいましたら、ご紹介いただけたらと思います。

【令和２年度の取組】

当科では、「痛みがほとんど感じられない局所麻酔の方法」を考案し、針生検などの局所麻酔を必要とする処置の時に実施しております。ほぼ無痛に近い状態で組織や細胞を採取する検査ができますので、痛みに敏感な方、認知症の方、検査への恐怖感が強い方などにもお勧めできます。患者さんには大変好評です。

血管外科　　部長　和多田　晋

【診療科紹介】

●「末梢動脈疾患」の診療

閉塞性動脈硬化症、腹部大動脈瘤など動脈瘤疾患に対しては、低侵襲である血管内治療を積極的に導入しておりますが、当科の強みである外科的治療や薬物療法も併用したハイブリッド治療を行っております。

●「静脈、リンパ管疾患」の診療

深部静脈血栓症、リンパ浮腫、下肢静脈瘤などを精査加療いたします。

静脈瘤に対する治療においては、レーザー機器を導入し、ストリッピング術、硬化療法含め患者さんのニーズに合わせた治療を行っております。

【令和２年度の取組】

手術室で使用可能なフラットパネル型Ｃアームを導入し、手術クオリティが向上し、手術件数もさらに増加しました。

６　呼吸器外科　　部長　澤藤　誠

【診療科の紹介】

当院の呼吸器外科は平成 10 年４月に開設されましたが、診療体制が確立したのは、同年 10 月に常勤医として江口（慶應大 90 年卒．現東京歯大市川病院）が赴任したときからとなります。平成 14 年７月に澤藤が交代して赴任し、現在まで科の責任者を務めており、平成 19 年 4 月から呼吸器外科部長の任に就いています。平成 30 年２月からは、井田病院の常勤医の異動にともない、井田病院の呼吸器外科外来（週２回）を当院の医師が行うようになりました。施設認定では、令和２年に呼吸器外科専門医制度による専門研修基幹施設に認定されています。

呼吸器外科では、肺癌、縦隔腫瘍、胸膜中皮腫などの腫瘍性疾患や、気胸、肺真菌症などの呼吸器・縦隔の良性疾患に対する外科治療、および気管・気管支ステントなどの内視鏡的治療を担当しています。診断や治療方針に関しては，毎週行われる呼吸器内科、放射線科との合同カンファレンスでも検討を行い、正確な診断、最適な治療法の選択を行うように心がけています。

手術に際しては、胸腔鏡の使用や、気管支・血管形成手技を応用した肺を温存する術式の適応など、手術手技の工夫をできるかぎり行って、侵襲を少なくするように努めています。

肺癌に対する標準的な手術は、4～8cm の創で行う胸腔鏡補助の小開胸手術を主体として行っています。臨床病期Ⅲ期の局所進行肺癌では、根治性が期待でき、かつ治療の安全性が担保できると判断した症例に対しては、手術を含めた集学的治療（化学療法、放射線療法を先行して行い、その後に手術を施行）も行っています。

呼吸器疾患は比較的高齢な方に多く、心臓病や糖尿病などの合併疾患を抱える患者さんも少なくありません。そのような患者さんに対しては、あらゆる診療科のスタッフが常勤する総合病院の利点を生かし、各領域の専門医の協力を得て周術期診療を行っています。

【令和 2 年度の取組】

令和 2 年度は，医師の異動はなく、昨年度に続いて澤藤、井澤、奥井の 3 名の体制で、従来通りの形で診療を行いました。

今年度は、手術数が前年の約 77％と、2 割以上の減少をみました。日本肺癌学会の全国調査では、令和 2 年の新規肺癌患者は前年より 6.6%減少し、新型コロナウイルス感染蔓延による受診控え、検診控えの影響とみられています。また、当院を含む神奈川県の呼吸器外科施設 12 病院に対して令和 2 年 8 月に行われた新型コロナ第 1 波時の診療状況の調査では、気胸の手術が 3 割以上減少したと報告され、室外活動自粛による発症リスクの減少、受診控えなどが原因と推察されています。当院の手術数減少も、新型コロナ感染に関連することが考えられ、来年度以降の推移を注視したいと思います。一方、新型コロナ肺炎患者に対して行った手術は気管切開 1 例のみでしたが､新型コロナ肺炎時の画像検査で発見された肺癌、胸腺腫、非定型抗酸菌症各 1 例の手術を、肺炎の治癒後に行いました。呼吸器疾患が、パンデミックにより発見される場合があることを認識した経験でした。

７　心臓血管外科　　部長　井上　慎也

【診療科紹介】

平成元年に川崎区で唯一の心臓血管外科として開設されて以来、当院は川崎市南部地域の中核病院としての役割を担ってまいりました。現在、心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設（関連施設）として認定されています。心臓血管外科専門医２名が在席する当科では、心臓弁膜症、冠状動脈硬化症、大動脈解離、胸部大動脈瘤などに対する外科手術治療を担当しています。関係各科（循環器内科、麻酔科、看護師、臨床工学士など）と医療チームを作り、安全性を最優先に考えた、患者さん、ご家族が充分納得していただける最適な治療を提供できるよう努めています。

【令和２年度の取組】

院内の様々な科の先生方からのコンサルトに対応しております。手術に関しましては、循環器内科からの患者さんの手術に加えて、令和２年度は外科の患者さんの胸部大動脈瘤に対しましてステントグラフト内挿術を施行いたしました。

８　脳神経外科　　部長　片山　真

【診療科紹介】

約 150 万人が居住する川崎市の拠点病院脳神経外科として高度な専門性医療を行うことが求められていると考えております。一般脳神経外科疾患や地域医療にも貢献することを目指しております。病院の基本理念である「病気」ではなく「病人」を診ることを貫徹し、患者様に寄り添ったプロフェッショナルな治療を施すべく努力をしております。

【令和２年度の取組】

従前より多くの悪性脳腫瘍患者を拝見させていただいておりましたが、化学療法・免疫療法の発展、普及に伴って延長する患者様予後に注目しながらより一層集学的治療に注力して参ります。

高難易度である頭蓋底手術に積極的に取り組んでおります。

脳卒中・外傷といった急性期疾患にも積極的に取り組んでおります。

来年度よりパーキンソン病に対する深部脳刺激療法（DBS: deep brain stimulation）を導入する予定としており準備を進めております。

９　整形外科　　部長　上田　誠司

【診療科の紹介】

骨折を主とした外傷、脊椎脊髄疾患、上下肢の関節外科、手外科、骨軟部腫瘍の治療を行っています。救急科を窓口として３次救急を積極的に受けているため、多発外傷、重症例も多く、他科との連携を円滑に行うことが重要です。他科との協力、コメディカルとの協力を行いながら、チーム医療を推進しています。高齢化に伴う骨粗鬆症の治療も積極的に行っています。医療の進歩とともに専門性の高い手術が増えているため、脊椎脊髄チーム、肩関節外科センター、関節機能再編・人工関節センター、手肘外科センター、骨軟部腫瘍チームによる高度な手術を行っています。

【令和２年度の取組】

（１）脊椎脊髄外科

安全で正確な手術は言うまでもなく大事なことですが、まず多岐にわたる鑑別診断を念頭に置いた正確な診断を心がけています。また、手術の即断はなるべく避け、保存療法を重視しています。椎間板ヘルニアには内視鏡手術または顕微鏡手術を行っていますが、可能な限り保存療法を選択しています。椎間板ヘルニアに対する椎間板内薬物注入療法（ヘルニコア）による治療も行っています。高齢化社会を迎えた近年、患者数が増えている骨粗鬆症、脆弱性脊椎骨折、成人脊柱変形に対する手術にも取り組んでいます。またリウマチ関連脊椎疾患も当院リウマチ膠原病・痛風センターと連携して治療しています。

（２）肩関節外科センター

肩関節、肩鎖関節に関連した疾患を治療致します。腱板断裂に対する関節鏡を使った腱板修復術、変形性肩関節症、関節リウマチが原因の関節症に対する人工肩関節置換術、肩の脱臼に対し関節鏡視下関節唇修復術、肩鎖関節脱臼に対する靭帯再建術などを行っています。また、複雑な肩甲骨骨折、鎖骨骨折に対する骨接合術を行います。上腕骨頸部骨折には重症度に応じて骨接合術、人工骨頭置換術、リバース型人工関節を行います。

（３）関節機能再編・人工関節センター

「関節機能再建・人工関節センター」には膝関節および股関節を専門とし、人工関節置換術や関節鏡視下手術に習熟した医師が在籍しており、様々な下肢疾患に対応しています。変形性関節症、関節リウマチや骨壊死に対する人工関節置換術（膝・股）や骨切り術を得意としております。半月板損傷、十字靭帯損傷、軟骨損傷、滑膜炎や膝蓋骨不安定症に対する低侵襲な関節鏡視下手術も積極的に行っています。

（４）手肘外科センター

当院は日本手外科学会研修施設に認定されており、当センターでは慶應義塾大学整形外科学教室およびその関連病院で手肘外科の豊富な経験を積んだ医師が手術を行っています。手肘のほとんどの疾患に対して豊富な経験があり、これらの疾患に対して常に最高レベルの専門的な治療を提供できるよう取り組んでいます。特に橈骨遠位端骨折の変形治癒や最

少侵襲手術法、TFCC 損傷の手術法に関して多くの研究業績があります。

（５）骨軟部腫瘍外科

井田病院から専門医の西本医師、保坂医師を招聘しています。整形外科領域、すなわち頚部より下の骨や、軟部組織（おもに筋肉、脂肪組織、皮下、結合組織、末梢神経など）に発生する原発性の骨軟部腫瘍の治療を行っています。

10　リハビリテーション科　　部長　阿部　玲音

【診療科紹介】

当院のような急性期病院では、さまざまな疾病や外傷、またその治療に伴う安静・臥床によって、障害が残存し、入院前の身体機能を維持できず、自宅退院が困難となる可能性がある。当科では、そのような患者に対し、できるだけ障害を軽減し、早期の自宅復帰ができるように、主治医や病棟を始め、多職種と連携して、理学療法・作業療法・言語療法・嚥下療法等の様々なリハビリテーション医療を提供している。

【令和２年度の取組】

リハビリテーション科において、令和２年度より新規に取り組みを行ったものについては、以下の通りである。

- 新型コロナウイルス感染症患者に対し、疾病改善・後遺症軽減のために発症早期から積極的なリハビリテーションを行った。
- 新型コロナウイルス感染症蔓延に対し、スタッフの配置を病棟担当制に変更し、併せて入院患者へのリハビリテーションの実施場所を病棟で行うように設定した。
- 新型コロナウイルス感染症蔓延に伴う高齢者の運動量減少に対し、健康増進に関わる動画を作成し、youtube にて配信した。

川崎市立病院中期経営計画 2021-2025 に基づく取り組みについては､以下の通りである。

- 効率の良いリハビリテーション医療の提供のため、病棟でのリハビリテーションを行うのとともに、病棟リハ室の設置準備を継続している。
- ICU や救急病棟を中心とした早期リハビリテーションの積極的な導入・拡大を進めている。
- 平成 31 年度以降の療法士増員に伴う管理・指導体制を充実させている。

上記以外としては、栄養サポートチーム・緩和ケアチーム・脳卒中ユニット・呼吸器回診などの院内の他職種連携チームでの積極的な活動、糖尿病教室・がんサロン・市民公開講座等での市民への啓蒙活動などを、以前と同様に継続している。

【令和 2 年度業務実績】

- リハビリテーション科新規患者数および実施単位数

	患者数	単位数
脳血管疾患	464	28154
運動器疾患	832	24555
呼吸器疾患	516	14472
心大血管疾患	303	4780
廃用症候群	642	20193
がん	375	8978
合計	3132	101132

- リハビリテーション科での検査等の件数
  - 筋電図（リハビリテーション科担当分）：93 件
  - 嚥下造影：449 件
  - 嚥下内視鏡：6 件
  - ボツリヌス療法：39 件（患者数 14 名）

11　形成外科

部長　　西脇　正夫
副医長　北畑　伶奈

【診療科の紹介】

形成外科は、先天性の身体表面の変形や色の変化、外傷や手術後の欠損や変形を出来るだけ正常な状態に近づけるように修復し、QOL の改善を図り、早期の社会復帰を助ける外科の一分野です。

皮膚や軟部組織を対象としていますが、顔面に関しては骨の病気や外傷も治療しています。また、がん治療後や外傷後の変形を修復する再建医療も、形成外科の扱う分野の一つです。

【令和２年度の取組】

顔面外傷などの形成外科一般手術を中心に、小児の先天異常や悪性腫瘍切除後の再建といった高難度の手術まで幅広く取り扱ってきた。他科手術における創傷トラブルについても積極的に依頼を受けるようにしている。

また、若手医師への教育活動の一環として研修医向けの縫合練習会を開催し、適切な外科手技の普及にも力を入れてきた。

12　皮膚科

部長　原　智
医長　西本　周平

【診療科の紹介】

皮膚科は３人体制で診療しておりますが、令和２年度に大幅に人員が入れ替わりました。当院の皮膚科は「皮膚疾患全般」に対応しますが、病院皮膚科としてクリニックなどで対応困難な疾患により注力しています。特に皮膚腫瘍（良性・悪性）の診断・治療（手術・化学療法など）や難治な乾癬・アトピー・蕁麻疹などへの生物学的製剤導入などには高い専門性をもって取り組んでいます。その他、内服・外用など通常の治療で効果不十分な難治な皮膚疾患への精査・加療、川崎南部医療圏では数少ない皮膚科入院病床を有する病院として、皮膚感染症（蜂巣炎や帯状疱疹など）や重症な中毒疹など入院を要する疾患の入院治療を行っています。

【令和２年度の取組】

令和２年には皮膚科学会の乾癬生物学的製剤使用承認施設に認定されました。乾癬外来・アトピー外来を新たに設置して、これらの疾患に専門的な取り組みを行い、全身療法を行う患者さんは 70 名超に達しております。また、皮膚悪性腫瘍にも積極的に取り組み、その入り口として皮膚腫瘍外来の設置。診断から速やかな治療への移行に取り組みました。化学療法のレジメンの整備を行い、５種類のがん種に対して６種類のレジメンが稼働しました。

13　泌尿器科　　部長　原　智

【診療科の紹介】

泌尿器科では、尿路悪性腫瘍（腎癌、腎盂・尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍)、副腎腫瘍、尿路結石症、前立腺肥大症などに対して、負担の少ない腹腔鏡手術や経尿道的手術を積極的に取り入れ、生活の質（ＱＯＬ）を重視した、患者さんに優しい医療を提供しております。

【令和２年度の取組】

昨年度は、排尿自立支援チームを立ち上げ、週に一度の回診をおこない、排尿自立へのサポートを開始しました。また、2016 年に導入した da Vinci を用いたロボット手術を合計で 81 例（前立腺癌；65 例，腎癌；16 例）に施行しました。

14　産科・婦人科　　部長　中田　さくら

【診療科の紹介】

当科は地域周産期母子医療センターとして、新生児内科/NICU と連携して、川崎市南部地域の周産期救急の中核病院としての役割を担っています。周産期ハイリスク妊婦の管理、母体搬送の受け入れだけではなく、社会的支援が必要な妊産婦の管理も地域と連携して行っています。

また、婦人科手術も数多く行い、良性疾患から悪性腫瘍手術に至るまで幅広く対応しております。とりわけ伝統的に内視鏡手術症例が豊富であり、安全性を重視した低侵襲な手術を心掛けております。1985 年に当科で開発された子宮鏡手術については、県内県外問わず多数の患者さんの御紹介を頂いております。

【令和２年度の取組】

産婦人科医局員は 9 名、産婦人科専攻医 2 名（D3.D5）の診療体制でした。

令和 2 年度は全国的に出生数が減少したこともあり、分娩件数 715 件でした。

また、感染症内科とともに新型コロナ感染妊婦の受け入れも行いました。

15　眼科

部長　上田　誠司
副医長　園部　秀樹

【診療科紹介】

外来は月曜日から金曜日の毎日、手術は火曜日、木曜日の２日間で行っております。

外来検査は、広角眼底カメラ(OPTOS California)、ゴールドマン視野計、ハンフリー視野計、swept-sourse OCT(TOPCON Triton)、IOL master 700、螢光眼底造影検査（FA、ICGA)、エコー(TOMEY UD-8000AB)、網膜電位図(TOMEY LE-4000)、等揃えており、一通りの検査が可能です。また、眼底レーザー、YAG レーザーも揃えており、各種疾患にも対応しております。

手術は、硝子体手術、白内障手術をメインに行っております。白内障手術は患者さんの希望、および全身状態に応じて日帰り手術、入院手術が選択できます。硝子体手術におきましては、広角観察システムとコンステレーションを用い、25G、27G の小切開硝子体手術を施行しております。硝子体手術は全例、経テノン嚢下球後麻酔を用いており、より低侵襲の手術を心がけております。また、フランジ法による強膜内固定術も行っております。白内障手術、硝子体手術ともに局所麻酔での手術が難しい患者さんに対しては全身麻酔での手術も行っております。

滲出性加齢黄斑変性に対し、光線力学療法療法（PDT）も導入しております。新規の患者さんへの適応はもちろん、抗 VEGF 薬に抵抗性のある患者さんにおいても注射回数を減らすことができる等のメリットがございます。

【令和２年度の取組】

新型コロナウイルス感染流行に対して、在籍医師・スタッフはワクチン２回接種を終えております。病院全体として患者さんは病院エントランスで体温測定し、LAMP 法や抗原検査も即日対応可能です。眼科外来は透明なシャワーカーテンで障壁を設置しております。手術時には患者様はマスクを装用したまま施行しております。

また、眼科内で専門性を高めており、網膜硝子体疾患に対する手術や非観血的治療、斜視手術を含めた小児診療にも対応しております。難治性の神経眼科領域やぶどう膜炎に対しても当院内科や各種診療科と密に連携して治療にあたっております。

令和 4 年度を目途に緑内障もしくは角膜の専門医を増員することを検討しており、より幅広く質の高い医療が提供できるように努めてまいります。

16　耳鼻咽喉科　　部長　重冨　征爾

【診療科紹介】

当科では耳・鼻・咽頭喉頭にとどまらず、鎖骨から上の範囲で頭蓋・脳脊髄・眼球・歯を除いた、いわゆる「頭頸部」の広い範囲を担当しています。すなわち QOL（quality of life：生活の質）に直接影響する聴覚・嗅覚・味覚・平衡覚などの感覚機能、口腔・咽頭・喉頭が担う咀嚼・嚥下・呼吸・発声・構音などの運動機能に関わる診療を行っています。これらの機能を改善する診療を通して QOL の向上に貢献する役割を使命とし、近接する境界領域の専門の各診療科との連携を重視しながら、安全で且つ質の高い医療の実践に努めています。

当院ではもちろん耳鼻咽喉科疾患全般を診療していることに加え、さらに頭頸部領域の腫瘍性疾患にも広く対応しています。頭頸部悪性腫瘍（口腔癌・上咽頭癌・中咽頭癌・下咽頭癌・喉頭癌・鼻副鼻腔癌・唾液腺癌・甲状腺癌など）の治療においては根治性の向上だけでなく、身体的侵襲をできるだけ少なくすると同時に、治療後の機能を可能な限り良くすることを考慮しています。専門的な知識と豊富な経験に基づいて、進行癌に対しても手術・放射線治療・化学療法を適確に組み合せ、個々の患者さんに最適な治療法を選択するようにしています。　関連各領域の専門診療科との良好な診療連携を築くことにより、きめ細かい高度なチーム医療の推進を心掛けています。

【令和２年度の取組】

2016 年より手術室に耳鼻咽喉科用のナビゲーションシステム（Fusion ENT Navigation System）を導入し、内視鏡下副鼻腔手術の操作性、正確性および安全性が飛躍的に向上しています。また早期の下咽頭癌・声門上癌に対しては、根治性と喉頭機能温存を両立する低侵襲な手術治療として、鏡視下咽頭喉頭悪性腫瘍手術を積極的に行っております。

17　歯科口腔外科　　部長　鬼澤　勝弘

【診療科の紹介】

当科は川崎市南部地域における口腔外科の基幹病院で、口腔顎顔面領域に現れるすべての疾患、特に埋伏歯抜歯、歯根端切除術、外科矯正治療（下顎前突症など)、口腔腫瘍、顎関節症、顎顔面骨折、歯科インプラント治療などを対象といている。治療においてはコーンビーム CT による詳細な診断と３D プリンター顎骨模型による術前計画を積極的に行い、安全正確な手術を施行している。専門外来は保存補綴顎関節症（佐藤)、　歯科インプラント（安居、鬼澤、河奈)、　顎変形症　（鬼澤、安居、柴)、歯根端切除術（軽部)、歯科矯正相談（鬼澤）を開設している。

当科における顎骨歯槽手術の方針としては末梢神経障害の防止、腫瘍摘出術の抜歯本数の最小化、歯根端切除術の積極的施行による歯の保存、インプラント体埋入の安定した高い成功率、患者ニーズに基づいた顎矯正手術を常に心掛けている。また、かかりつけ医院の先生方と緊密に連携をとり、患者さんに疾患や治療について丁寧に説明し、十分なご理解とご納得をして頂いた上で治療を行うことに努めている。　治療後は、かかりつけ医院様へお戻しすることを原則としている。

【令和２年度の取組】

人事では木村萌が慶應に帰室し、長嶺が 4 年目専修医で着任した。年度当初の 4、5 月は COVID-19 の影響で、全身麻酔下手術を骨折手術以外は延期とし、外来手術においては Full PPE で症例数を減らして施行した。全身麻酔下手術は 6 月に再開した。外来手術は例年の 1/2 程度の症例数に制限し、厳重な感染予防対策のもとで施行した。幸い当科からの院内感染は認められなかった。入院手術件数は顎矯正手術が増加を示したが、骨折手術は大幅に減少した。

研究については、抜歯、顎骨壊死、インプラント関連、骨再生を中心に展開しているが、上顎正中過剰埋伏歯の CT 画像評価による臨床的検討は投稿中で、前立腺癌と顎骨壊死の観察的研究については３Ｏに論文掲載された。また、科学研究費（基盤研究 C）の助成を受け、慶應義塾大学および東京医科歯科大学との共同研究により、歯髄幹細胞を用いた顎骨壊死予防に関する基礎研究を進めている。

18　放射線診断科・放射線治療科

放射線診断科　　部長　倉田　忠宜

【診療科の紹介】

放射線診断科では主に CT、MRI について整形外科領域など一部を除き原則として当日中に診断レポートを作成し、オンラインで院内に配信しています。腹部・表在の超音波診断を含め、総合的に画像診断を行っています。IVR 治療（画像診断技術を応用したより侵襲の少ない治療）も専門医のもとで各科と協力して施行しており、肝がんに対する肝動脈化学塞栓療法やラジオ波焼灼療法、閉塞性動脈硬化症やシャント不全に対する血管拡張術、外傷や消化管出血に対する緊急塞栓術、画像ガイド下のドレナージ術や生検なども担当しています。

2018 年 4 月より、がん診療の充実を図るため、川崎市南部地域では初めて PET-CT 装置を導入しました。がんの広がり、転移、再発病巣検出など、精度の高い画像を得ることができる装置で、がん診療に貢献しています。

【令和２年度の取組】

令和元年度末に更新した 1.5T MRI 装置の本格運用を開始した。機器更新により可能となった心臓 MRI 検査を新たに開始した。新型コロナウイルス対策の一環で、当院での手術前 LAMP 法検査体制が確立できなかった間（10 月末まで）、補助スクリーニング検査としての術前胸部単純 CT を実施した。

放射線治療科　　部長　栗林　徹

【診療科の紹介】

放射線治療科では、御依頼元の先生と連絡を密にとり、院内では各診療科と連携のもとで悪性腫瘍の放射線治療やケロイドの手術後照射を行っています。現場では、医師、放射線治療専任技師、看護師でのチーム医療を行っています。また、通常の放射線治療に加えて、脳及び肺の定位放射線治療（ピンポイントの放射線治療）や、前立腺癌を中心に脳腫瘍及びより複雑な頭頸部癌の強度変調放射線治療（IMRT）等の高精度放射線治療を施行しています。

【令和２年度の取組】

放射線治療科では、令和２～３年度にかけて放射線治療装置を更新する。従来よりもさらに高精度な治療が実現し、低侵襲、時間短縮、全身への影響が少ない治療が可能になります。

放射線診断科・放射線治療科業務状況

令和２年度は、ポータブルＸ線撮影装置、診断用 CT 撮影装置、治療計画用 CT 撮影装置、高エネルギー放射線発生装置を更新しました。特に高エネルギー放射線発生装置については、従来よりもさらに高精度な治療が実現し、低侵襲、時間短縮、全身への影響が少ない治療が可能になります。

Ｘ線撮影部門では、全体の件数は減少傾向ですが、装置更新により乳房撮影件数前年度比 1.44 と歯科口腔外科用パノラマ撮影件数前年度比 1.85 と共に大幅増でした。

カテーテル治療・IVR 部門では、全体の件数は増加していました。今年度は、心臓系では経皮的カテーテル心筋焼灼術を開始し、外科系ではハイブリッド手術が可能であるハイスペックな移動型外科用 X 線装置(C アーム)の導入によって治療が増えたこと等が増加に起因したと考えます。

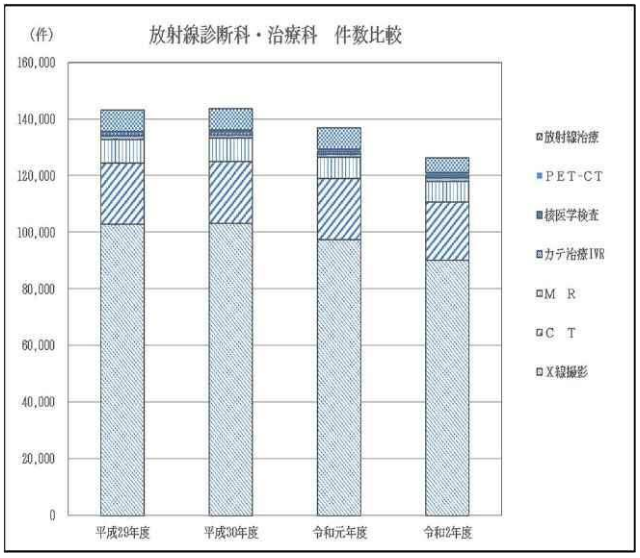
CT 検査部門では、今年度に CT 装置更新のため 1 台での稼働期間及び新型コロナウイルスの感染拡大などの影響もありましたが、前年度比 0.97 とほぼ同等の検査数でした。緊急検査においても前年度とほぼ同等でした。新型コロナウイルス関連として手術前 LAMP 法検査が全例できない期間（5 月末から 10 月末）で胸部単純 CT を術前スクリーニングとして実施しました。

MRI 検査部門では、昨年度と比較し横ばいでした。昨年度更新した MRI 装置で新たな検査が可能となった「心臓 MRI」を開始し、循環器領域の診断に大きく貢献しています。

核医学検査部門では、PET-CT の件数は、昨年度 814 件、今年度 832 件で年々増加傾向であり、患者総合サポートセンターと連携して検査件数増加を実現しています。また、共同利用率 30%を超えるようにこれまで以上に PET-CT 検査の他院への情報発信と、依頼しやすい環境作りに努力をしていきます。

今年度の全体の件数は、一昨年度より減少傾向にありますが、一年間を通して新型コロナウイルス感染拡大の渦中の割に落ち込みは少なかったと考えます。

	件 数				
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比
Ｘ線撮影	102,862	103,105	97,428	89,975	0.92
Ｃ　Ｔ	21,670	21,932	21,458	20,772	0.97
Ｍ　Ｒ	8,226	8,098	7,554	7,245	0.96
カテーテル治療・IVR	1,366	1,205	1,051	1,126	1.07
核医学検査	1,387	1,215	1,109	1,038	0.94
ＰＥＴ-ＣＴ		590	814	832	1.02
放射線治療	7,534	7,468	7,440	5,349	0.72
合　計	143,045	143,613	136,854	126,337	0.92



(1) 撮影部門

検査種別	部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科
一般 単純撮影	頭部・頚部系	単純	25	0	119	0	0	203	1	1
	胸部系	単純	15,669	200	722	4,928	902	261	1,147	54
	腹部系	単純	1,563	155	184	2,814	1	58	25	0
	椎体系	単純	338	1	79	14	0	16	5,659	1
	胸郭系	単純	192	3	2	4	0	6	1,573	0
	骨盤系	単純	108	1	1	5	0	5	3,700	0
	上肢系	単純	770	1	155	4	0	3	5,905	1
	下肢系	単純	948	4	27	10	0	4	4,323	12
	歯科	単純	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	単純	0	0	0	0	0	0	0	0
一般単純撮影合計			19,613	365	1,289	7,779	903	556	22,333	69
ポータブル	頭・頚部系(P)	単純	1	0	3	0	0	1	0	0
	胸部系(P)	単純	7,024	87	661	1,291	31	224	121	4
	腹部系(P)	単純	767	35	6	944	0	14	27	0
	椎体系(P)	単純	5	1	0	0	0	0	18	0
	胸郭系(P)	単純	7	0	0	0	0	0	15	0
	骨盤系(P)	単純	16	1	0	0	0	0	25	0
	上肢系(P)	単純	12	3	12	0	0	0	8	0
	下肢系(P)	単純	28	2	5	0	0	0	91	0
	その他(P)	単純	0	0	0	0	0	0	0	0
ポータブル合計			7,860	129	687	2,235	31	239	305	4
手術室 ポータブル	頭部・頚部系 (0)	単純	0	0	0	0	0	2	1	0
	胸部系 (0)	単純	4	2	0	182	3	9	17	0
	腹部系 (0)	単純	5	0	0	336	0	0	0	0
	椎体系 (整形) (0)	単純	0	0	0	0	0	0	474	0
	躯幹系 (整形) (0)	単純	0	2	0	0	0	0	380	0
	上肢系 (整形) (0)	単純	0	0	1	0	0	0	264	1
	下肢系 (整形) (0)	単純	0	0	0	0	0	0	231	1
手術室ポータブル合計			9	4	1	518	3	11	1,367	2
乳房撮影			0	0	0	1,065	0	0	0	0
一般造影	婦人科系	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	泌尿器科系	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	外科系	造影	0	0	0	1	0	0	0	0
	耳鼻科系	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	整形外科系	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
一般造影合計			0	0	0	1	0	0	0	0
透視検査	上部消化管	造影	7	0	2	47	0	0	0	5
	下部消化管	造影	11	0	2	18	0	0	0	0
	消化管その他	造影	44	0	0	120	0	0	0	0
	肝･胆道・膵臓	造影	32	0	0	19	0	0	0	0
	腎臓	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	尿管	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	膀胱、尿道、その他	造影	1	0	0	0	0	0	0	0
	婦人科	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	脊椎、椎体	造影	0	0	0	0	0	0	419	0
	整形系その他	造影	0	0	0	0	0	0	20	0
	小児科	造影	0	0	22	0	0	0	0	0
	その他	造影	34	0	1	16	0	0	0	0
透視検査合計			129	0	27	220	0	0	439	5
透視下 内視鏡	呼吸器系	単純	129	0	0	7	0	0	0	0
	上部消化管系	単純	4	0	0	5	0	0	0	0
	下部消化管系	単純	9	0	0	5	0	0	0	0
	肝臓･胆嚢･膵臓系	造影	164	0	0	36	0	0	0	0
透視下内視鏡合計			306	0	0	53	0	0	0	0
骨塩定量			119	0	11	139	0	0	512	0
結石破砕			3	0	0	0	0	0	0	0
救急室 単純撮影	頭部・頚部系 (ER)	単純	10	0	13	0	0	6	3	1
	胸部系 (ER)	単純	1,966	2	275	185	1	25	71	0
	腹部系 (ER)	単純	592	0	118	124	0	1	4	0
	椎体系 (ER)	単純	22	0	0	0	0	4	82	0
	胸郭系 (ER)	単純	13	0	0	2	0	3	111	0
	骨盤系 (ER)	単純	10	0	1	0	0	4	53	0
	上肢系 (ER)	単純	7	0	10	0	0	0	377	0
	下肢系 (ER)	単純	8	0	3	0	0	4	269	1
救急室単純撮影合計			2,628	2	420	311	1	47	970	2
合計			30,667	500	2,435	12,321	938	853	25,926	82

皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計（件数）
1	0	0	0	36	0	328	0	0	0	0	714
161	889	814	8	420	2	112	0	145	0	933	27,367
3	1,502	55	1	32	0	4	0	15	0	0	6,412
4	3	2	0	2	0	0	0	8	0	0	6,127
1	0	1	0	0	0	0	0	11	0	0	1,793
0	0	36	0	1	0	0	0	14	0	0	3,871
42	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	6,894
31	3	0	0	0	4	0	0	10	0	0	5,376
0	0	0	0	0	3	2,361	0	0	0	0	2,364
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
243	2,397	908	9	491	9	2,805	0	216	0	933	60,918
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
36	161	103	2	90	0	9	0	727	56	0	10,627
0	96	7	0	30	0	0	0	59	3	0	1,988
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	25
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	23
0	3	0	0	0	0	0	0	11	0	0	56
0	1	0	0	0	0	0	0	17	0	0	53
1	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	134
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
37	261	110	2	120	0	9	0	823	59	0	12,911
0	0	0	0	9	0	6	0	0	0	0	18
0	7	6	0	30	0	1	0	2	4	0	267
0	241	345	0	9	0	0	0	4	1	0	941
0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	476
0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	385
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	267
0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	234
0	248	351	0	48	0	7	0	14	5	0	2,588
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	568	1,633
0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	5
0	0	0	0	22	0	0	450	0	0	79	612
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	164
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51
0	143	0	0	0	0	0	0	0	0	0	143
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	143	0	0	0	0	0	0	0	0	0	144
0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	419
0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	53
0	288	10	0	22	0	0	450	11	0	79	1,680
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	136
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	15
0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	203
0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	363
7	0	49	0	0	8	0	0	0	0	14	859
0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27
0	0	0	0	2	0	0	0	7	0	0	42
13	10	32	0	13	1	0	0	2,484	0	0	5,078
1	14	7	0	2	0	0	0	234	0	0	1,097
1	0	0	0	0	0	0	0	159	0	0	268
0	0	0	0	0	0	0	0	205	0	0	334
0	0	0	0	0	0	0	0	354	0	0	422
1	0	0	1	0	0	0	0	457	0	0	853
0	0	0	0	0	0	0	0	612	0	0	897
16	24	39	1	17	1	0	0	4,512	0	0	8,991
303	3,242	1,471	12	698	18	2,821	450	5,580	64	1,594	89,975

(2) CT部門

部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
頭部系CT	単純	988	70	12	15	1	937	32	11	3
	造影	2	0	0	3	0	1	0	1	0
	単純＋造影	13	0	0	8	0	3	0	1	0
頚部系CT	単純	13	0	0	0	0	1	0	3	0
	造影	4	0	4	0	0	0	1	1	1
	単純＋造影	3	0	0	0	0	0	0	0	0
胸部系CT	単純	1,678	8	3	726	88	17	107	4	17
	造影	964	3	7	955	18	7	2	0	12
	単純＋造影	454	1	0	914	0	5	3	0	1
腹部系CT	単純	227	0	1	141	0	1	3	1	4
	造影	98	2	6	59	0	4	6	0	0
	単純＋造影	602	0	0	66	0	1	10	0	2
骨盤系CT	単純	7	0	0	2	0	1	151	3	0
	造影	1	0	0	2	0	0	1	0	0
	単純＋造影	1	0	0	0	0	0	0	0	0
四肢系CT	単純	1	0	0	1	0	1	540	5	1
	造影	3	0	0	0	0	0	1	1	2
	単純＋造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脊椎系CT	単純	3	0	0	0	0	0	421	0	0
	造影	0	0	0	0	0	0	2	0	0
	単純＋造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血管系CT	単純	4	0	0	15	3	0	0	0	0
	造影	121	11	0	218	7	3	11	0	2
	単純＋造影	141	0	0	6	2	97	3	0	0
その他のCT	単純	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純＋造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
術前胸部CT	単純	4	4	0	145	3	7	239	8	4
	造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純＋造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	単純	2,927	82	16	1,045	95	965	1,493	35	29
	造影	1,193	16	17	1,237	25	15	24	3	17
	単純＋造影	1,214	1	0	994	2	106	16	1	3
合計		5,334	99	33	3,276	122	1,086	1,533	39	49

救急室CT

部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
頭部系CT	単純	428	2	65	12	0	58	27	10	0
	造影	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頚部系CT	単純	5	0	0	0	0	1	0	0	0
	造影	2	0	1	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	5	0	0	0	0	0	0	0	0
胸部系CT	単純	340	0	1	37	0	14	26	0	1
	造影	22	0	0	19	0	0	1	0	0
	単純+造影	90	0	1	31	0	0	2	0	0
腹部系CT	単純	219	0	0	9	0	0	3	0	1
	造影	39	0	9	9	0	1	1	0	0
	単純+造影	253	0	5	35	0	0	0	0	1
脊椎系CT	単純	2	0	0	0	0	1	11	0	0
	造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
四肢系CT	単純	2	0	0	0	0	0	50	0	2
	造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血管系CT	単純	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	造影	24	0	0	17	0	0	0	0	0
	単純+造影	34	0	0	2	0	3	0	0	0
全身系CT	単純	58	0	0	0	0	2	2	0	1
	造影	7	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	29	0	0	1	0	0	1	0	0
小計	単純	1,054	2	66	58	0	76	119	10	5
	造影	96	0	10	45	0	1	2	0	0
	単純+造影	411	0	6	69	0	3	3	0	1
合計		1,561	2	82	172	0	80	124	10	6

ＣＴ＋救急室ＣＴ	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
合計	6,895	101	115	3,448	122	1,166	1,657	49	55

(3) MRI部門

部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
頭部系	単純	1,258	120	187	12	7	318	8	0	8
	造影	409	1	7	52	0	471	1	0	2
顔面・頚部系	単純	4	0	3	0	0	0	2	1	3
	造影	1	0	0	0	0	0	0	1	0
胸部系	単純	13	0	4	8	1	0	6	5	3
	造影	20	0	0	114	0	0	2	0	1
腹部系	単純	662	0	8	100	0	1	0	0	0
	造影	66	0	0	36	0	0	0	0	0
骨盤系	単純	22	2	0	10	0	0	8	4	3
	造影	1	0	0	11	0	1	0	0	2
上肢系	単純	10	0	2	0	0	0	227	7	4
	造影	6	0	0	1	0	0	1	0	0
下肢系	単純	22	0	1	1	0	0	257	1	16
	造影	2	0	0	0	0	0	4	0	0
脊椎系	単純	364	3	15	9	1	4	998	0	3
	造影	18	0	0	3	0	11	11	0	0
血管系	単純	11	0	0	17	1	16	0	0	0
	造影	2	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	単純	2,366	125	220	157	10	339	1,506	18	40
	造影	525	1	7	217	0	483	19	1	5
合計		2,891	126	227	374	10	822	1,525	19	45

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計(件数)
4	0	6	121	5	0	0	80	0	68	2,353
4	0	0	7	0	0	0	1	0	0	19
1	0	0	5	0	0	0	4	0	0	35
0	0	0	37	0	0	0	8	0	1	63
2	0	0	50	0	0	0	10	0	0	73
0	0	0	25	0	0	0	4	0	0	32
267	41	4	76	101	0	0	5	0	20	3,162
483	268	0	330	1	0	0	5	0	0	3,055
223	35	0	47	9	0	0	0	0	3	1,695
107	6	0	1	23	0	0	0	0	1	516
24	7	0	0	1	0	0	0	0	2	209
135	11	0	1	9	0	0	0	0	3	840
2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	168
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	555
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	1	0	3	0	0	0	0	2	430
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
1	16	0	0	1	0	0	0	0	0	391
0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	250
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
117	61	1	27	0	0	0	11	0	1	632
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
497	108	12	262	133	0	0	104	0	100	7,903
514	291	0	387	3	0	0	16	0	2	3,760
359	47	0	79	18	0	0	8	0	6	2,854
1,370	446	12	728	154	0	0	128	0	108	14,517

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計（件数）
8	2	2	1	1	1	1	1,885	2	0	2,507
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	1	0	0	0	12	0	0	19
0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	6
0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	9
10	1	0	1	1	0	0	921	0	0	1,353
1	1	0	2	0	0	0	11	0	0	57
3	1	0	0	0	0	0	69	0	0	197
15	0	0	0	0	0	0	205	0	0	452
1	0	0	0	0	0	0	30	0	0	90
2	0	0	0	0	0	0	137	0	0	433
0	0	0	0	0	0	0	24	0	0	38
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	136	0	0	191
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	0	1	0	0	0	46	0	0	90
0	0	0	0	0	0	0	67	0	0	106
0	1	0	1	0	0	0	452	0	0	517
0	0	0	0	0	0	0	102	0	0	109
1	0	0	0	0	0	0	46	0	0	78
34	4	2	4	2	1	1	3,635	2	0	5,077
3	2	0	5	0	0	0	191	0	0	355
6	1	0	4	0	0	0	319	0	0	823
43	7	2	13	2	1	1	4,145	2	0	6,255

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計（件数）
1,413	453	14	741	156	1	1	4,273	2	108	20,772

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計(件数)
4	0	5	50	31	0	0	60	0	0	2,068
7	1	2	7	1	0	0	0	0	0	961
1	0	4	40	0	2	0	0	0	0	60
0	0	2	57	0	10	0	0	0	0	71
0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	43
0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	147
13	0	0	2	2	0	0	0	0	0	788
15	0	0	2	0	0	0	0	0	0	119
113	362	0	0	11	0	0	1	0	0	536
85	105	0	0	1	0	0	0	0	0	206
0	0	0	0	36	0	0	0	0	0	286
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
0	0	0	0	50	0	0	6	0	0	354
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
1	0	0	0	79	0	0	22	0	0	1,499
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44
0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	47
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
132	363	9	92	213	2	0	89	0	0	5,681
108	106	4	66	12	10	0	0	0	0	1,564
240	469	13	158	225	12	0	89	0	0	7,245

(4) 核医学部門

	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科	泌尿器科
脳	164	28	2	0	0	16	0	0	0	0
唾液腺	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甲状腺	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
副甲状腺	8	0	2	0	0	0	1	0	0	0
肺	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0
肝・胆道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脾臓	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
循環器	52	4	0	0	2	0	0	0	0	0
血流動態	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腎	0	0	9	0	0	0	0	0	0	3
副腎	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1
消化管	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0
骨	302	0	0	187	0	0	0	0	0	142
腫瘍	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0
骨髄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リンパ	0	0	0	48	0	0	0	0	1	0
神経内分泌腫瘍	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0
RI内用療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
合計	556	32	16	242	2	16	1	0	1	157

PET-CT

部位分類	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科	泌尿器科
頭部-骨盤	187	0	0	149	0	1	0	0	8	4
全身	44	0	0	2	0	0	1	0	10	0
血管炎	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心サルコイドーシス	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自費検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
井田病院人間ドッグ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	238	0	0	151	0	1	1	0	18	4

(5) カテーテル治療・IVR部門

		内科	外科	心外科	脳外科	放射線科	その他	合計
心臓系	心カテ	278	0	0	0	0	0	278
	PCI	220	0	0	0	0	0	220
	ペースメーカー	4	0	53	0	0	0	57
	アブレーション	20	0	0	0	0	0	20
	その他	4	0	1	0	0	0	5
	心臓系　小 計	526	0	54	0	0	0	580
頭頸部・一般血管	頭頸部血管診断	0	0	0	67	0	0	67
	頭頸部血管IVR	0	0	0	26	0	0	26
	頭頸部血管　小 計	0	0	0	93	0	0	93
	胸腹部診断	0	0	0	0	26	0	26
	四肢・血管系診断	0	0	0	0	10	0	10
	一般血管診断　小 計	0	0	0	0	36	0	36
	胸腹部IVR	0	0	0	0	87	0	87
	四肢・血管系IVR	0	242	0	0	1	0	243
	一般血管IVR　小 計	0	242	0	0	88	0	330
	血管以外の検査・治療	0	0	0	0	59	0	59
	その他	0	0	0	15	13	0	28
	血管撮影室　合 計	526	242	54	108	196	0	1,126

（6）画像データ・フィルム画像の入出力件数

	入出力デバイス名	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比
入　力	フィルム	201	142	90	0.63
	CD(医事課)	4,674	5,008	4,574	0.91
	入力合計	4,875	5,150	4,664	0.91
出　力	フィルム	396	269	111	0.41
	CD-R	2,781	2,685	2,737	1.02
	DVD	621	626	792	1.27
	出力合計	3,798	3,580	3,640	1.02
	総合計	8,673	8,730	8,304	0.95

（7）CT画像処理件数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比
CT3D画像	1,575	1,455	1,191	0.82
心臓解析	169	166	140	0.84
デンタル解析	435	275	70	0.25
合計	2,179	1,896	1,401	0.74

産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計（件数）
0	0	0	0	0	0	0	0	0	210
0	0	1	0	1	0	0	0	0	7
0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
0	0	3	0	0	0	0	0	0	14
0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	58
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
1	0	0	6	3	0	0	0	0	641
0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	49
0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
1	0	4	6	4	0	0	0	0	1,038

産婦人科	眼科	耳鼻科	歯科口腔外科	放射線科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計（件数）
15	0	96	0	128	0	0	0	0	588
0	0	0	0	166	0	0	0	0	223
0	0	0	0	1	0	0	0	0	5
0	0	0	0	5	0	0	0	0	8
0	0	0	0	6	0	0	0	0	6
0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
15	0	96	0	300	0	0	0	0	832

（8）放射線治療部門

リニアック部位件数

部位	件数
脳	602
眼窩	0
副鼻腔	0
口腔・舌	20
頸部	1,175
その他	29
肺	407
食道	344
乳房	701
鎖骨部	171
腋窩・胸壁	136
その他	57
縦隔	161
腹部	106
その他	0
全骨盤	94
小骨盤	777
鼠径・臀・外陰部	65
その他	42
上肢（軟部）	0
下肢（軟部）	20
その他	0
頭部骨	12
胸部骨	41
腹部・骨盤部骨	80
脊椎	279
上肢骨	20
下肢骨	10
その他	0
上肢関節	0
下肢関節	0
全身	0
ﾘﾝﾊﾟ節	0
その他	0
合　計	5,349

治療計画CT件数

		外来	入院	合計
頭部	単純	33	51	84
	単+造	1	0	1
頭部集計		34	51	85
副鼻腔	単純	0	1	1
副鼻腔集計		0	1	1
頸部	単純	26	5	31
	造影	0	1	1
	単+造	3	1	4
頸部集計		29	7	36
肺・縦隔	単純	42	18	60
	単+造	1	0	1
肺・縦隔集計		43	18	61
乳房	単純	24	0	24
乳房集計		24	0	24
上腹部	単純	0	2	2
上腹部集計		0	2	2
下腹部	単純	2	2	4
下腹部集計		2	2	4
骨盤腔	単純	22	7	29
骨盤腔集計		22	7	29
股関節	単純	0	1	1
股関節集計		0	1	1
胸椎	単純	2	1	3
胸椎集計		2	1	3
腰椎	単純	1	1	2
腰椎集計		1	1	2
下肢	単純	0	2	2
下肢集計		0	2	2
その他	単純	1	0	1
その他集計		1	0	1
小計	単純	153	91	244
	造影	0	1	1
	単+造	5	1	6
合　計		158	93	251

リニアック特殊放射線治療件数

区　分		件数
強度変調放射線治療（IMRT）	頭頸部	844
	前立腺	596
画像誘導放射線治療（IGRT）		1,444
脳定位放射線治療		191
肺定位放射線治療		51
合　計		3,126

放射線治療管理料件数

区　分	件数
1門照射・対向2門照射	25
非対向2門・3門照射	6
4門照射以上	135
強度変調放射線治療（IMRT）	49
放射線治療専任加算	175
合　計	390

（9）使用造影剤

造影剤	規格	令和元年度	令和2年度	前年度比
ガストログラフィン	100ml	266	232	0.87
バリテスターA240散	350g	90	120	1.33
ボースデル	250ml	635	710	1.12
EOB・プリモビスト注シリンジ	10ml	105	85	0.81
イオパミロン注300	50ml	60	95	1.58
	100ml	72	65	0.90
イオパミロン注300ｼﾘﾝｼﾞ	50ml	20	35	1.75
	100ml	1,640	1,400	0.85
イオパミロン注370	20ml	255	70	0.27
	50ml	40	60	1.50
	100ml	435	540	1.24
イオパミロン注370ｼﾘﾝｼﾞ	100ml	795	735	0.92
イオパミドール注300ｼﾘﾝｼﾞ	100ml		215	
イオパミドール注370ｼﾘﾝｼﾞ	100ml		50	
イオパミドール注370	20ml		211	
	50ml		80	
	100ml		50	
イオメロン300注	50ml	325	340	1.05
	100ml	190	190	1.00
オイパロミン300注ｼﾘﾝｼﾞ	100ml	2,225	1,735	0.78
オイパロミン370注ｼﾘﾝｼﾞ	100ml	435	350	0.80
オムニパーク140注	50ml	35	25	0.71
オムニパーク300注	10ml	265	315	1.19
オムニパーク300注ｼﾘﾝｼﾞ	80ml	870	860	0.99
	100ml	2,375	2,120	0.89
	150ml	195	185	0.95
ウログラフィン注	20ml	984	787	0.80
バイステージ注370	50ml	80		0.00
	100ml	370		0.00
ガドビスト静注1.0ｍｌ/Ｌシリ	7.5ml	495	500	1.01
プロハンス静注シリンジ	13ml	493	381	0.77
マグネスコープ静注33%ｼﾘﾝｼﾞ	15ml	420	305	0.73
リピオドール480注	10ml	40	50	1.25
リゾビスト注 44.6mg Fe	1.6ml	1	1	1.00
ガドテリドール静注シリンジ	13ml	120	285	2.38
エネマスター注腸散	98.1%	40	0	

（１０）放射性医薬品

	令和元年度	令和2年度	前年度比
	入荷量（MBｑ）	入荷量（MBｑ）	
^{99}Mo-^{99m}Tcジェネレータ	0	0	
^{81}Rb-^{81m}Krジェネレータ	185	0	
^{99m}Tc-pertechnetate	31,080	28,120	0.90
^{99m}Tc-HSA-D	0	2,960	
^{99m}Tc-ECD	34,600	47,000	1.36
^{99m}Tc-MAG$_3$	2,442	1,776	0.73
^{99m}Tc-MDP	486,180	475,080	0.98
^{99m}Tc-HMDP	19,980	0	
^{99m}Tc-MIBI	2,220	5,180	2.33
^{99m}Tc-tetrofosmin	67,340	53,872	0.80
^{99m}Tc-テクネゾール	0	740	
^{201}TlCl	1,591	1,184	0.74
^{67}Ga-citrate	888	666	0.75
^{123}I-MIBG	777	999	1.29
^{123}I-BMIPP	111	0	
^{123}I-capsule	0	0	
^{123}I-IMP	148	0	
^{123}I-ioflupane	21,710	20,541	0.95
^{131}I-adosterol	0	0	
^{111}InCl	74	0	
^{111}In-DTPA	407	37	0.09
^{111}In-Pentetoreotide	854	732	0.86
^{223}Ra-xofigo	148	68	0.46
^{18}F-FDG	125,837	130,092	1.03

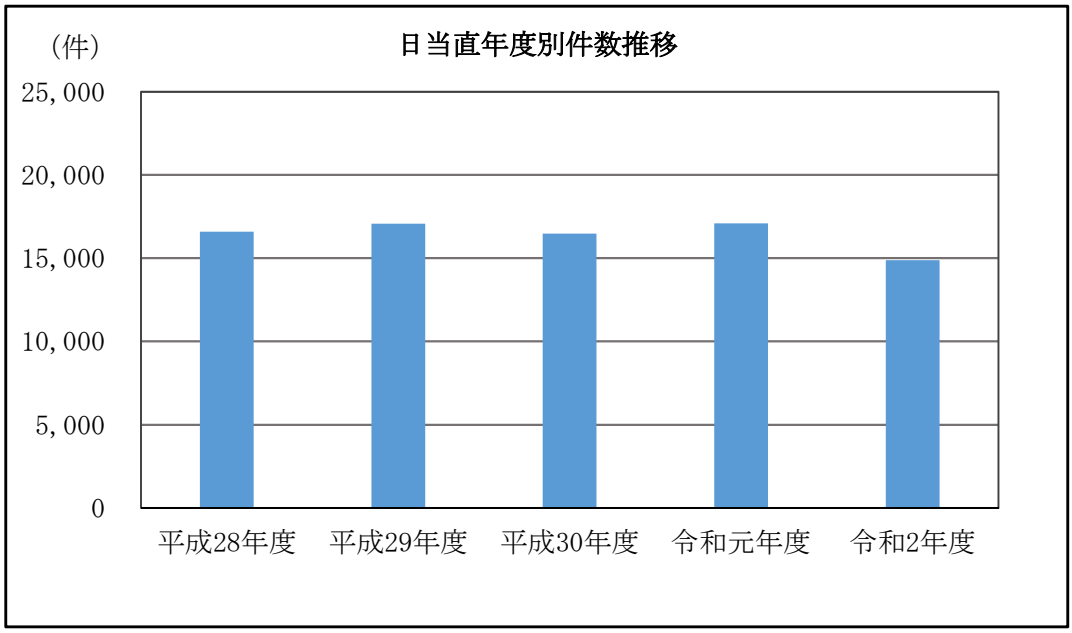
（１１）日当直状況

ア　月別日当直件数

	令和2年度（件）		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比
	当直	土日祝日勤	合計(件)	合計(件)	合計(件)	合計(件)	合計(件)	
4月	614	349	1,463	1,290	1,341	1,347	963	0.71
5月	730	561	1,463	1,624	1,440	1,656	1,291	0.78
6月	714	300	1,415	1,255	1,248	1,311	1,014	0.77
7月	814	430	1,427	1,602	1,491	1,413	1,244	0.88
8月	950	458	1,326	1,407	1,296	1,359	1,408	1.04
9月	866	465	1,284	1,449	1,364	1,381	1,331	0.96
10月	794	357	1,288	1,384	1,298	1,365	1,151	0.84
11月	803	459	1,437	1,359	1,250	1,375	1,262	0.92
12月	909	551	1,580	1,552	1,437	1,612	1,460	0.91
1月	814	617	1,554	1,715	1,775	1,678	1,431	0.85
2月	752	480	1,167	1,199	1,288	1,362	1,232	0.90
3月	775	303	1,177	1,220	1,235	1,233	1,078	0.87
合計	9,535	5,330	16,581	17,056	16,463	17,092	14,865	0.87
月平均	794.6	444.2	1,381.8	1,421.3	1,371.9	1,424.3	1,238.8	0.87
一日平均	26.1	42.3						

イ　日当直業務内容別件数

業務項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比
	合計件数	合計件数	合計件数	合計件数	合計件数	
１）単純撮影	8,250	8,334	7,604	7,771	5,701	0.73
２）回診撮影	2,957	3,286	3,780	3,855	3,888	1.01
３）透視撮影	164	131	124	192	108	0.56
４）カテ治療・IVR	188	200	177	145	163	1.12
５）CT検査	4,935	5,050	4,721	5,054	4,938	0.98
６）MR検査	87	55	57	75	67	0.89
	16,581	17,056	16,463	17,092	14,865	0.87



19　病理診断科　　部長　杉浦　仁

【診療科紹介】

病理診断科は、令和元年度より正式な科組織として発足いたしました。業務内容は検査科病理の時代と同様で、病理組織学的診断、細胞診断、術中迅速診断、および病理解剖です。免疫組織化学的解析も積極的に取り入れており、常に迅速かつ精度の高い病理診断を心がけています。病理診断難解症例は、関連大学やその道の専門家の病理医等にコンサルトしています。また、地域医療機関様より紹介された患者さんの標本診断や追加検査（免疫染色等）も行っています。

【令和２年度の取組】

診療体制としては常勤医２名体制で行っています。令和２年度では病理組織診断が 5,339 件、術中迅速組織診が 237 件、細胞診断が 6,000 件、術中迅速細胞診が 20 件、病理解剖が 18 件でした。

20　麻酔科及びＭＥセンター　　部長　森田　慶久

(1)　麻酔科

【診療科の紹介】

当院麻酔科は安全で質の高い医療と地域への貢献を目指して診療に励んでいます。

当院では年間 6,884 例の多様な入院手術、放射線検査・治療を中央手術室で行っており、うち 4,292 例が麻酔科管理です（2020 年度）。

【令和２年度の取組】

各部署との連携を密にとり、通常診療と新型コロナウイルス感染症対策の両立を図った。令和 2 年度は、社会的に不急の手術への延期要請があった時期が含まれるものの、手術件数が大きく落ち込むことなく、手術室運営ならびに集中治療室管理を行うことができた。

分類・年度＼診療科		一般外科	心臓外科	形成外科	放射線科	精神科	脳外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	産科・婦人科	眼科	耳鼻科	歯科口腔外科	循環器科	麻酔科	救急科	計
麻酔科管理	29	903	49	78	3	251	112	1,07	4	504	949	0	259	73	0	1	0	4,256
	30	943	1	68	29	227	85	1124	9	607	993	3	286	49	8	6	0	4,444
	1	1094	80	96	38	202	87	1126	10	588	953	4	287	70	1	0	0	4,636
	2	1083	4	71	2	266	124	1089	37	535	801	5	207	68	0	0	0	4292

(2)　ＭＥセンター

医療機器が多用される最近の医療現場では、医師や看護師のみでは効率的かつ安全な医療の遂行が難しくなり、医学的な知識のみならず工学的な知識と技術を持つ専門家として、昭和 63 年に誕生したのが臨床工学技士です。臨床工学技士は医療技術者の一つで、厚生労働大臣の免許を受けて「医師の指示の下に呼吸、循環、代謝に関わる生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業とする」（臨床工学技士法第２条）とされています。

業務体制としては、手術室部門・人工呼吸器部門・血液浄化部門・心臓カテーテル部門・ペースメーカー部門・ＭＥ機器部門など多岐に分かれます。

ア　臨床業務実績

業務内容	項目	令和元年度	令和２年度
血液浄化	CHDF	93	124
	PMX-DHP	4	2
	PE	4	30
	ビリルビン吸着	0	18
	出張 HD	8	968
	LCAP	0	354
透析室	透析室	1198	50
人工呼吸器	人工呼吸器ラウンド	2084	2230
	RST 総合ラウンド	285	417
	回路交換	2	3
カテーテル業務	CAG	292	273
	PCI	182	216
	緊急カテ	76	83
	IVUS	176	205
	FFR	56	44
	Rotabrator	0	19
	テンポラリーPM 挿入	11	8
	IABP	6	3
ペースメーカー業務	新規植込	20	27
	電池交換	22	23
	植込１週間後チェック	13	13
	緊急チェック	12	23
	術中管理	19	17
	外来	447	411
体外循環	人工心肺	7	3
	PCPS（管理日数）	14(45)	15(39)
	V-V ECMO	0	0
オペ室業務	セルセーバー	92	67
	オペ室対応	612	501
	da vinci 業務	68	79
	脳神経外科ナビゲーション	32	37
	術中神経モニタリング	0	0
病棟	病棟対応	104	49

イ　機器管理業務実績

	項目	令和元年度	令和２年度
点検	輸液ポンプ	1017	1100
	シリンジポンプ	628	752
	除細動器	181	216
	自動体外式除細動器	100	108
	閉鎖式保育器	209	239
	PCA ポンプ	133	158
	人工呼吸器	898	691
	人工心肺	7	3
	PCPS	14	14
	テンポラリーPM	288	397
	麻酔器	2412	2492
	血液ガス装置	488	496
	電気メス	2377	2224
	ハーモニック	258	163
	サンダービート	60	147
	高周波メス	23	13
	内視鏡	1247	1034
	ソノサージ	9	2
	医療用レーザー	90	79
	手術支援システム	68	79
	離床センサー	24	26
	経腸栄養ポンプ	5	6
	反復圧迫治療器	235	228
	パルスオキシメーター	280	272
	超音波ネブライザ	27	30
	ベッドサイドモニタ	592	651
	送信機	42	47
	血圧計	110	121
修理	輸液ポンプ	6	15
	シリンジポンプ	14	9
	血圧計	5	6
	反復圧迫治療器	46	40
	送信機	0	5
	ベッドサイドモニタ	2	7
	低圧持続吸引器	3	2
	経腸栄養ポンプ	1	0

21　救命救急センター　　所長　田熊　清継

（１）体制・施設規模（令和2年4月1日現在）

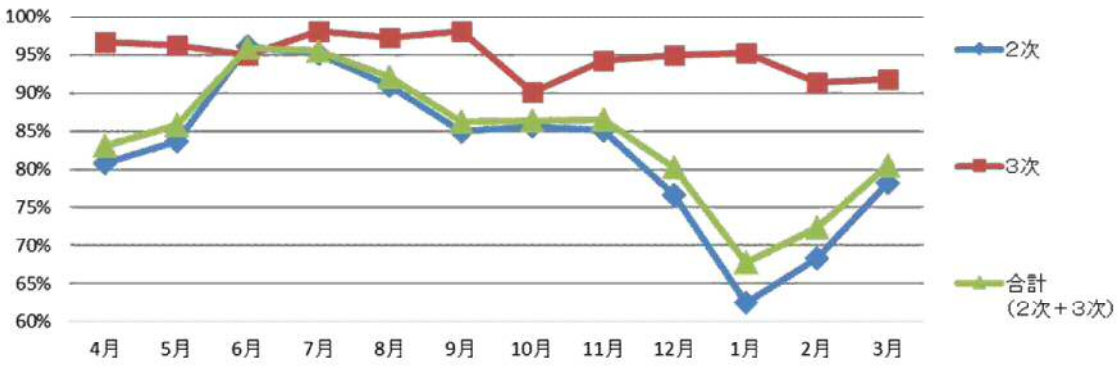
ア　体制　　医師（常勤11人、非常勤6人）／看護師（常勤43人、臨時職員9人）

イ　施設規模　　20床（ＩＣＵ 4床、救急病床 16床）

（２）受入状況

ア　当院で救急車を受入れた救急車総数（5,802台）のうち、ホットライン経由で救急車を受入れた件数は、4,813台で、応需率は２次81.9%、３次95.7%、２次・３次合わせて83.9%になります。（令和2年度）

令和2年度月別救急車応需率



イ　令和2年度救命救急センター受入状況

	総数	時間			救急隊						傷病分類					トリアージ区分				転帰										
		深夜	日勤	準夜	川崎南部	川崎中部	川崎北部	横浜	東京	その他	内因性	うち入院	外傷	うち入院	ＣＰＡ	１次軽傷	2次中等症	３次 重症重篤	３次 死亡確認	帰宅	救急からの入院 計	救命救急	内科	外科	整形	脳外	小児	その他	転送	死亡
合計	4813	1691	1879	1243	4339	208	10	160	20	76	3446	1440	1367	352	0	2431	1282	1067	33	2638	1790	478	957	74	138	35	2	106	57	328
1月平均	401.1	140.9	156.6	103.6	361.6	17.3	0.8	13.3	1.7	6.3	287.2	120.0	113.9	29.3	0.0	202.6	106.8	88.9	2.8	219.8	149.2	39.8	79.8	6.2	11.5	2.9	0.2	8.8	4.8	27.3
1日平均	13.2	4.6	5.1	3.4	11.9	0.6	0.0	0.4	0.1	0.2	9.4	3.9	3.7	1.0	0.0	6.7	3.5	2.9	0.1	7.2	4.9	1.3	2.6	0.2	0.4	0.1	0.0	0.3	0.2	0.9

ウ　令和2年度三次救急の内訳　　（単位：人）

	計	重症急性冠症候群	重症大動脈疾患	重症脳血管障害	重症外傷	重症熱傷	急性中毒	重症消化管出血	重症敗血症	重症体温異常	特殊感染症	重症呼吸不全	重症急性心不全	重症出血性ショック	重症意識障害	肝不全	急性腎不全	その他	CPA※心肺停止	CPAのうち蘇生成功数
合計	1099	21	21	97	89	23	52	39	14	15	24	86	64	33	44	6	12	129	330	45
1日平均	3.0	0.1	0.1	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	10.8	27.5	—
傷病別割合	100.00%	1.91%	1.91%	8.83%	8.10%	2.09%	4.73%	3.55%	1.27%	1.36%	2.18%	7.83%	5.82%	3.00%	4.00%	0.55%	1.09%	11.74%	30.03%	—

※受入全体中の死亡者数290人（救命救急センター受入全体の26.39%）

エ　令和2年救命救急センター患者受入状況（件数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計（人）
338	365	404	437	529	426	377	369	389	415	368	396	4,813

22　高度脳神経治療センター　　所長　今西　智之

平成 29 年 4 月に、急性期脳卒中患者の治療の合理化・迅速化を図るために、高度脳神経治療センターが開設されました。

当センターは、脳神経外科、神経内科、救急科などの複数の臨床科の密な連携を図り、各科の専門医が迅速かつ正確な急性期脳卒中治療を提供いたします。当センターの特徴としては、

ア 脳神経外科を中心とする複数の関連した臨床科が協力して、迅速な治療を提供します。
イ 各科の専門医が、24 時間対応で、直接診療にあたります。
ウ 救急車搬送の救急患者さまが対象ですが、紹介による急性期患者も引き受けます。
エ 早期からリハビリを行い、脳卒中連携パスを利用して、早期の転院を促します。

(1)診療体制（令和 2 年 4 月 1 日現在）　直属医師 3 名　兼務医師 20 名

脳神経外科：6 名(センター直属 3 名)　神経内科：3 名
救急科：5 名　総合内科：2 名
麻酔科：2 名　リハビリテーション科：3 名
放射線科：1 名　小児科：1 名

(2)急性期脳卒中患者の受け入れ・治療状況

ア　超急性期脳梗塞患者の来院・治療状況

高度脳神経治療センター　H29 年 4 月～R3 年 3 月

	患者数				t-PA 治療	血栓回収
	救急搬送	Walk In	院内発症	合計	施行例	施行例
H29 年度合計	20	5	4	29	8	2
H30 年度合計	20	9	10	39	12	4
R1 年度	17	8	4	29	9	1
R2 年度合計	10	2	4	16	4	1
総合計	67	24	22	113	33	8

②脳血管障害患者の手術状況（過去 6 年間）

	H27 年	H28 年	H29 年	H30 年	R1 年	R2 年
脳動脈瘤手術	18(6)	21(13)	15(8)	17(7)	13(7)	14(10)
破裂脳動脈瘤	8(3)	11(6)	8(5)	9(5)	8(4)	6(2)
未破裂脳動脈瘤	10(3)	10(7)	7(3)	8(2)	5(3)	8(8)
脳(硬膜)動静脈奇形手術	0(0)	3(1)	2(1)	3(3)	0(0)	1(0)
高血圧性脳内血腫	7	6	7	3	5	10
閉塞性血管障害、他	2(1)	2(2)	11(10)	10(10)	12(12)	5(5)

() 内は、そのうちの血管内手術件数

23　感染対策室

室長　坂本　光男
課長　井原　正人

感染対策室は平成２０年に設立され、感染症内科医師、感染管理認定看護師、薬剤師、臨床検査技師、庶務課職員５名で構成されている。

各部署から選出された感染制御チーム（ＩＣＴ）と一丸となり医療関連感染の発生状況を把握し感染率低減に向け取り組んでいる。抗菌薬使用適正チーム（ＡＳＴ）は週１回のカンファレンスを行い抗菌薬の選択や検査等に関して指導・助言を行っている。

また川崎市内で唯一の第２種感染症指定医療機関であり、２月６日よりダイヤモンドプリンセス号からの受け入れを早々に実施。コロナ診療における適切な療養環境の整備、関わる医療従事者への教育を実施した。

（１）院内研修

月	実施対象	テーマ	参加人数
４月	新採用者（医師・専修医）	医師採用時オリエンテーション 医療関連感染対策	３４名
４月	新採用者（看護師）	新規入職者研修 当院の感染対策	６９名
４月	新採用者（研修医）	初期研修医オリエンテーション 当院の感染対策	１５名
６月	新採用者（看護師）	新規入職者研修 医療関連感染を防止するために キレイな手で看護ケアしよう	６７名
７月	医師事務作業補助者	医師事務作業補助研修 感染対策の基本について	１０名
８月	会議構成員	第５期　第３回川崎病院モニター会議 新型コロナウイルス感染症に対する川崎病院の取組について	１４名
１０月	新採用者（医師・専修医）	医師採用時オリエンテーション 医療関連感染対策	７名
１０月	検査科職員	検査部門 検体採取	３０名
１０月	市内福祉施設職員	令和２年度福祉職員向け現任教育 新型コロナウイルスの感染対策	５２名

１月	市内医療従事者	WEB 研修　「知っとくなーす」研修　第５回 地震!台風!その時どうする!感染対策あれこれ	約３０名
１月	市内福祉施設職員	新型コロナ(COVID-19) 施設における感染対策の基本	６８名
１月～３月	全職種	＜個別学習研修会＞ テーマ１「C.difficile 感染症(CDI)」 テーマ２「カテーテル関連血流感染症(CRBSI)」 テーマ３「学校感染症と出席停止」 テーマ４「手指衛生見直し塾」 テーマ５「TDM(主に抗菌薬)について」 テーマ６「抗菌薬の投与回数について」 テーマ７「現場で使おう!抗菌薬の豆知識 10」 テーマ８「新型コロナウイルスと検査法」 テーマ９「血液培養の検体採取について」 テーマ10「便の性状評価(ブリストルスケール)について」 テーマ11「グラム染色について」 テーマ12「薬剤耐性菌について」	１０２名 １０５名 １１８名 ６１３名 １１名 ６０名 １５５名 ５３７名 ２０１名 １５２名 ２２名 ５８名
１月	市内福祉施設職員	令和２年度福祉職員向け現任研修「感染対策③」 新型コロナウイルスの感染対策	４２名
３月	市内福祉施設職員	新型コロナウイルスの感染対策	３０名

（２）予防接種

予防接種の種類／件数

ワクチン種類	件数
水痘ワクチン	7
風疹ワクチン	２１
ムンプスワクチン	９８
麻疹ワクチン	１０１
MR ワクチン	６１
ＨＢｓワクチン	５７
インフルエンザワクチン	１５８６

新型コロナワクチン接種

対象	件数
院内職員 （正規及び委託職員含む）	２５８９

（３）地域との連携

感染カンファレンス

	開催日	開催場所	参加医療機関
第１回感染防止対策加算	令和２年度６月３０日	当院　感染対策室	臨港病院
第２回感染防止対策加算	令和２年９月２４日	川崎市中原市民館 ２階ホール	臨港病院
第３回感染防止対策加算	令和２年１２月１７日	当院４階研究室 リモート会議	臨港病院
第１回地域連携加算	令和３年２月２６日	虎の門病院	虎の門病院
第２４回　KAWASAKI 地域感染制御協議会　定例会	令和３年３月１１日	当院感染対策室 WEB(Zoom による開催)	会員施設 28 行政機関 1
第２回地域連携加算	令和３年３月１２日	当院　会議室	関東労災病院

（４）新型コロナウイルス感染症患者受入件数

厚生労働省・神奈川県・空港検疫所・川崎市から新型コロナウイルス陽性患者の受入要請が２０件あり、ダイヤモンド・プリンセス号から１１名、市内発生を９名受け入れました。国内感染者数として、３１３名のコロナ陽性者、９２件疑似症患者の受け入れを実施しました。

24　医療安全管理室　　室長　相浦　浩一

課長　楳原　弘成

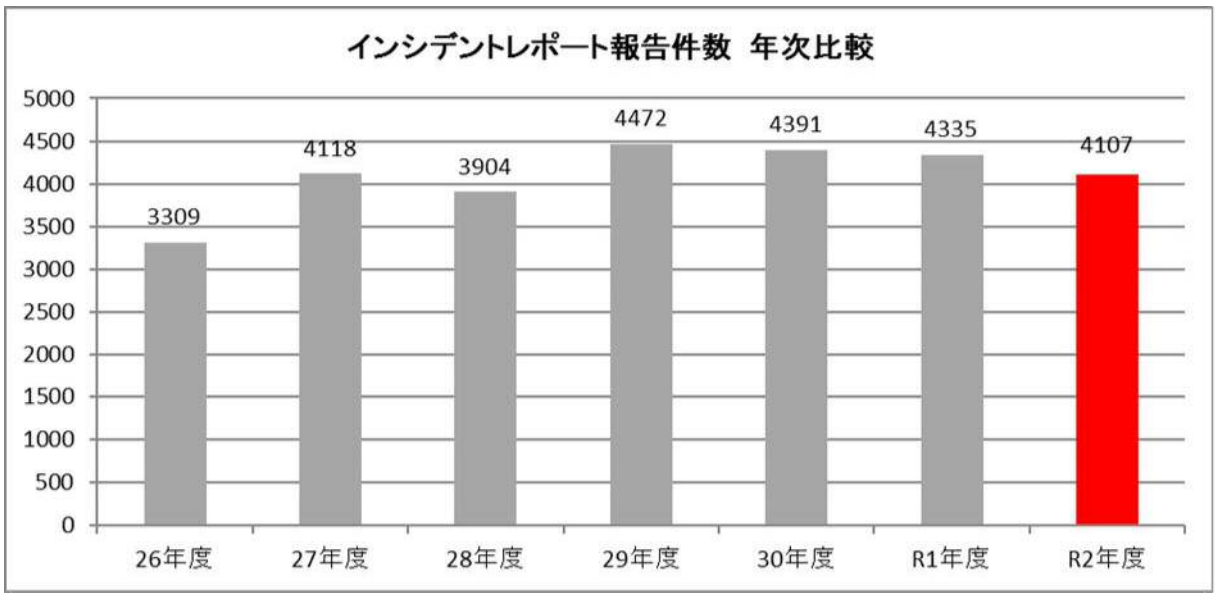
医療安全管理室は、安全な医療の提供と医療の質の向上を目的に、当院における医療安全管理体制の構築と維持ならびに組織的な医療事故防止の取り組みを推進しています。

各部署から報告されるインシデントレポートの数は年間 4,000 件を超えます。報告されたレポートは医療安全管理室で集計・集約し、医療安全対策に係るカンファレンスならびに医療安全関連の委員会等で検討しています。さらに、インシデント教訓事例については診療部、看護部、薬剤部、放射線診断科、検査科、食養科、リハビリテーション科、麻酔科（ME センター）、事務局、等、各部門・各職種と連携し、改善策を検討しています。また、週に 1 回、医療安全ラウンドを実施し、環境を含めた部署の医療安全管理の取り組み状況をもとに改善策の検討を部署とともに行っています。組織的な課題については医療安全管理委員会との連携を基盤に、例えば、医療安全管理に不可欠なシステム改善についてはシステム運用検討部会と連携するといったように、関係委員会との連携のもと、改善に取り組んでいます。

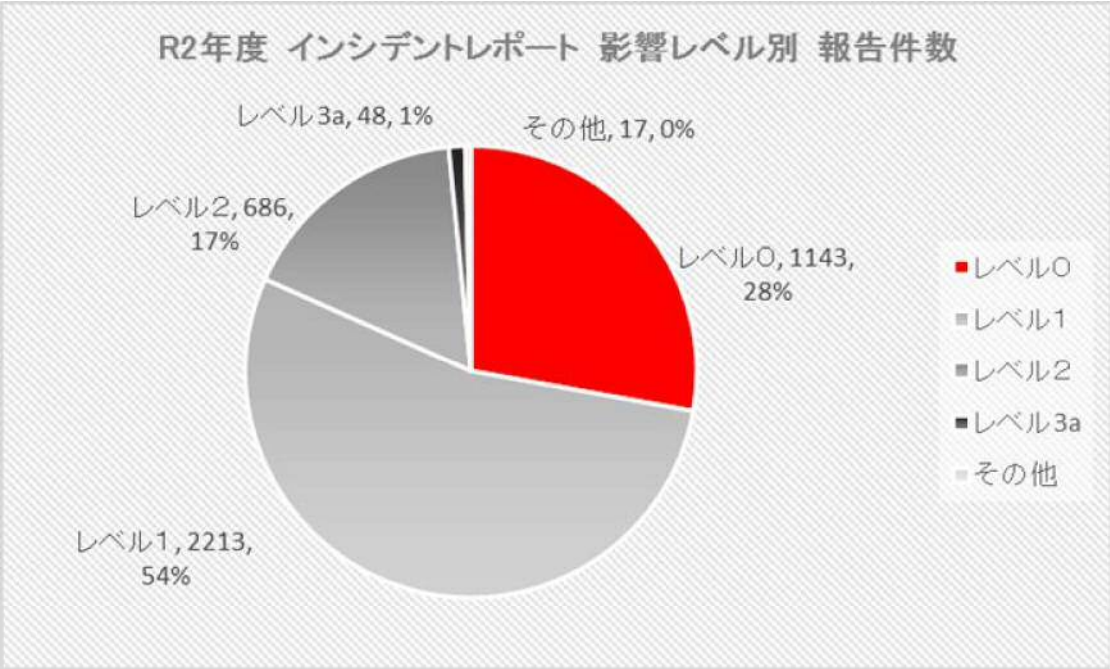
医療安全に係る職員教育について、令和 2 年度は、コロナウイルス感染症対策と職員教育の両立をめざし、従来の集合研修中心の研修方法を見直し、小規模な職場単位で実施できる方法とし、併せて、研修テーマも各部署のニーズに基づいたものとしました。その結果、延べ 941 名（受講率 80%）の職員が医療安全に係る研修を受講しました。今後も、効果的で受講しやすい研修をめざして取り組みます。

質の高い医療提供にあたっては、患者・家族に十分な説明を行い、その意思を尊重することが不可欠であり、患者・家族の理解を確かめながら、プロセスを大切にした丁寧なサービス提供に努める必要があります。この点について、当院の医療に対する疑問や不安を抱いている患者・家族がいる場合には、患者総合サポートセンターとの連携のもと、相談対応を行い、患者・家族の権利を擁護し、必要な場合、患者・家族と医療者との対話を推進する支援を行っています。

（1）令和２年度インシデントレポート報告件数ならびに年次比較



（２）令和２年度インシデントレポート影響レベル別報告件数



（３）主な改善項目

項目	目的　改善内容
医療安全管理指針の改訂	医療安全管理に係る用語の定義、医療安全管理者の権限、重大な医療事故発生時の初期対応等について明確にした。
医療安全管理マニュアルの改訂	患者誤認防止の規定を強化し、注射・内服については確認行動を具体化し、身体抑制の実施基準については三原則を明示した。
検査結果未読防止対策の強化	特に CT 検査報告書の未読防止対策として、未読の可能性がある報告書については、医療安全管理室から当該科の責任者に連絡を行い、対処状況の報告書を受ける形に対策を強化した。
手術部位の誤認防止対策	手術部位のマーキングについて、電子カルテの手術申し送り書にチェック項目を設け、術前に、病棟の段階からマーキングの実施を確認できるようにした。
手術関連マニュアルの改訂	特にガーゼ等の異物の体内遺残防止対策について、X 線撮影の実施基準の明確化や、ガーゼ等のカウントが不一致の場合における対処の明確化など、対策を強化した。

25　ＤＭＡＴ活動

川崎病院は神奈川ＤＭＡＴ指定病院に指定されており、災害医療における専門的な技術や知識を備えた職員が勤務しています。また、国内で起きた災害において、神奈川ＤＭＡＴとして派遣され、現場で活動しています。

令和２年度の活動内容は、主に新型コロナウイルス感染症のため、神奈川県及び川崎市の対策本部にて、搬送先の調整及び搬送車両の手配等の業務を行いました。

また、幸区役所において、災害時対応の研修会の講師として職員を派遣し、ロジティクス等について講演を行い、川崎市の災害時対応の強化にも貢献しました。

職員（災害時医療等専門部会員）に対するトリアージ実技訓練や、災害対策本部運営マニュアルの更新と検証を行い、当院における災害時の医療機能の強化にも努めました。

令和２年度の主な活動内容は次のとおりです。

活動日	活動内容	活動場所
令和 2 年 4 月 3 日～8 日	新型コロナウイルス感染症対応	新型コロナウイルス感染症神奈川県対策本部
令和 2 年 4 月 28 日～5 月 8 日	搬送調整支援等の本部業務支援（業務調整員）	新型コロナウイルス感染症対策川崎市医療調整本部
令和 2 年 4 月 28 日～5 月 15 日	搬送調整支援、その他医学的助言(医師)	新型コロナウイルス感染症対策川崎市医療調整本部
令和 2 年 10 月 23 日～26 日	新型コロナウイルス感染症対応（ふじの温泉クラスター対応）	新型コロナウイルス感染症神奈川県対策本部
令和 2 年 11 月 16 日	ロジティクス研修及び災害対応研修講師	幸区役所
令和 2 年 12 月 1 日～	川崎市医療調整本部への支援	新型コロナウイルス感染症対策川崎市医療調整本部

26　看護部　　副院長兼看護部長　千島　美奈子

令和２年度　看護部概況

令和２年４月、新規採用職員68名を迎え、看護職員625名（正規職員）で新年度がスタートしました。この１年を振り返ると『COVID-19との闘い』・・まさしく、この一語に尽きる１年であったように思います。

昨年２月のダイヤモンドプリンセス号COVID-19感染者受け入れから始まり、新年度は第２波真っただ中でのスタートでした。4月15日に救命病棟の全フロアをCOVID-19受け入れ病床に変更、救命の機能を維持するため13階北病棟の強化、看護師確保のため13階南病棟の閉鎖。　11月には第３波による「医療アラート」が発動されるなど、誰もが医療の危機的状況に、不安と恐怖を感じ、今もなおその状況は続いております。金井病院長の『時々刻々のニーズに合わせ、バランスを考えた最適度を追求していく必要がある』とのメッセージを受け、看護部一丸となって、変化に速やかに対応できるよう万全の準備をすすめ、患者の受け入れをして参りました。過酷な勤務状況・ストレス状況を承知の上で、全ての職員に協力を求め、多くの無理難題に対応して下さることに、ただ、ただ感謝する１年でした。何度も繰り返される病床編成、看護職員の突然の配置換え、決定したことを翌週には変更しなければならない様々な事態、しかし、この暗闇に、光を指すような職員の素敵な言葉がありました。「人に支えられるありがたさを感じた」「他の病棟を経験して、学ぶことが多かった」「今まで接点のなかった看護師との関係性が良くなり、これからも協力し合える」この声を耳にし、改めて川崎病院の看護職員を誇りに思い、大きな力をいただくことができました。

このような状況の中、様々な取り組みを行い、確実に成果を示すこともできました。

まずは、病院機能評価受審です。第４波の混乱の中、多職種と連携し、着実に準備を進め、日頃の取り組みを、自信をもって伝え、みごとに受審を終えることができました。

二つ目は、入院センターの開設です。４月に試行を開始し、10月には予定の全診療科まで広げることができました。これまで各外来で対応していた入院に関する業務を入院センターで統括することにより、今まで以上に、患者さんやご家族が不安なく入院生活を送ることができ、またスムーズな退院支援・退院調整につなげることができています。関係者の努力と他職種との連携により、センターとしての基盤づくりができたことは大きな成果であると感じております。

三つ目は、11階北病棟と内視鏡センター、14階南病棟と外来化学療法センターとの統合です。離れた部署かつ機能の違いという多岐に渡る課題に対し、人材育成・業務改善など、根気よく取り組み、病棟と外来の連携による継続看護の強化を図ることができました。

四つめは、看護助手の採用、特に夜間配置の増員です。看護助手の安定的な配置は、患者サービスの向上や看護師の業務負担軽減につながる重要な取り組みです。その背景には採用者への熱心な指導、関りがあり、指導する側、される側、その両者の努力に敬意を表するばかりです。また、増員に伴うDPC係数の向上は経済的効果もあり、大きな成果であったと実感しております。

この１年、金井病院長が組織の目指す方向性を繰り返し示して下さったこと、その根底には常に『職員を守る』という強い意志が感じられたこと、そして常に看護職員の存在価値を承認し、取り組みを後押して下さったことで、迷わずに前進できたのではないかと思っております。

いつの日か、この１年を振り返ったとき「ピンチがチャンスになった」と心から思える日が来ることを信じています。

(1)　看護職員配置数

（令和３年４月１日現在）

項目　看護単位	許可病床数	稼動病床数	助産師看護師	会任職員	夜勤人員 準夜	夜勤人員 深夜	看護助手
	713	585					
看護部配置数			598				
看護部　４月現在現在数			635				
14 階北病棟(内科・透析室)	47	36	32	1	3	3	6
14 階南病棟・治療センター(内科)	51	33	36	2	3	3	5
13 階北病棟(心外・循環器内科)	51	46	32	3	4	4	5
13 階南病棟(内科)	53	36	32	0	3	3	5
12 階北病棟(泌・耳・眼・口腔)	51	46	31	0	3	3	2
12 階南病棟(脳・皮・放・リハ・耳)	53	36	31	1	3	3	5
11 階北病棟・内視鏡センター (外科・消火器内科)	53	38	37	2	3	3	6
11 階南病棟(外科・肺外科・整形外科)	53	42	30	0	3	3	4
10 階北病棟(整形外科・形成外科)	53	38	29	2	3	3	4
10 階南・感染症病棟 (婦人科・整形外科・泌尿器・乳腺外科・感染症)	64	59	29	2	3	3	4
９階北病棟(精神科)	38	36	16	4	3	2	1
９階南病棟 (EICU・救命救急病棟・小児急病センター)	20	20	69	11	15	13	4
8 階北病棟(産科・新生児)	44	42	29	4	4	4	2
8 階南病棟・小児科外来	41	41	24	2	3	3	2
NICU	6	6	10	2	2	2	0
GCU	18	12	13	1	2	2	0
5 階　ICU・CCU	12	8	27	1	4	4	1
5 階　手術室			40	1	2	2	0
外来　A ブロック			23	16	0	0	5
外来　B ブロック							
外来　C ブロック							
副院長(看護部長)室			1				
看護部管理室			6	1			
担当課長・看護師長			1(再掲)				
看護師長			18(再掲)				
外部配置			11				
産休・育休・病休・休職・派遣研修			47				

(2) 職員の出身校別内訳・年齢分布・平均年齢

ア　出身校別内訳

（令和3年3月31日現在）

種別	学校／人数	看護大学	助産師校	看護短期大学	看護専門学校	准看学校
総　　数	614人	109人	25人	163人	315人	2人
構成比(%)	100%	18%	4%	27%	51%	0%
助 産 師	29人	4人	25人	0人	0人	0人
構成比(%)	5%	1%	4%	0%	0%	0%
看 護 師	583人	105人	0人	163人	315人	0人
構成比(%)	95%	17%	0%	27%	51%	0%
准看護師	2人	0人	0人	0人	0人	2人
構成比(%)	0%	0%	0%	0%	0%	0%

イ　年齢分布

（令和3年3月31日現在）　（単位：人）

年齢	助産師	看護師(准看護師含む)	計
21	0	2	2
22	0	27	27
23	0	43	43
24	3	34	37
25	1	35	36
26	2	11	13
27	2	27	29
28	0	23	23
29	1	13	14
30～34	5	77	82
35～39	5	77	82
40～44	2	51	53
45～49	2	72	74
50～54	4	55	59
55～59	2	35	37
60～	0	3	3
合計	29	585	614

ウ　平均年齢

（令和3年3月31日現在）　（単位：歳）

助産師	看護師(准看護師含む)	総平均
35	36.2	36.2

(3)　勤続年数

【助産師:9.9年　看護師(准看護師含む):　10.2年　平均:　10.2年】

（令和3年3月31日現在）

年数	助産師	看護師 （准看護師含む）
1年未満	3人	65人
1年	3人	44人
2年	4人	45人
3年	4人	26人
4年～5年	1人	50人
6年～9年	4人	107人
10年～14年	4人	92人
15年～19年	2人	45人
20年～24年	2人	42人
25年～29年	1人	42人
30年以上	1人	27人

(4)　令和元年度看護職員採用・退職状況

採用者数	68人	助産師2名　看護師66名
退職者数	55人	助産師3名　看護師52名

27　薬剤部　　部長　小林　加寿夫

薬剤部の業務は、調剤・注射薬調製、病棟薬剤関係業務、薬品管理、医薬品情報管理、製剤の5部門に大別され、その内容は次に示すとおりです。令和2年度はコロナ感染症の流行に伴う入院及び外来患者数の減少により調剤関係業務、入院患者の持参薬鑑別業務等において、前年度を大幅に下回る実績となりました。また、泌尿器科及び整形外科の一部を対象にした薬剤師外来業務についても、549件/年と前年度より約90件減少しました。

一方、病棟薬剤業務部門においては、新たに10南病棟の病棟薬剤業務を開始したことが影響し、薬剤管理指導件数は、全体として昨年度より約600件増加しました。抗がん剤を主とする化学療法調製業務についても、各領域において顕著に増加し、全体では624件増加しました。

薬品管理部門では、薬品購入金額は新型コロナウイルス感染症の影響による入院・外来患者数の減少に伴い、前年度より約1千30万円の減少となりました。

(1)　調剤・注射薬調製業務

アに科別、病棟別の外来・入院処方箋枚数を示しました。外来患者数が減少したことにより、外来院外処方箋枚数は昨年度より約21,500枚減少し、外来院内処方箋枚数は昨年度より約2,100枚減少しました。イに月別の外来処方箋枚数と院外処方箋発行率を示しましたが、院外処方箋発行率は昨年度とほぼ同じでした。ウに持参薬確認件数を示しましたが、昨年度より約360件減少しました。エに月別、病棟別ＴＰＮ調製件数を示しました。ＴＰＮの調製については、昨年度より一般病棟における調製件数は79件減少し、ＮＩＣＵの調製件数は118件減少しました。オに化学療法調製件数を示しました。昨年度より外来は275件、入院は349件増加しました。カに月別注射箋枚数を示しました。注射箋枚数は昨年度から、約14,000枚減少しました。

ア　診療科別外来（院外・院内）処方・病棟別入院処方年間総処方箋枚数及び1日平均処方箋枚数

診療科	外来院外処方箋枚数		外来院内処方箋枚数		病棟	入院処方箋枚数	
	年間	1日平均	年間	1日平均		年間	1日平均
内科	48,139	198.1	5,787	15.9	８Ｎ	4,106	11.2
精神・神経科	14,150	58.2	515	1.4	８Ｓ	2,413	6.6
小児科	8,048	33.1	1,376	3.8	８Ｗ	670	1.8
外科	6,491	26.7	679	1.9	９Ｎ	5,521	15.1
心臓血管外科	774	3.2	0	0.0	９Ｓ	4,142	11.3
脳神経外科	1,168	4.8	110	0.3	９Ｗ	1,820	5.0
整形外科	10,647	43.8	1,116	3.1	10Ｎ	8,432	23.1
形成外科	631	2.6	136	0.4	10Ｓ	8,974	24.1
皮膚科	7,546	31.1	155	0.4	11Ｎ	9,449	25.9
泌尿器科	7,734	31.8	136	0.4	11Ｓ	8,471	23.2
産婦人科	4,986	20.5	66	0.2	12Ｎ	9,098	24.9
眼科	3,369	13.9	45	0.1	12Ｓ	10,392	28.5
耳鼻咽喉科	2,877	11.8	74	0.2	13Ｎ	11,148	30.5
放射線科	159	0.7	5	0.0	13Ｓ	5,665	15.5
リハビリテーション科	18	0.1	1	0.0	14Ｎ	10,677	29.3
口腔外科	2,944	12.1	27	0.1	14Ｓ	8,129	22.3
救命救急センター	729	3.0	689	1.9	ICU	1,798	4.9
計	120,410	496	10,917	30	計	110,905	304

稼働日数　外来院外　243日　　外来院内　365日　　入院　365日

イ　令和2年度月間外来（院外・院内）処方箋枚数及び院外処方箋発行率

月別	外来処方箋枚数						院外処方箋発行率（注２）		
	院外処方箋枚数	院内処方箋枚数（注１）				計			
		（A）	（B）	（C）	計		（Ⅰ）	（Ⅱ）	（Ⅲ）
令和2年 4月	9,574	254	178	351	783	10,357	92.4%	95.7%	97.4%
5月	8,303	251	211	297	759	9,062	91.6%	94.7%	97.1%
6月	9,752	261	236	364	861	10,613	91.9%	95.2%	97.4%
7月	10,753	298	309	396	1,003	11,756	91.5%	94.7%	97.3%
8月	9,530	264	325	369	958	10,488	90.4%	94.2%	97.3%
9月	10,331	279	271	435	985	11,316	91.3%	94.9%	97.4%
10月	10,765	267	258	422	947	11,712	91.9%	95.4%	97.6%
11月	9,801	276	284	378	938	10,739	91.3%	94.6%	97.3%
12月	10,826	235	298	387	920	11,746	92.2%	95.5%	98.0%
令和3年 1月	9,988	297	217	358	872	10,860	92.0%	95.1%	97.1%
2月	9,188	283	217	344	844	10,032	91.6%	94.8%	97.0%
3月	11,599	350	251	433	1,034	12,633	91.8%	95.1%	97.1%
計	120,410	3,315	3,055	4,534	10,904	131,314	91.7%	95.0%	97.3%

（注１）（A）：労災、自賠責扱い患者の処方、院内製剤、麻薬、治験を含む処方、特に必要と認めた患者の処方等

（B）：救急外来処方（主に夜間）

（C）：検査薬、糖尿病血糖測定紙、穿刺針、消毒綿、インスリン注入器等の処方

（注２）（Ⅰ）：院内処方せん枚数に（A）、（B）、（C）を含む

（Ⅱ）：院内処方せん枚数に（A）、（B）を含む

（Ⅲ）：院内処方せん枚数に（A）を含む

ウ　持参薬確認件数

月別／病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
14N	3	1	4	6	3	2	0	1	4	2	4	4	34
14S	2	0	0	2	1	2	2	0	0	0	0	4	13
13N	39	16	26	37	29	34	30	41	34	27	22	32	367
13S	9	0	0	0	0	0	14	19	14	18	26	17	117
12N	83	77	106	114	120	107	100	94	98	118	102	137	1256
12S	23	16	29	26	39	27	27	27	21	20	21	13	289
11N	41	29	49	44	44	36	41	39	38	33	28	42	464
11S	73	32	48	63	71	64	62	62	59	51	56	64	705
10N	31	21	41	42	53	55	51	53	53	43	36	46	525
10S	62	35	67	65	68	28	71	65	63	60	72	80	736
9N	9	8	11	7	10	8	6	5	6	6	7	8	91
9S	0	0	0	0	1	0	0	5	2	0	0	0	8
8N	4	5	4	2	4	7	7	5	9	8	5	6	66
8S	1	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	1	6
ICU	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	4
合計	380	241	386	408	443	371	412	416	402	389	379	454	4,681

エ　令和２年度月別、病棟別ＴＰＮ調製件数

月別 病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8Ｓ													
9N						8							8
10N		5				18							23
10Ｓ	2										4	7	13
11N		7	5	8	18	52	65	5	54	32	9	27	282
11Ｓ		14		3	9	35	6	3	9	2	3	6	90
12N	25	7	3	14				3	3				55
12Ｓ								10		2		1	13
13N	9	10	4			2		3		13	2	7	50
13Ｓ							2	13	26	10		5	56
14N	29	1	6		12	25	7		9	30	7	19	145
14Ｓ	18	6	15	20	39		6	8					112
ICU	13	17	32	1	12	2	2	3	2	2	2	1	88
TPN計	96	67	65	46	90	142	88	48	103	91	27	73	936
NICU	45	12	48	31	124	43	39	24	59	52	50	21	548

オ　令和２年度月別、外来（診療科）・入院（診療科・臓器別）化学療法調製件数

月別 診療科 ・入院（臓器別）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	188	173	177	216	204	192	183	170	175	220	229	291	2418
外科	87	90	85	95	82	67	66	67	73	76	66	79	933
脳神経外科	11	9	12	10	11	7	7	8	13	5	7	11	111
産婦人科	19	19	17	14	14	15	12	18	13	14	9	12	176
泌尿器科	25	22	27	17	20	15	16	17	15	13	11	22	220
耳鼻咽喉科	25	15	17	15	15	17	14	11	15	12	8	14	178
皮膚科	－	－	－	－	－	3	6	5	9	6	7	7	43
エンドキサンパルス	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	5	1	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	11
外来合計	360	329	338	369	347	316	304	296	313	346	337	436	4091
造血器	12	16	27	19	25	18	35	45	62	74	64	90	487
肺	76	91	89	78	71	82	85	74	64	84	74	67	935
食道	22	27	19	15	8	3	15	25	21	26	31	37	249
胃	6	3	3	3	1	2	2	0	2	0	3	3	28
胆・膵	2	2	4	6	3	2	2	3	2	4	5	6	41
乳腺	0	2	1	0	1	2	3	1	1	1	1	1	14
大腸	5	2	5	6	4	3	5	7	3	6	7	7	60
脳外	7	5	7	7	7	6	3	3	4	0	1	1	51
産婦人科	12	7	10	9	5	13	13	10	2	4	4	4	93
泌尿器科	13	19	21	23	23	15	25	26	23	15	15	15	233

耳鼻科	15	7	15	27	30	21	20	31	26	8	12	6	218
エンドキサンパルス	1	0	3	0	0	5	4	0	2	5	4	5	29
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入 院 合 計	171	181	204	193	178	172	212	225	212	227	221	242	2438
ポンプのみ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
総 合 計	532	510	542	562	525	488	516	521	525	573	558	678	6530

カ　令和2年度月別注射箋枚数（入院）

月別	注射箋枚数
4 月	9, 700
5 月	9, 781
6 月	10, 341
7 月	11, 041
8 月	11, 913
9 月	11, 818
10 月	11, 740
11 月	12, 021
12 月	13, 109
1 月	13, 859
2 月	12, 075
3 月	12, 964
合計	140, 362

(2)　薬剤管理指導業務

令和２年度は、指導患者数6,032人（前年比16.6%増）、算定件数8,864件（前年比7.0%増）となりました。算定件数増加の要因は病棟薬剤業務拡大（3病棟実施）による影響が大きいと考えられます。新たに病棟薬剤業務を開始した10階南病棟において、主診療科である産婦人科は前年比70.0%と大幅な増加となりました。また薬剤総合評価調整加算件数も増加しました。

診療科別・病棟別年間指導対象患者数及び薬剤管理指導件数（薬剤総合評価調整加算件数含む）

診　療　科	患者数	薬剤管理指導件数	病棟	患者数	薬剤管理指導件数	薬剤総合評価調整加算件数
内　　科	1,855	2,572	8N	6	5	0
精神・神経科	10	10	8S	9	9	0
小　児　科	4	4	9N	9	9	0
外　　科	720	1,084	9S	8	10	0
心臓血管外科	11	14	9W	0	0	0
脳神経外科	11	12	10N	1,121	1,373	15
整形外科	1,209	1,991	10S	979	520	1
形成外科	58	78	11N	775	1,173	3
皮　膚　科	115	152	11S	184	261	0
泌尿器科	857	1,218	12N	1,607	2,417	20
産婦人科	430	568	12S	255	334	1
眼　　科	177	191	13N	538	637	1
耳鼻咽喉科	340	656	13S	123	159	0
歯科口腔外科	85	105	14N	220	302	0
救　急　科	137	208	14S	193	314	0
麻　酔　科	1	1	ICU	5	5	0
計	6,032	8,864	計	6,032	8,864	41

(3)　薬剤師外来業務

泌尿器科及び整形外科において、手術及び検査のため入院予定の外来患者を対象に、常用薬の確認や術前中止薬剤の中止指示などを、薬剤師外来で行っています。

手術件数減少に伴い整形外科で21年/年、泌尿器科で68件/年、昨年度より減少しました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
泌尿器科	31	43	52	48	52	37	50	38	37	35	43	47	513
整形外科	2	2	7	6	7	7	2	1	1	1	0	0	36
計	33	45	59	54	59	44	52	39	38	36	43	47	549

(4)　薬品管理業務

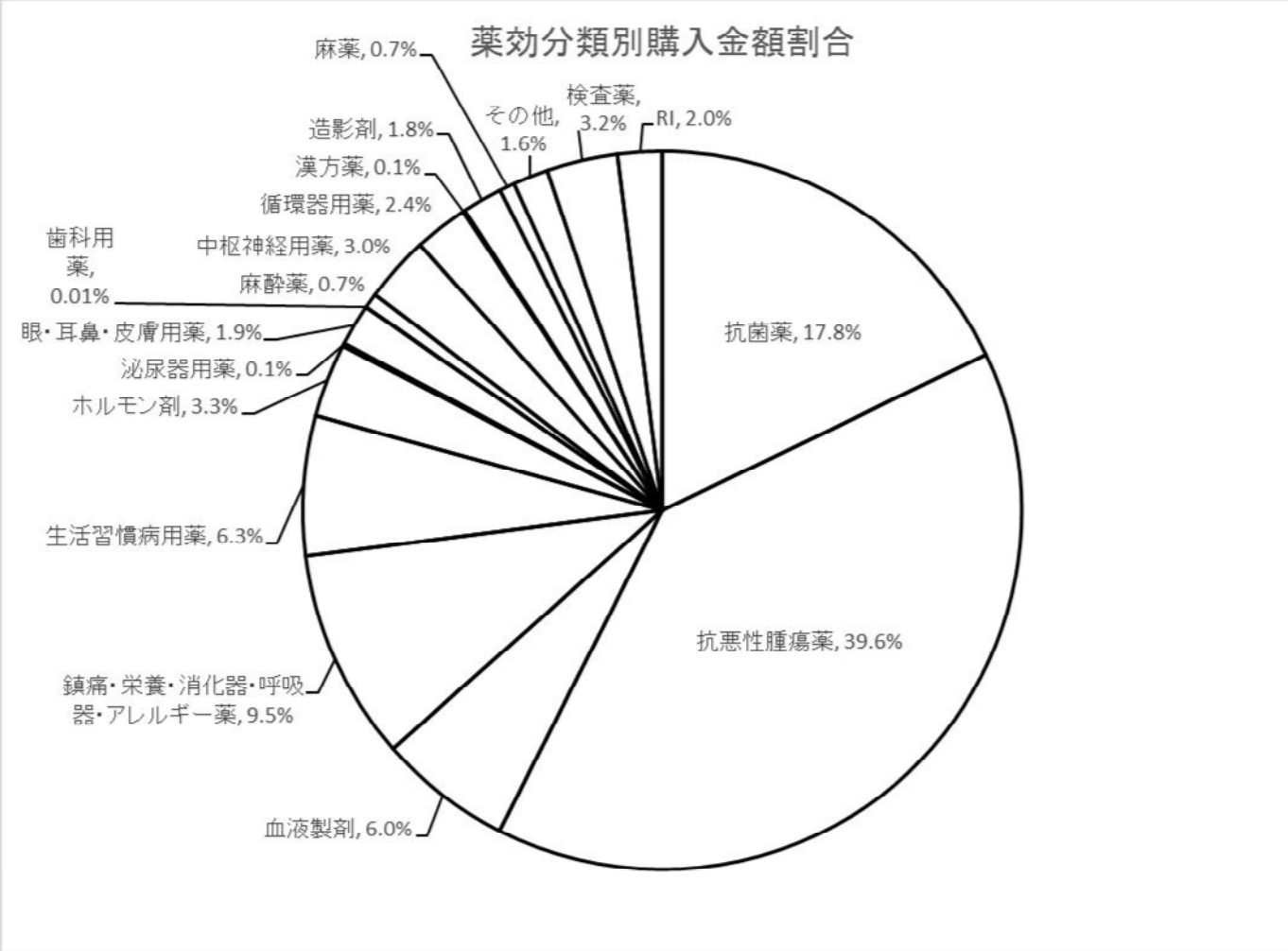
薬品購入金額は昨年度に比べ約0.4%、金額にして約１千3十万円の減少となりました。先発医薬品から後発医薬品への変更による減額効果以上に、新規抗がん剤、放射性薬品、抗体製剤などの高額医薬品の購入費が増加しており、ここ数年増加の一途をたどっていましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行による入院・外来患者数の減少に伴い、金額としては前年度よりも減少しました。

〔薬品使用状況〕

ア　区分別使用割合

区　分	比　率（%）	区　分	比　率（%）
内服用薬品	16.54	その他薬品	0.80
注射用薬品	72.20	麻薬	0.69
外用薬品	1.62	血液	2.97
検査薬品	3.20	放射性薬品	1.99

イ　薬効分類別購入金額割合



ウ　採用医薬品における後発医薬品の割合

令和3年3月における後発医薬品採用率及び使用率は、次のとおりでした。

採用薬品数	先発医薬品	後発医薬品	合計	後発医薬品 採用率 (品目シェア)
	920	500	1,420	35.21%
入院使用数量	後発あり先発 + 後発医薬品	後発医薬品	全医薬品	後発医薬品 使用率 (数量シェア)
	224,675	204,295	365,583	90.9%
外来使用数量	後発あり先発 + 後発医薬品	後発医薬品	全医薬品	後発医薬品 使用率 (数量シェア)
	24,180	21,915	52,900	90.6%

(5)　医薬品情報管理業務

日本病院薬剤師会への薬剤師介入事例報告（プレアボイド報告）は、昨年度より157件減少しました。

令和2年度月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
プレアボイド報告(様式1)												1	1
プレアボイド報告(様式2)	10	11	8	2	1	13	11	5	8	13	12	9	103
プレアボイド報告(様式3)	1	4	4	4	2	2	2	8	7	2	3	5	44

様式1：重篤化等回避報告
様式2：未然回避報告
様式3：薬物治療効果の向上

(6)　製剤業務

当院では、市販品又は同等の市販品への切替えを推進し、院内製剤品目は必要最小限としています。製剤総量は昨年度より減少しました。

主な製剤総量(令和２年４月～令和３年３月)

薬　品　名	規格	数量	薬　品　名	規格	数量
3%亜硝酸ナトリウム注射剤	10mL	8	ZENTEL	30mL	3
5%フェノール注射液	5mL	0	2.5%酢酸	100mL	35
6 倍 PA ヨード洗顔液	50mL	406	2.5%酢酸	500mL	48
塩酸エピネフリン 0.03%	50mL	560	3%硝酸銀液	10mL	0
滅菌エピネ･キシロ1:1	50mL	72	20%硝酸銀液	20mL	7
滅菌グリセリン	30mL	12	精製水	10000mL	11
脱気水	1000mL	71	生理食塩水	10000mL	112
滅菌ピオクタニン 2%	10mL	250	1%外用ピオクタニン	500mL	0
滅菌テーカイン液 0.3%	50mL	30	皮膚インキ	120mL	1
滅菌テーカ･エピネ1:1	50mL	48	ポドフィリンチンキ	50mL	0
リファンピシン液 0.2%	500mL	0	2%ホルマリンアルコール	500mL	3
1.2%口腔外科用ルゴール	100mL	32	5%内服用ルゴール	500mL	5
0.5%硫酸アトロピン点眼液	5mL	18	1%内服用ルゴール	100mL	5
0.25%硫酸アトロピン点眼液	5mL	6	1.2%ルゴール液	500mL	15
1%塩酸点眼液	5mL	0	0.8%ルゴール液	500mL	10
4%キシロカイン点眼液　分注	5mL	164	5%イオウ軟膏	100g	0
20%血清点眼液	5mL	18	水性ゲル	450mL	3
4 倍希釈デスモプレシン点鼻液	4.8mL	0	5%チンクレスタミンクリーム	100g	5
ナシビン点鼻液　分注	10mL	12	2%ハイドロキノン	10g	46
プリビナ点鼻液　分注	10mL	7	5%ハイドロキノン	10g	67
ローズベンガル点眼 1%	50mL	0	パッチテスト	5g	0
γ－BHC ローション	500mL	0	0.2%ポリミキシン軟膏	300g	21
2%SADBE アセトン	50mL	4	モース氏ペースト	100g	0
1%SADBE アセトン	50mL	3	0.1%レチノイン酸	10g	60
0.1%SADBE アセトン	50mL	9	0.2%レチノイン酸	10g	5
0.01%SADBE アセトン	50mL	4	チラーヂン S 坐薬	個	0
0.001%SADBE アセトン	50mL	2	プラセボ坐剤	個	0
0.0005%SADBE アセトン	50mL	0			

令和元年度年間製剤総数量

滅菌、無菌を要する製剤		滅菌を要しない製剤	
注　射　剤	0本	内・外用液剤	228L
点眼薬・点鼻薬等	225本	軟　膏　剤	0kg
そ　の　他	131L	坐　　薬	0個

(7)　薬学生実務実習受入状況

令和2年度はコロナ禍における院内感染防止の観点から、受入を行いませんでした。

28　検査科

部長　大曽根　康夫

課長　西之坊　泰子

令和２年度は新型コロナウイルス感染症への対応として、コロナ検査検体採取、細菌検査室でのLAMP法検査、検体検査室（SRL委託業務）でのコロナ抗原検査を新たな業務として実施し、院内感染防止に貢献しました。その他、各検査室にてCOVID-19 対策の新たなマニュアル作成と各診療科を含めた周知徹底を行い、検査室内の感染防止を徹底しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により全体的に検査件数が減少していますが、細菌検査ではコロナLAMP法検査を令和２年５月から開始したことにより検査件数が増加し、病院収益の向上に貢献しました。

(1)　生理検査

項　　目	令和元年度			令和２年度		
	外　来	入　院	総件数	外　来	入　院	総件数
心電図	14,501	2,661	17,162	13,117	2,841	15,958
CVRR	15	75	90	17	45	62
心室遅延電位	1	3	4	0	0	0
運動負荷	198	0	198	193	3	196
起立負荷	176	51	227	126	53	179
ホルター	310	16	326	250	9	259
トレッドミル	82	1	83	62	1	63
負荷心肺機能検査	3	21	24	2	3	5
ABI	971	178	1,149	834	137	971
SPP	27	19	46	16	6	22
TBI	22	13	35	27	1	28
一般肺機能（ＳＶＣ）	1,746	267	2,013	1,056	179	1,235
一般肺機能（ＦＶＣ）	1,746	267	2,013	1,056	179	1,235
機能的残気量	89	20	109	50	12	62
肺拡散能力	89	20	109	50	12	62
Ｃ・ボリューム	33	4	37	7	2	9
薬剤吸入試験	7	9	16	3	3	6
呼気NO測定	515	55	570	183	25	208
筋電図	292	31	323	193	18	211
神経伝導検査	1,780	481	2,261	1,559	480	2,039
脳波	633	390	1,023	668	353	1,021
脳波(眠剤使用)	9	128	137	5	82	87
ABR VEP SEP VEMP	13	22	35	8	34	42
新生児聴覚スクリーニング	4	738	742	3	647	650
心エコー	2,116	1,008	3,124	1,919	1,087	3,006
経食道心エコー	1	7	8	4	11	15
腹部エコー	3,521	683	4,204	3,126	623	3,749
体表エコー	2,516	179	2,695	2,245	140	2,385
血管エコー	531	439	970	454	447	901
エコー下生検・穿刺	258	33	291	220	43	263
モニタリング	0	6	6	0	11	11
合計	32,205	7,825	40,030	27,453	7,487	34,940

(2)　病理検査部門

ア　病理・細胞診検査

項　　目	令　和　元　年　度			令　和　2　年　度		
	外来件数	入院件数	総件数	外来件数	入院件数	総件数
病理組織検査	3077	5321	8398	2678	4393	7071
病理術中迅速検査	1	279	280	4	233	237
免疫染色	370	828	1198	338	791	1129
特殊染色	95	670	765	89	592	681
電子顕微鏡検査	2	9	11	0	0	0
細胞診検査	6675	1290	7965	5825	1362	7187
細胞診術中迅速検査	0	45	45	0	20	20
病理解剖	5	14	19	2	16	18
合計	10225	8456	18681	8936	7407	16343

※平成 29 年度から「免疫染色」「特殊染色」の件数に細胞診件数を追加しています。

イ　剖検状況

科別剖検状況	令　和　元　年　度				令　和　2　年　度			
	実入院	死亡数	剖検数	剖検率	実入院	死亡数	剖検数	剖検率
内科	4360	252	18	7.14	4476	257	18	7.00
神経科								
小児科	1600	0			963	0		
外科	1774	41	1	2.44	1568	28		
脳神経外科	243	6			242	12		
整形外科	1197	5			1110	8		
形成外科	99	0			64	0		
心臓血管外科	56	1			48	0		
皮膚科	191	1			137	1		
泌尿器科	898	8			786	8		
産科・婦人科（死産児）	1851	5			1456	2		
眼科	298	0			186	0		
耳鼻咽喉科	428	7			286	1		
リハビリテーション科	0	0			0	0		
放射線科	0	0			0	0		
歯科口腔外科	95	0			82	0		
救命救急センター	761	254			758	298		
感染内科	0	0			13	1		
感染小児科	0	0			0	0		
精神科	172	1			200	0		
計	14042	581	19	3.27	12375	616	18	7.00

ウ　臨床支援業務

項　　目	令　和　元　年　度			令　和　2　年　度		
	外来件数	入院件数	外来件数	外来件数	入院件数	総件数
産科エコー（胎児計測）	2455		2455	2034		2034

(3)　細菌検査

項目 ＼ 年度		令和元年度 外来	令和元年度 入院	令和元年度 合計	令和２年度 外来	令和２年度 入院	令和２年度 合計
塗抹鏡検		3,184	3,335	6,519	2,715	3,164	5,879
培養同定	口腔・呼吸器	1,648	1,689	3,337	1,022	1,581	2,603
	消化器	373	1,100	1,473	221	818	1,039
	泌尿器・生殖器	2,263	912	3,175	2,186	1,044	3,230
	血液・穿刺液	3,975	3,524	7,499	3,448	3,788	7,236
	その他	478	653	1,131	306	395	701
嫌気性培養		9,689	4,557	9,689	3,994	4,867	8,861
薬剤感受性	１　菌種	1,695	1,138	2,833	1,334	1,034	2,368
	２　菌種	514	333	847	253	290	543
	３　菌種以上	181	144	325	87	110	197
大腸菌抗原		473	199	473	122	118	240
大腸菌ベロトキシン		3	0	3	2	0	2
肺炎球菌抗原		0	0	0	0	0	0
ヘモフィルス抗原		0	0	0	0	0	0
カンジダ		0	0	0	0	0	0
トリコモナス		3	0	3	0	0	0
クラミジア		2	0	2	0	1	1
結核菌ＬＡＭＰ法		39	67	106	26	67	93
コロナＬＡＭＰ法		－	－	－	6,588	924	7,512
合計		19,764	17,651	37,415	22,304	18,201	40,505

※令和２年５月よりコロナLAMP法検査を開始しました。

(4)　血液センター

ア　検査件数

	令和元年度 外来	令和元年度 入院	令和元年度 合計	令和２年度 外来	令和２年度 入院	令和２年度 合計
血液型ABO式及びRh式	6,444	864	7,308	5,467	835	6,302
抗体スクリーニング含む抗Dia抗体検査	5,083	609	5,692	4,190	672	4,862
ABO式亜型の同定	1	0	1	7	0	7
その他の血液型検査	0	1	1	1	0	1
抗体価	45	10	55	19	7	26
交差試験	610	2,004	2,614	503	1,994	2,497
直接クームス	81	340	421	130	273	403
間接クームス	34	29	63	32	38	70
出血時間	10	0	10	1	3	4
合計	12,308	3,857	16,165	10,350	3,822	14,172

イ　血液使用数量

製剤			単位	令和元年度 外来	令和元年度 入院	令和元年度 合計	令和２年度 外来	令和２年度 入院	令和２年度 合計
自己血			1	0	6	6	0	4	4
			2	0	70	70	0	66	66
成分製剤	赤血球製剤	RBC-LR	1	0	0	0	0	0	0
			2	138	464	602	0	0	0
		日赤照射 RBC-LR	1	0	8	8	0	3	3
			2	300	850	1,150	501	1,285	1,786
		合計	1	0	8	8	0	3	3
			2	438	1,314	1,752	501	1,285	1,786
	新鮮凍結血漿	FFP-LR	120ml	0	2	2	0	0	0
			240ml	69	366	435	114	392	506
			480ml	0	27	27	119	128	247
	濃厚血小板	PC-LR	1	0	0	0	0	0	0
			5	0	0	0	0	0	0
			10	4	4	8	0	0	0
			15	0	0	0	0	0	0
			20	0	0	0	0	0	0
		日赤照射 PC-LR	1	0	0	0	0	0	0
			5	0	7	7	2	8	10
			10	49	125	174	83	179	262
			15	0	1	1	0	6	6
			20	1	6	7	1	19	20
		PC-HLA-LR	10	0	0	0	0	0	0
			15	0	0	0	0	0	0
			20	0	0	0	0	0	0

※令和元年７月末で血液照射装置の使用中止、日赤照射血の使用開始

ウ　自己血貯血

	単位	令和元年度 外来	令和元年度 入院	令和元年度 合計	令和２年度 外来	令和２年度 入院	令和２年度 合計
液状保存	1	10	0	10	6	0	6
	2	144	2	146	111	0	111
合計		154	2	156	117	0	117

※単位１は 200mℓ、単位２は 400mℓ

(5)　院内委託検査

検査項目	令　和　元　年　度			令　和　2　年　度		
	外　来	入　院	総件数	外　来	入　院	総件数
（尿検査）						
尿定性	36,306	18,011	54,317	31,393	16,376	47,769
尿沈渣	23,334	7,119	30,453	22,994	4,622	27,616
尿定量検査	2,796	2,354	5,150	3,294	1,574	4,868
髄液検査	610	1,676	2,286	301	395	696
穿刺液検査	205	576	781	141	186	327
小計	63,251	29,736	92,987	58,123	23,153	81,276
（血液検査）						
血算	90,677	29,511	120,188	84,898	26,415	111,313
血液像	54,596	36,676	91,272	58,796	29,467	88,263
網状赤血球	4,837	9,549	14,386	10,133	5,027	15,160
浸透圧	594	1,073	1,667	180	1,224	1,404
血液ガス	2,736	1,290	4,026	2,168	1,957	4,125
赤沈	8,315	0	8,315	6,746	713	7,459
HbA1c	19,332	3,897	23,229	22,274	0	22,274
凝固関連検査	47,869	46,514	94,383	40,763	48,651	89,414
その他	8	1	9	19	5	24
小計	228,964	128,511	357,475	225,977	113,459	339,436
（血清検査）						
感染症関連検査	48,318	10,323	58,641	44,720	7,588	52,308
薬物関連検査	1,822	789	2,611	1,638	466	2,104
腫瘍関連検査	16,628	10,833	27,461	15,720	9,995	25,715
自己抗体検査	5,354	0	5,354	5,008	0	5,008
血漿蛋白免疫学的検査	79,455	35,640	115,095	72,347	35,531	107,878
小計	151,577	57,585	209,162	139,433	53,580	193,013
（生化学検査）						
血液化学検査	1,055,276	976,444	2,031,720	997,673	867,467	1,865,140
内分泌学的検査	23,046	8,848	31,894	25,811	8,032	33,843
小計	1,078,322	985,292	2,063,614	1,023,484	875,499	1,898,983
合計	1,522,114	1,201,124	2,723,238	1,447,017	1,065,691	2,512,708

(6) 院外外注検査

検　査　項　目	令和元年度			令和2年度		
	外来	入院	総件数	外来	入院	総件数
（尿・糞便等検査）						
尿検査・他	366	381	747	243	237	480
糞便検査	14	3,169	3,183	215	2,191	2,406
穿刺液・採取液検査	9	80	89	43	96	139
悪性腫瘍組織検査	117	44	161	161	145	306
小計	506	3,674	4,180	662	2,669	3,331
（血液学的検査）						
血液形態・機能検査	0	0	0	16	0	16
骨髄像	56	53	109	127	81	208
造血器腫瘍抗原検査	141	99	240	103	103	206
出血・凝固検査	163	102	265	242	770	1,012
造血器腫瘍遺伝子・染色体検査	198	132	330	456	190	646
遺伝学的検査	25	1	26	5	0	5
先天異常染色体検査	18	18	36	30	5	35
遺伝学的検査（PGx）	26	19	45	39	22	61
悪性腫瘍遺伝子検査	41	25	66	7	0	7
小計	668	449	1,117	1,025	1,171	2,196
（生化学的検査）						
血液化学検査	10,970	4,577	15,547	11,417	5,277	16,694
内分泌学的検査	7,885	1,943	9,828	6,880	3,085	9,965
腫瘍マーカー	14,275	1,264	15,539	12,962	1,419	14,381
特殊分析	1,094	291	1,385	1,155	264	1,419
小計	34,224	8,075	42,299	32,414	10,045	42,459
（免疫学的検査）						
免疫血液学的検査	49	22	71	56	30	86
感染症・ウイルス検査	10,687	3,703	14,390	7,496	2,744	10,240
自己抗体検査	17,147	2,636	19,783	16,300	2,978	19,278
血漿蛋白免疫学的検査	11,932	2,253	14,185	9,689	3,616	13,305
細胞機能検査	1,380	103	1,483	1,385	67	1,452
小計	41,195	8,717	49,912	34,926	9,435	44,361
（微生物学的検査）						
塗抹・培養・感受性検査	1,975	3,022	4,997	1,960	3,232	5,192
核酸同定・定量検査	3,963	912	4,875	3,673	1,039	4,712
その他微生物学的検査	405	0	405	268	0	268
小計	6,343	3,934	10,277	5,901	4,271	10,172
（病理診断）						
悪性腫瘍免疫染色・FISH法検査	288	100	388	265	252	517
小計	288	100	388	265	252	517
（保険収載外検査）						

血中薬物濃度	1,608	468	2,076	1,929	479	2,408
腫瘍マーカー	163	0	163	136	0	136
その他検査	276	37	313	35	47	82
小計	2,047	505	2,552	2,100	526	2,626
（負荷試験等）						
機能テスト	42	24	66	26	18	44
小計	42	24	66	26	18	44
合　　計	85,313	25,478	110,791	77,319	28,387	105,706

(7)　採血件数

	令和元年度		令和２年度	
	件数	日平均	件数	日平均
採血件数	66,039	275.5	59,866	246.4

(8)　宿日直検査

項目	令和元年度		令和２年度	
	件数	月平均	件数	月平均
血液型検査	1,516	126.3	1,529	127.4
交差適合試験	1,034	86.2	909	75.8
血液製剤払い出し	667	55.6	759	63.3
心電図検査	3,971	330.9	3,570	297.5
コロナ検体抽出	－	－	2,203	－
合　　計	7,188	599.0	8,970	－

※令和２年８月よりコロナ検体抽出業務を開始しました。

(9)　コロナ検体採取

	令和元年度	令和２年度
件数	－	3,352

※令和２年度８月より開始しました。

【各種認定資格取得状況】

日本超音波医学会認定超音波検査士：循環器３名、消化器３名、体表臓器３名

日本リウマチ学会登録ソノグラファー：2 名、血管診療技師認定機構認定技師：1 名

日本糖尿病療養指導士：3 名、日本臨床細胞学会認定細胞検査士：6 名（国際細胞検査士 2 名）

日本臨床衛生検査技師会病理検査技師１名、日本輸血・細胞治療学会認定輸血検査技師：２名

29　食養科　　科長　太田　博子

令和２年度は、新型コロナウイルス感染患者受け入れのため、入院ベット数の減少による入院患者数の減少に伴い、患者給食数も減少しました。感染対策の一環として、配下膳の方法を検討し、実施しました。

市民、患者向けの栄養に関する情報発信として、栄養だよりを作成・デイルームへ掲示しました。

（１）年度別給食状況

年　　度	一　　般　　食				特別食	計	１回の食　数	特別食比率%
	常　食	軟　食	流動食	計				
平成２８年度	192,865	96,665	45,708	335,238	112,724	447,962	409	25.2
平成２９年度	186,206	103,025	49,378	338,609	131,189	469,798	429	27,9
平成３０年度	189,330	86,774	45,347	321,597	127,594	449,045	410	28,4
令和元年度	184,698	81,839	46,178	312,715	110,888	423,603	387	26.2
令和２年度	166,945	74,464	39,789	281,198	94,324	375,522	343	25.1

（２）食種別給食数

総　数　　375,522 食　　100 ％

一般食　　281,198食　　74.9 ％

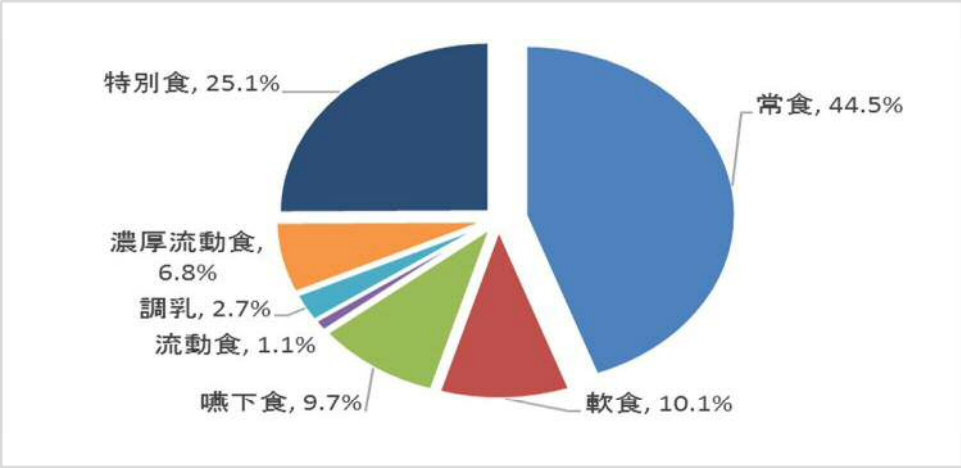
- 常食　166,945 食
- 軟食　37,891 食
- 嚥下調整食　36,573 食
- 流動食　4,052 食
- 調乳　10,079 食
- 濃厚流動食　25,658 食

特別食　　94,324食　　25.1%

- 蛋白コントロール 食　32,443 食
- 脂質コントロール 食　6,552 食
- カロリーコントロール 食　43,643 食
- 術後・潰瘍食　9,959 食
- 調乳（HMS-2）　1,072 食
- 大腸検査食　655 食

なごみ食　　5,251食（常食として計上）
フリーオーダー食　2,458食（常食として計上）
定型除去食　　94食（軟食として計上）
検食　4,380 食（常食として計上）

食種別比率



（３）月別給食数（令和２年度）

月別	一般食				特別食	計	１回の食数
	常食	軟食	流動食	計			
4 月	13, 271	4, 645	2, 834	20, 750	7, 364	28, 114	312
5 月	11, 300	4, 173	2, 893	18, 366	7, 603	25, 969	279
6 月	12, 865	4, 345	2, 867	20, 077	7, 434	27, 511	306
7 月	14, 563	6, 002	2, 731	23, 296	7, 658	30, 954	333
8 月	15, 506	6, 029	2, 760	24, 295	8, 480	32, 775	352
9 月	14, 616	6, 263	3, 034	23, 913	8, 183	32, 096	357
10 月	15, 117	6, 712	3, 148	24, 977	8, 049	33, 026	355
11 月	15, 241	6, 487	3, 071	24, 799	8, 364	33, 163	368
12 月	14, 109	7, 304	4, 000	25, 413	8, 495	33, 908	365
1 月	13, 387	8, 183	4, 500	26, 070	7, 955	34, 025	366
2 月	12, 078	7, 117	4, 417	23, 612	6, 689	30, 301	361
3 月	14, 892	7, 204	3, 534	25, 630	8, 050	33, 680	362
計	**166, 945**	**74, 464**	**39, 789**	**281, 198**	**94, 324**	**375, 522**	**343**

（４）嚥下調整食数

嚥下調整食は、全食数の8.4%を占め、年々増加傾向にあります。また、平成３１年２月以降の改定後は、喫食率も上がっており、摂食嚥下支援チーム、栄養サポートチームと共に、経口摂取をめざし、早期介入を行っています。

年度	30年度2月以前	ゼリー開始食	ミキサー	細きざみ	きざみ	軟菜食Ⅰ	軟菜食Ⅱ	計
	30年度2月以降		とろみペースト	とろみきざみ		とろみやわらか	やわらか	
平成２８年度		1, 235	8, 565	5, 896	6, 683	6, 227	3, 915	32, 521
平成２９年度		981	9, 831	9, 649	7, 455	7, 460	2, 629	38, 005
平成３０年度2月以前		685	8, 571	4, 368	4, 721	5, 302	1, 457	30, 940
平成３０年度2月以降			1, 072	1, 488		1, 002	2, 301	
令和元年度		686	8, 333	9, 264		5, 543	11, 726	35, 552
令和２年度		133	9, 084	11, 649		5, 996	9, 711	36, 573

栄養指導・NST業務状況

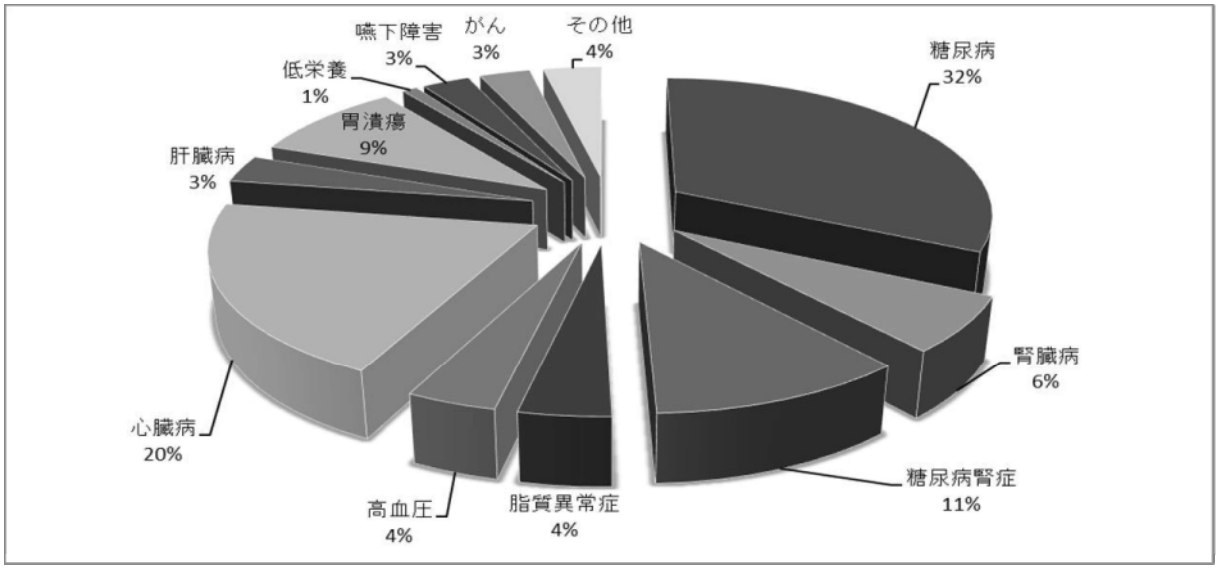
（１）栄養指導状況

令和２年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響をうけ、集団指導の糖尿病教室の実施は０件、母親教室の実施は５件のみとなりました。個別指導件数に占める入院個別指導の割合が増えています。透析予防の件数は、やや減っています。疾患別では糖尿病、糖尿病腎症合わせて44%と糖尿病関連の指導が半数近くを占めています。心臓カテーテル入院でのクリニカルパス指導件数が20%と次いで多くの割合をしめています。

			個　別　指　導		集団指導			
			個別指導	透析予防指導	糖尿病教室		母親教室	イベント
					基　礎	応　用		
回数	総数		2175	265	0	0	5	0
	月平均		181.3	22.1	0.0	0.0	0.4	
人数	総数		2175	265	0	0	63	0
	月平均		181.3	22.1	0.0	0.0	5.3	
内訳	総数	外来	768	265	0	0	63	
		入院	1407		0	0	0	
		家族他	462	39	0	0	0	
	月平均	外来	64.0	22.1	0	0.0	5.3	
		入院	117.3		0.0	0.0	0.0	
		家族他	38.5	3.3	0.0	0.0	0.0	
時間	総時間		1087.5	132.5	0	0	5	
	１回		30分	30分	１時間	１時間	１時間	

個別栄養指導(疾患別件数)

糖尿病	腎臓病	糖尿病腎症	脂質異常症	高血圧	心臓病	肝臓病	胃潰瘍	低栄養	嚥下障害	がん	その他
785	158	265	95	93	494	77	223	22	69	74	85



（2）ＮＳＴ回診状況

ＮＳＴ（栄養サポートチーム）は食事だけでなく、経管栄養、静脈栄養など総合的かつ専門的な栄養管理を目指し、医師、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師、言語聴覚士など、多職種が連携して活動を行っています。平成22年の診療報酬改定にて、栄養サポートチーム加算（200点／週／人）が新設され、平成23年3月から施設基準を満たし算定を行っています。

令和2年度の診療報酬改定にて、摂食嚥下支援加算（摂食嚥下支援加算200点／週／人）が新設されたことを受け、令和2年度10月より、ＮＳＴ（栄養サポートチーム）と摂食嚥下支援チームに分けて活動を行いました。チームを分けることで、効率の良い回診を行い、より専門的な介入を行うことができました。

また、昨年度は新型コロナウイルスの状況で入院患者数が減少したこともあり、年間件数が令和元年度と比べて大幅に減少しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間（人）
平成28年度	125	119	138	128	196	136	128	162	164	185	172	156	1,809
平成29年度	126	200	192	165	199	172	223	159	174	162	137	152	2,061
平成30年度	176	179	142	224	191	185	200	153	156	156	155	147	2,064
令和元年度	137	150	152	173	161	150	142	126	129	154	146	160	1,780
令和2年度	115	97	138	123	141	165	135	133	141	162	143	168	1,661

※回診回数：ＮＳＴ週1回、摂食嚥下支援チーム週1回

〔介入状況〕

ＮＳＴ加算算定開始後は嚥下障害や食種・補助食の相談を中心に介入患者数を増やしてきました。嚥下障害による介入依頼が半数以上を占めています。ＣＯＮＵＴ変法スコアを用いた栄養評価による依頼も増加してきています。介入終了理由については改善の割合が増加しました。

	経管栄養（下痢含む）	褥瘡/CONUT	嚥下障害	食種・補助食	輸液	栄養判定・栄養経路	その他	合計（人）
平成28年度	56 (11.4%)	5 (1.0%)	283 (57.7%)	82 (16.7%)	23 (4.7%)	7 (1.4%)	35 (7.1%)	491
平成29年度	49 (8.6%)	0/9 (1.6 %)	335 (58.7%)	130 (22.8%)	37 (6.5%)	9 (1.6%)	1 (0.2%)	570
平成30年度	64 (10.3%)	1/54 (8.9%)	297 (48.0%)	128 (20.6%)	50 (8.0%)	23 (3.7%)	3 (0.5%)	620
令和元年度	45 (8.9%)	1/12 (2.6%)	303 (60.0%)	87 (17.2%)	36 (7.1%)	20 (4.0%)	1 (0.2%)	505
令和2年度	45 (7.9%)	1/19 (3.5%)	376 (66.0%)	83 (14.5%)	32 (5.6%)	9 (1.6%)	5 (0.9%)	570

	退院	転院	改善	不変	死亡	悪化 (ﾀｰﾐﾅﾙなど)	合計 (人)
平成 28 年度	156 (32.5%)	81 (16.9%)	178 (37.1%)	15 (3.1%)	37 (7.7%)	13 (2.7%)	480
平成 29 年度	185 (32.6%)	99 (17.4%)	199 (35.0%)	15 (2.6%)	30 (5.3%)	40 (7.1%)	568
平成 30 年度	161 (25.9%)	84 (13.5%)	269 (43.2%)	24 (3.9%)	45 (7.2%)	39 (6.3%)	622
令和元年度	174 (34.3%)	72 (14.2%)	171 (33.7%)	21 (4.1%)	33 (6.5%)	37 (7.3%)	508
令和 2 年度	139 (24.6%)	75 (13.3%)	207 (36.6%)	72 (12.7%)	41 (7.2%)	32 (5.6%)	566

〔入院期間と介入期間〕

病院全体として入院期間短縮に取り組む中で、ＮＳＴ介入者の入院期間と介入期間は下表のとおりです。令和2年度の介入患者は、入院期間が延長しましたが介入期間は短縮しました。短い期間の介入でも、改善の比率が増加しているため、有意義な介入となっていると考えます。

	年齢（歳）	入院期間（日）	介入期間（日）
平成 28 年度	73.7	50.0	21.7
平成 29 年度	76.1	46.3	21.2
平成 30 年度	75.0	44.9	17.9
令和元年度	76.4	44.5	19.2
令和 2 年度	76.8	46.4	17.3

30　患者総合サポートセンター　　所長　大曽根　康夫
副所長　山内　秀行

(1) 地域医療連携

地域の医療機関の皆様からの受付や相談窓口として、また、顔の見える密接な地域連携を目指し、以下の業務を行い連携強化に努めています。

ア　外来診療の事前予約受付
イ　地域の医療機関からの緊急受診受付と病床確保
ウ　医療機器共同利用の予約受付
エ　かかりつけ医の相談、ご案内
オ　診療情報提供書の管理
カ　転院調整
キ　連携登録医事務手続き
ク　医療機関訪問の実施
ケ　「診療のご案内」「地域医療連携便り」の発行
コ　地域医療連携の会・研修会・市民公開講座の開催等

令和２年度　各種統計

紹介率・逆紹介率(%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
紹介率	69.4	67.6	70.1	73.6	69.8	70.8	72.5	72.6	74.3	69.3	72.1	74.6	71.7
逆紹介率	155.8	129.0	102.7	114.9	116.0	105.3	100.2	109.5	123.2	122.1	108.2	102.3	113.4

地域医療連携業務（件）

	紹介予約	緊急受診	転院 (転入)	転院 (転出)	かかりつけ医 ご紹介	診療情報 依頼	診療情報 照会
件数	1131	1056	151	182	482	743	373

医療機器共同利用（件）

	CT	PET-CT	MRI	骨塩	骨 シンチ	上部 内視鏡	心 エコー	腹部 エコー	X-P	栄養 相談
件数	159	303	205	7	8	56	50	85	1	2

広報活動等

地域連携便り発行	4 月、7 月、10 月、1 月発行
外来診療担当表	連携登録医療機関を中心に、毎月約 650 か所に発送

地域の医療従事者を対象とした研修の実施状況（医師）

	開催月日	名称	主催	内容
1	令和３年 ２月３日（水）	第11回幸・川崎病診NET	川崎病院 幸区・川崎区医師会	講演１ 座長：川崎病院副院長・整形外科部長 上田　誠司 演題：「より長く歩くために人工膝関節と地域連携による骨粗鬆症治療」 演者：川崎病院関節機能再建・人工関節センター長　小宮　浩一郎 講演２ 座長：川崎病院病院長　金井　歳雄 演題：「当院における新型コロナウイルス感染症（COVID-19)の診療状況」 演者：川崎病院感染症内科部長　坂本　光男
2	２月24日（水）	第404回川崎市小児科医会症例検討会	川崎病院 小児科	一般演題 座長：川崎病院 小児科担当部長 有安大典 1　「原因不明の肺炎に続発した脳膿瘍でノカルジア感染症と診断された一例」 演者：川崎病院 小児科専攻医 諸川明洋 2　「偶発的に見つかったダンピング症候群の重症心身障害児」 演者：川崎病院 小児科専攻医 吉川遥菜 特別講演 座長：川崎病院 小児科部長 土橋隆俊 「当科における呼吸器診療－内視鏡検査を中心に－」 演者：川崎病院 小児科医長 松尾基視

地域の医療従事者を対象とした研修の実施状況（看護師）

	開催月日	名称	主催	内容
1	10 月 2 日(水)	知っとくナース	看護部 認定看護師会	避難所でどう過ごす？ ～災害時のエコノミークラス症候群を防ぐために～
2	11 月 4 日(水)	知っとくナース	看護部 認定看護師会	脳卒中と摂食嚥下が語る！ ～災害時の食事や薬のこと～
3	12 月 2 日(水)	知っとくナース	看護部 認定看護師会	災害になんて負けない！ ～おとなの心　こどもの心～
4	令和 3 年 1 月 6 日（水）	知っとくナース	看護部 認定看護師会	地震！台風！その時どうする？ ～感染対策あれこれ～
5	1 月 15 日(金)	地域包括ケアシステム研修	地域連携部会	あなたの未来を支えたい「自分でできる」を叶えるために
6	1 月 21 日(木)	出張講座	看護部 認定看護師会	感染しない・させないために
7	3 月 3 日（水）	知っとくナース	看護部 認定看護師会	災害が起きた時に気を付ける事 ～日頃から心の準備が必要です～
8	3 月 9 日（火）	地域ケア懇談会	地域連携部会	～私が私らしく生きるためのその思いを伝える・支える・繋げる～
9	3 月 15 日(月)	出張講座	看護部 認定看護師会	施設における感染症対策

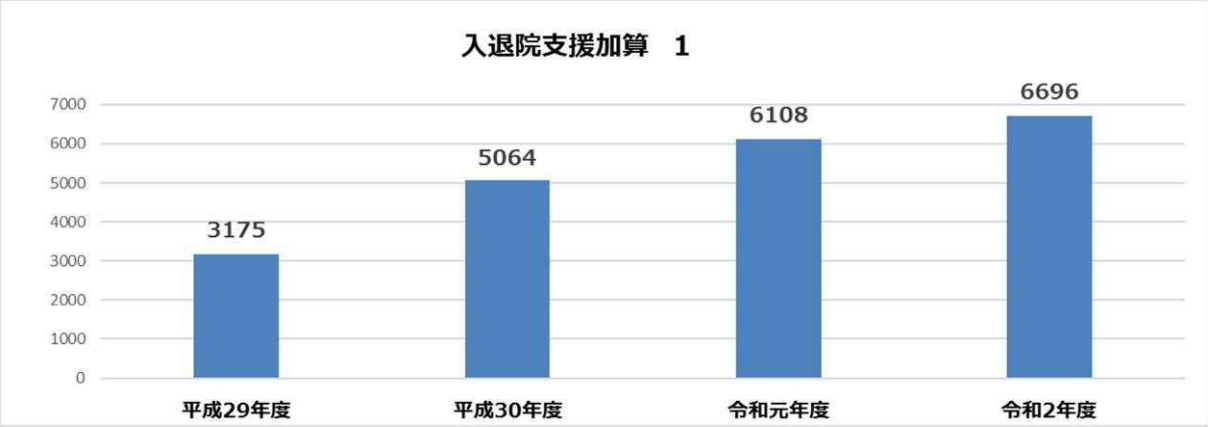
(2) 相談・調整

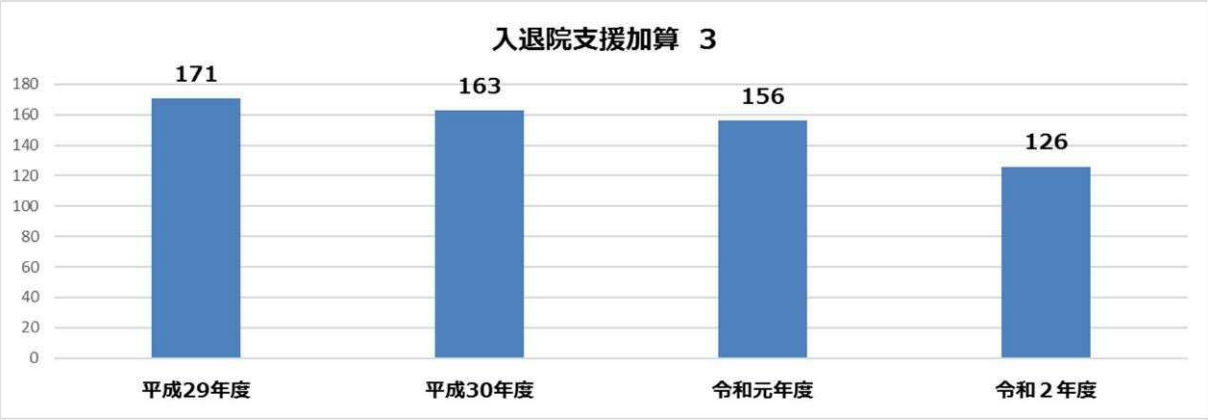
相談・調整課は、入退院支援係、医療福祉相談係、がん相談係で構成されています。地域の保険医療機関や訪問看護ステーション等との連携を強化し、患者さんへの質の高い、きめ細やかな相談支援体制を整え、地域や社会の架け橋となれるように努めています。

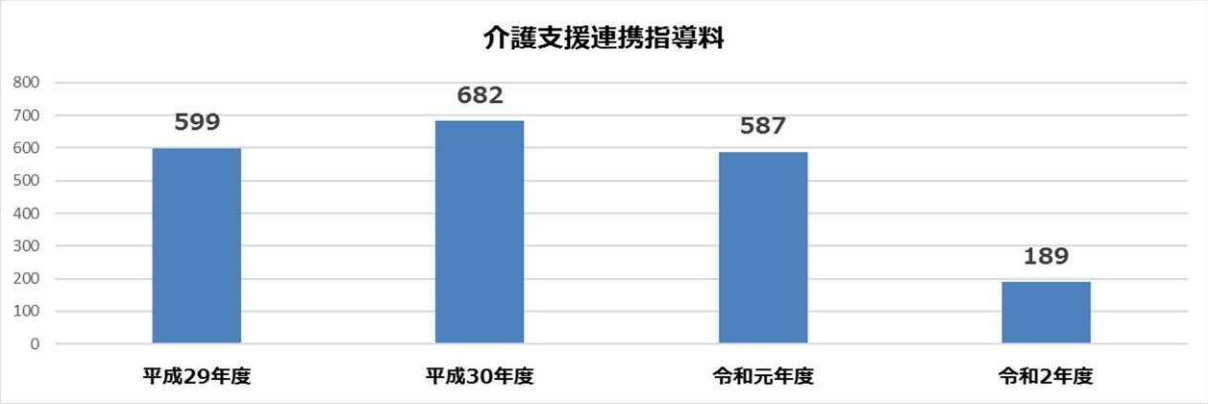
ア　入退院支援

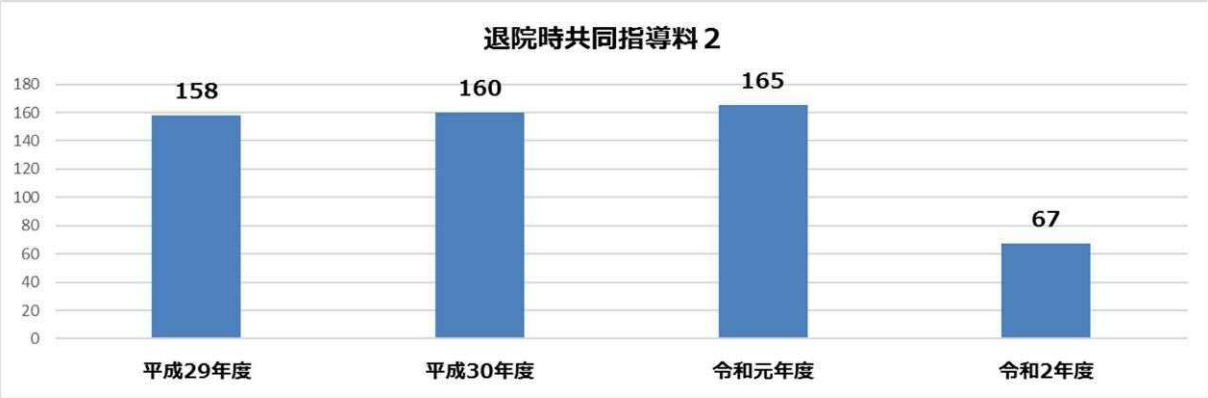
入院中の患者さんやご家族の思いに寄り添いながら、可能な限り住み慣れた地域でその人らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、多職種と協働し、退院支援や調整を行っております。令和元年度からは入院時支援も開始し、入院前から退院後を見据えた介入をしています。また、外来通院中の患者さんの在宅療養支援も行っております。

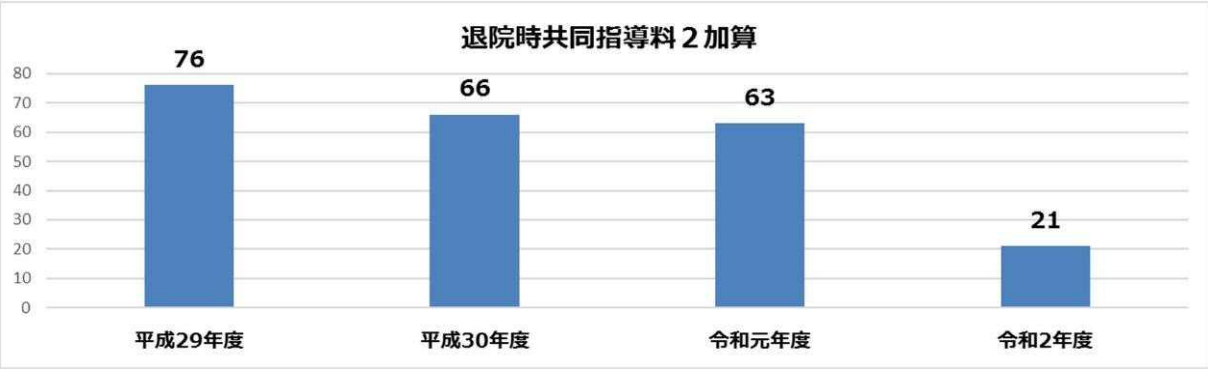
（ア）入院患者さんの入退院支援・調整
（イ）外来通院患者さんの在宅療養支援
（ウ）訪問診療、訪問看護導入等の相談・調整
（エ）医療機器、在宅酸素導入時の調整・支援
（オ）あんしん見守り一時入院事業受入調整
（カ）在宅医療を支える地域のスタッフ向け「地域ケア懇談会」の企画・運営

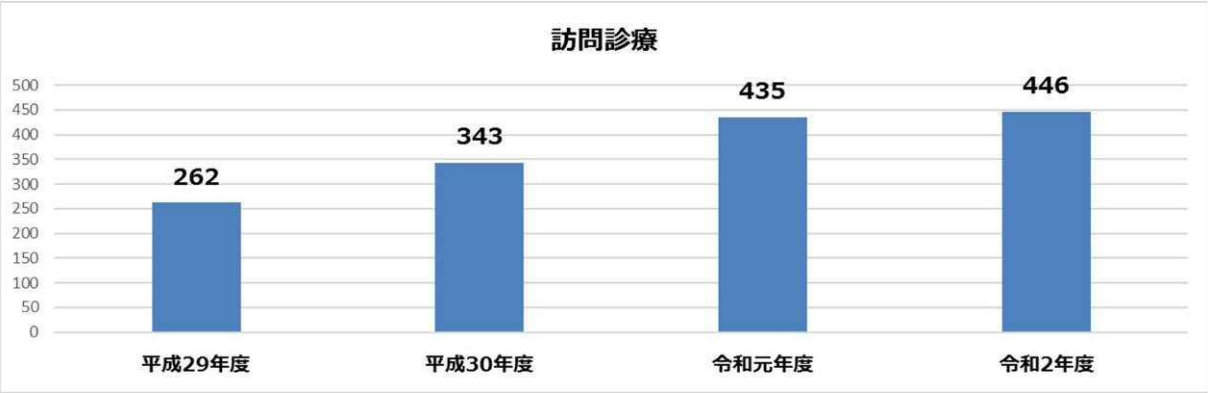


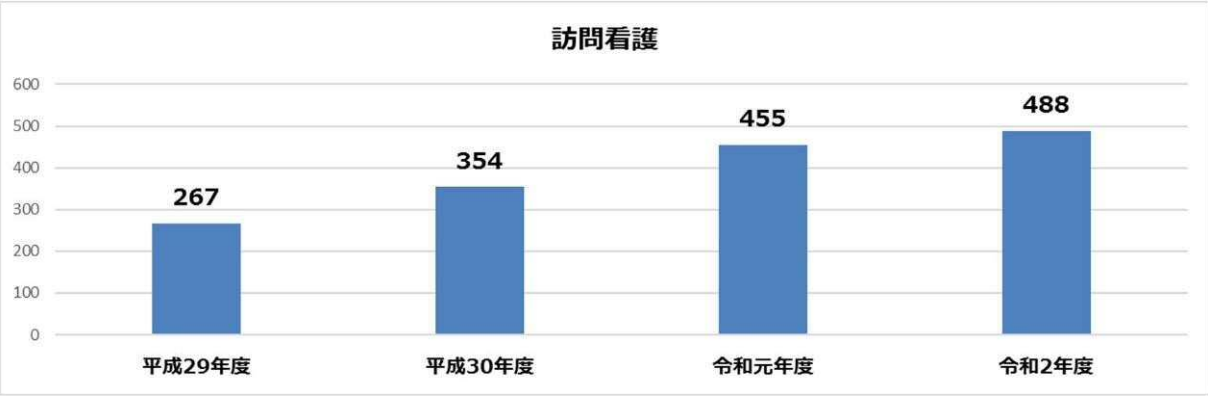


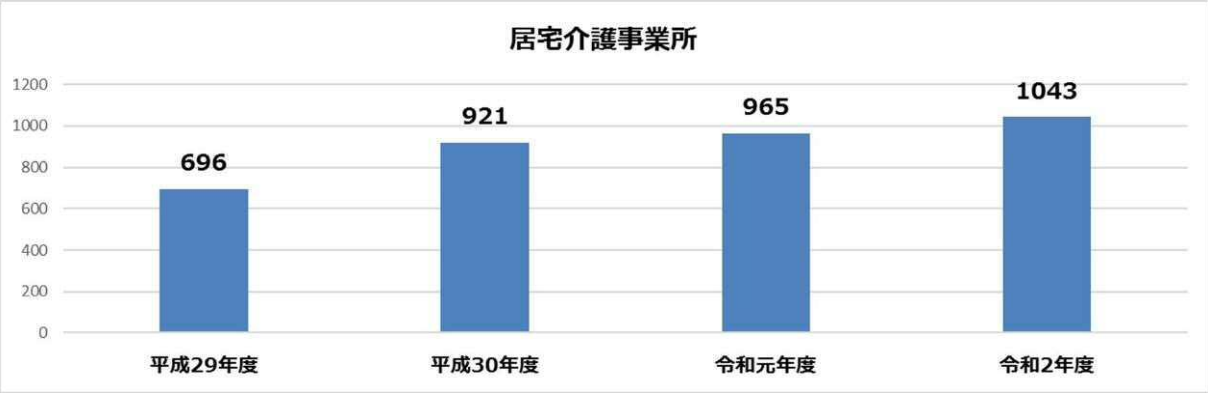

介護支援連携指導料
800
700
600
500
400
300
200
100
0
599
682
587
189
平成29年度
平成30年度
令和元年度
令和2年度

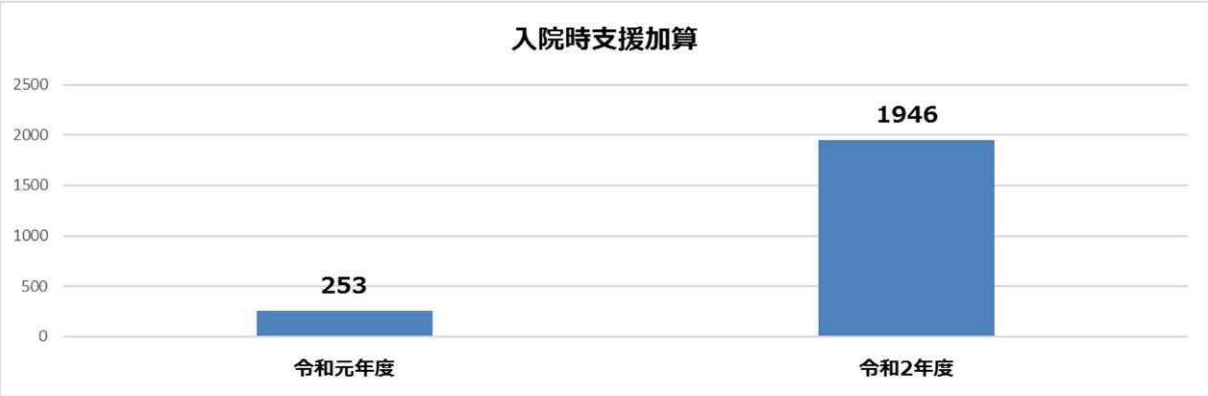

退院時共同指導料２
180
160
140
120
100
80
60
40
20
0
158
160
165
67
平成29年度
平成30年度
令和元年度
令和2年度


退院時共同指導料２加算
80
70
60
50
40
30
20
10
0
76
66
63
21
平成29年度
平成30年度
令和元年度
令和2年度


訪問診療
500
450
400
350
300
250
200
150
100
50
0
262
343
435
446
平成29年度
平成30年度
令和元年度
令和2年度







安心見守り一時入院事業実績

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
1	1	1	2	0

イ　医療福祉相談

病気やけがをきっかけに生じる生活上の問題について、医療ソーシャルワーカーが社会福祉の立場からご相談に応じています。患者さんやご家族と一緒に考え、問題解決の支援を行っています。また、転院調整や施設入所への調整も行っております。(資料２)

（ア）医療費や生活費などの経済的不安

（イ）介護保険や障害者手帳などの医療・福祉制度の利用についての相談

（ウ）退院支援（転院・施設入所他）

（エ）医療通訳派遣依頼

（オ）重症心身障害児者短期入所事業の受入調整

医療福祉相談実績（件）

内容	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
受診相談	220	189	147
障害者総合支援法による短期入所	33	31	13
虐待関係(高齢者・DV・虐待)	24	13	21
産科・小児科関連の相談	35	70	60
経済的相談(医療費・生活費)	726	806	808
福祉サービス活用に関する相談	793	831	855
生活保護・緊急患者に対する医療費・福祉的援助	241	215	208
生保入院患者の保護費配布	85	49	61
退院調整定例カンファレンス	632	828	833
合計	2789	3032	3006

患者総合サポートセンター窓口業務

内容		令和 2 年度
各相談受付		1,551
	医療福祉相談	1,134
	在宅療養相談	93
	アドボカシー相談	64
	がん相談	260
通訳派遣受付		1,229
その他・窓口対応職員が対応（面談室予約、院内他部署へ引継）		1,680
合計		4,460

地域連携クリニカルパス運用実績

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
神奈川県脳卒中地域連携パス	32	26	13
大腿骨頸部骨折地域連携パス	24	31	21

退院支援

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
回復期リハビリ病棟	203	186	277
医療型療養病棟	74	71	87
一般病棟	74	78	67
緩和ケア病棟	64	43	47
地域包括ケア病棟	67	73	62
介護療養型医療施設	13	15	10
その他病棟(精神科病棟，障害病棟)	20	14	21
老健・特養	19	24	16
民間介護施設	61	70	73
（転院支援を行なったが、在宅退院となった件数）	166	174	202
合計	761	748	862

ウ　がん相談係

患者さんやご家族等に信頼できる情報提供を行うことで、その人らしい生活や治療選択ができるように相談支援を行っています。

がんと診断されたときから、治療・症状の副作用・仕事・療養生活のことなどどのようなことでも相談を受付けております。

（ア）がん相談の実施（対面相談・電話相談）

（イ）がんに関する情報提供

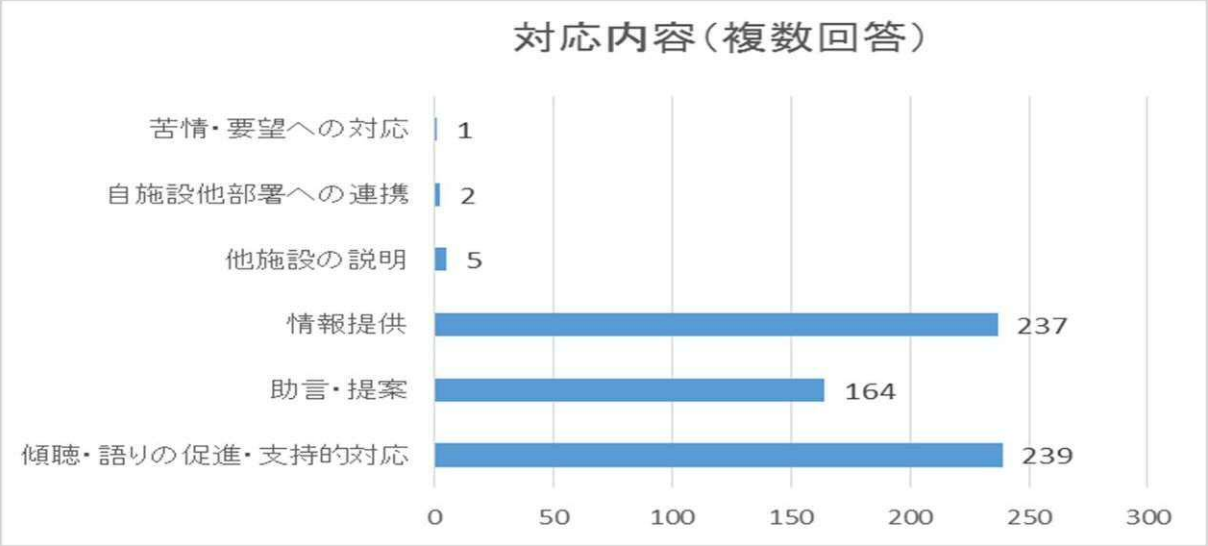
（ウ）がん患者サロンの開催

令和２年度　各種統計

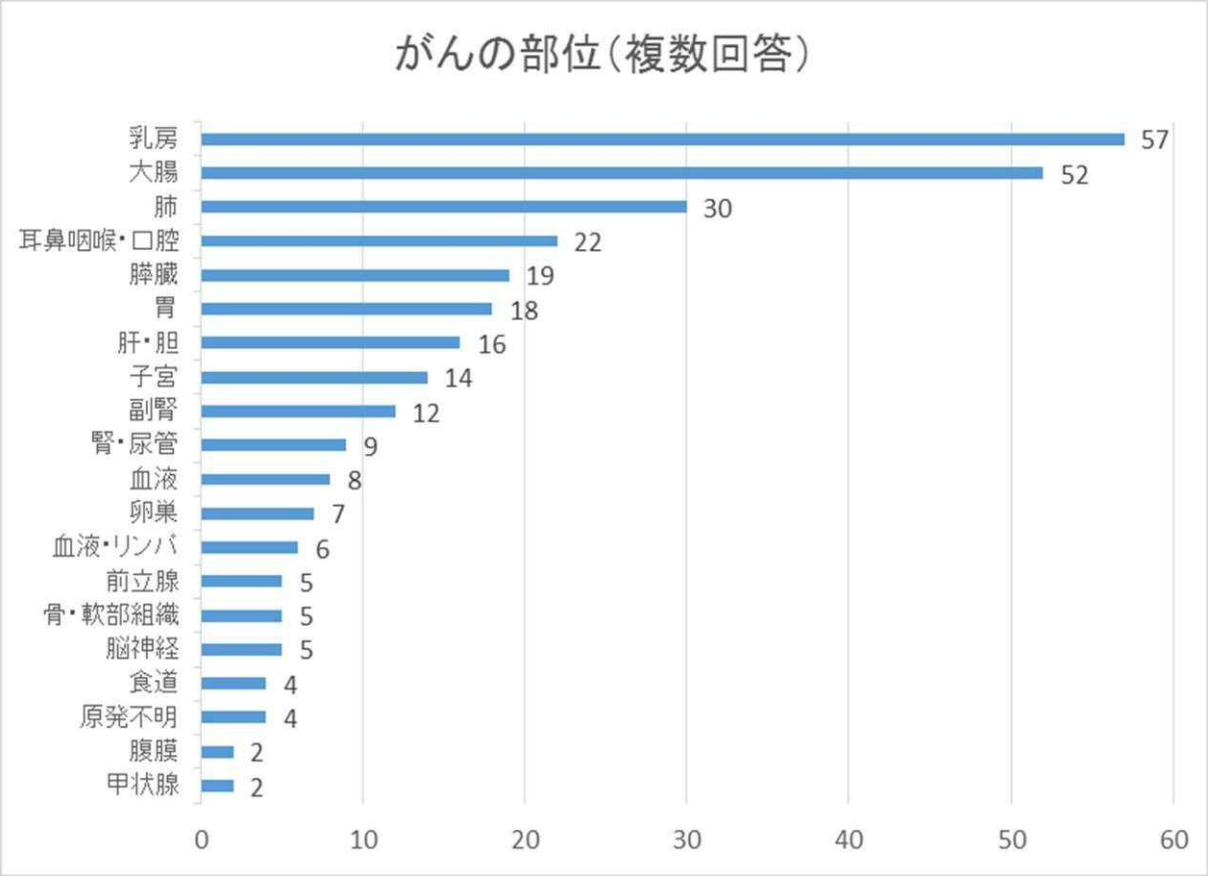
相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
対面相談	14	10	19	26	18	26	17	27	21	27	19	14
電話相談	4	5	5	5	10	5	3	10	8	5	4	4
相談件数	18	15	24	31	28	31	20	37	29	32	23	18

対応内容


対応内容（複数回答）
苦情・要望への対応
1
自施設他部署への連携
2
他施設の説明
5
情報提供
237
助言・提案
164
傾聴・語りの促進・支持的対応
239
0
50
100
150
200
250
300

がんの部位


がんの部位（複数回答）
乳房
57
大腸
52
肺
30
耳鼻咽喉・口腔
22
膵臓
19
胃
18
肝・胆
16
子宮
14
副腎
12
腎・尿管
9
血液
8
卵巣
7
血液・リンパ
6
前立腺
5
骨・軟部組織
5
脳神経
5
食道
4
原発不明
4
腹膜
2
甲状腺
2
0
10
20
30
40
50
60